卒業生が語る

# 合格への軌跡2023年

WAY TO SUCCESS

日本医科大２次正規合格
国際医療福祉大医学部２次Ａ特待合格

## 自分の高校は、医学部を受ける人がいなくて、一人もいなかったんで。周りに医学部を受ける人がいるっていう環境は、本当にすごい良かったです。

日本医科大進学　押久保 勇斗くん（芝浦工業大学付属高校卒）

## ここなら多分、いっぱい勉強できるだろうなって思いました。

浪人を決定しようと思ったときに、最初に駿台の説明会に行ってみて、確かに駿台はすごい有名だけれども、人数多いし、全員の面倒見れてんのかなっていうのを思って。ラボは完全に個別みたいな感じで、他の生徒と触れ合わないと思うんですよ。自分の立ち位置がわからないっていうか、なんで、他に高め合える仲間がいたほうが、モチベーション上がるかなと思って。で次に、代官山 MEDICAL 来たんですけど、石井先生と最初に面談して、結構、朝早くからやってるから勉強時間も取れるし、人数も、1クラスは少人数だったりするんで、先生がたも、一人一人見てくれると思うし、先生がたにも質問しやすいと思ったんで。駿台は多分、無理かなあみたいな思って、代官山 MEDICAL にしました、はい。あそこ（メディカルラボ）も、先生にも質問がしにくい環境でだし、先生に、大学生もいらっしゃいますし、先生方もなんか、講師室みたいな所に入ってて、生徒入っちゃ駄目みたいな。最初代官山 MEDICAL に来たときに、講師室、すごい普通に、行きやすい感じで、質問しやすいなと思いましたね、先生もたくさんいましたし、はい。いっぱい質問に行きました。いろいろな医専の中で、ここって、代官山 MEDICAL にして、すごいなんか、石井先生はオーラがあって。何だろう、ここなら多分、いっぱい勉強できるだろうなって思いましたね、はい。言葉で言い表しづらいんですけど。なんかもう、本当にオーラがあって、自信に満ちあふれてらっしゃって。ここなら大丈夫かなって、はい、第一印象で、そう思いましたね。はい、最後まで、第一印象が覆される瞬間はなかったです。

## 記述のとことか実験考察で、先生に、添削とか、質問もすぐそこにいらっしゃるので、とても行きやすかった。

現役のときに全部2次落ちして、代官山 MEDICAL に来たんですけど。最初は、まだまだだなと思っていて。でも、ま、何個か1次が受かってたんで、そんなに知らないこと、ないだろうと思っていたんですけど。実際、代官山 MEDICAL の授業とか受けてみて、なんか、普通に自分で勘違いしてたこととか、自分で知らなかったことなどがすごいあって、すごい刺激的でしたね。えっと、僕のクラスは生物の先生が3人いて、深瀧先生と、緒方先生と、石原先生ですね。で、深瀧先生が、結構ずばずば言って、最初からもう、全然違うよとか、結構言ってくださって。授業で順番に1人ずつ当てて答えさせるみたいな形式でやってくれて、それが結構、勉強になるし、僕は自分が間違えたら、結構気にするタイプなんで。それで、ちゃんと覚えられたりして、すごい知識の精度が上がって良かったです。知識として知らないものも結構あって。僕の高校はあんまり医学部行く人がいなくて、僕の代も1人だけで。なんで、あんまり先生がたも、あんまり医学部の問題がどういうのとか、熟知してらっしゃる先生がいないんですけど。代官山 MEDICAL は、医学部専門なんで、もう医学部のことだけ知ってる方、先生が多いんで。結構、医学部って結構、変な知識とか、細かい知識とか、いっぱい問われるんで、それを知れたので、はい、すごい良かったです。記述が出される上位の難しい大学は、いっぱい記述が出されるんですけど、参考書でやっても、なかなか自分の答案を見てもらう先生がいなかったりして、やりづらいと思うんですけど。代官山 MEDICAL だったら結構、先生に、例えば添削とか、すぐそこにいらっしゃるので、とても行きやすいですし。マンツーマンでも、例えば、セミナーの後ろのほうにある記述の問題を1週間、1週間で何個やるとか決めて、マンツーのときに出して添削してもらうっていう感じで、強制力みたいに付けてやることができるので、そこはすごい良かったです。考察は深瀧先生に見てもらいました。マンツー取ってたんで。結構もう、すごい研究されてるので、すごい知識も高校生物なんか全然飛び抜けて、大学とかの多分、生物の知識もある方ですし、本当に細かいところまで指導していただいて。記述、確かに、生物に関するミスとかだったりも指摘してくれるんですけど。日本語がなんかおかしいみたいに、てにをはが、おかしいとか、そういうとこもすごい、本当にすごいしっかりしていて、見てくれるので、本当に良かったです。

## 授業数は多くても、それでかえって、自習時間が十分にとることができるようになった、のは大きいです。環境が大きいです、ほんとに。

僕はあんまりスピードを今まで意識したことがなくて、現役のときに SEG っていう所に通っていて。そこは、医学部専門じゃなくって、東大とか、みんな理工みたいな、すごい塾なんですけど。そこであんまり、あんまスピードを意識しなくて、とにかくなんか、考えようみたいな。時間は無制限でじっくり考えてみようみたいな塾で。まあ、確かにそういうのもいいんですけど、医学部はやっぱ、スピードが、問題量がすごい多いですし、スピードがやっぱ問われるんで。代官

山 MEDICAL の授業は、1 学期は予習してそれを解説してもらって類題を演習していく感じだったんですけど、2 学期からは、テストゼミでみたいな、その場で時間を計って解くみたいな感じで。で、M1 は結構みんな、数学できる人が多くて、全然僕はそんなに、M1 の中では数学はそんなにめちゃめちゃできるっていうほうではなくて。それで結構、競い合ったりして。ノリさん ( 高橋典先生 ) の授業では、できた人は、手挙げてみたいな感じで言って。で、答え合わせして、じゃあ次、問題いってね、みたいな感じで、なんか合わないと、先、進ましてくれないんで。それで周りの人が結構、先、進んじゃう、進んでると、なんか、すごいショックなんで、それに負けないように 2 学期は、頑張ってましたね。授業の中では、数学だけじゃなくて他の化学や生物とかも自分で解く時間があるので、演習、結構取れると思いますね。他の授業外でも、結構、代官山 MEDICAL は本当に、やろうと思えばずうっと。僕は朝 7 時ぐらいから来て、授業がずっとあって 9 時くらいで終わると思うんですけど。空きコマとかも活用すれば、本当に、演習量取れる。日曜とかもずっと取れると思うんで、授業数も多いですけど、演習時間もきっちりやろうと思えば、取れると思います。ま、時間管理がうまくなりましたね、本当に。ついつい無駄な時間を無意識に過ごしてしまうところってあると思うんですけど、代官山 MEDICAL で時間の使い方も全然違ってきました。環境は、すごい大きいと思いますね。先ほど申し上げたんですけど、高校は、本当に医学部を受ける人がいなくて、過去問を一緒に解くみたいな人も、一人もいなかったんで。周りに医学部を受ける人がいるっていう環境は、本当にすごい、すごい良かったです。

## 先生から課題を出されて、しかも僕向けに合わせてくれて段階的にやってもらったのが、すごい良かった。

僕は、場合の数と確率がすごい苦手で、もう本当に、M1 の中では一番できないほうなんですけど。薄先生にプリントをもらってました。場合の数とか、確率のところを何年分もくれて。それをやって、薄先生を見つけたらそれ出しに行って、丸付けてもらうみたいな感じで。あと、もらったのはなんか、薄先生が自分で、過去問を集めたプリントみたいなのも結構、何枚だろう、30 枚ぐらい、ま、苦手だったんで、そもそも、自分でやってたら、基礎的な問題は、どうせできるだろうみたいな感じで、やんないで、なんか苦手なのに、難しいものに手を出しちゃったりして。で、結局、何も身に付かないみたいなこともあったと思うんで。先生からそういう課題を出されて、しかも僕向けに合わせてくれて段階的にやってもらったのが、すごい良かったですね。英語に関しては、θ の授業で、石井先生が、ランダムで当ててくださって。M1、上の、確かクラスだと、現役の人もいらっしゃって。その、

現役の人がいるのが、ちょっと、なんか嫌でした（笑）。なんか、そこで、石井先生に当てられて、間違えるのは本当に嫌なんで、はい。なんで、例えば、その θ でやる問題の、分からないところは、全部ちゃんと予習して、辞書で調べて、全部、当てられてもできるようにはしてましたね。それ、それが結構、英語の細かいところもちゃんと調べて、知識として身に付いたんで、はい、すごい良かったですね。大手とかだと多分、そういうのはあんまり。個人的に、あの人に負けたくないなみたいなのは思えないと思うんで。少人数だと、もう知ってる顔とか、名前とかも知ってるんで。間違えたら、多分、あの人、ばかにされてるかなあみたいなの思ったりして。それで、はい、すごいやる気が出ますね。鋪屋さん（頌栄女子学院：東京慈恵会医科大学進学）は、なんかすごい、ばしばし発言するっていうか、すごい気が強いというか。すごい、なんか、何だろう。間違いはあんまり恐れてないみたいな雰囲気があって。負けず嫌いだと思うんですけど。なんか間違えても、あ、違った、これだみたいな、すぐ訂正して、はい、全然、僕とは全然違う対照的な感じです。で、四ケ所さん（湘南白百合学園：横浜市立大学医学部医学科進学）は、基本的に多分、間違えたのを見たことない。僕、本当に、例えば、前行ってた予備校とか、高校とかで、質問とか、あんまりしようと思ってなかったんですよ。何だろう。質問とかして、めちゃめちゃ簡単なことだったら、先生に対して申し訳ないみたいな気持ちになっちゃうんですけど。でも、代官山 MEDICAL、結構みんな、どんどん質問しに行ったりしてるし。結構、みんなが結構質問に行っているんで、楽しそうに。なんで、それで僕もちょっと行こうかな、みたいな感じになって、現役時代よりは、全然質問に行ってましたね。

## マンスリーは入試本番を意識して、当日の朝をイメージして、自分のミスを集めたミスノートを作りました。

マンスリーのためになにかをやるっていうんじゃなくて、もう本番、実際の、入試の本番みたいに、もう日々のやってることの実力試しだみたいな感じで。特に、マンスリーに向けてなんかやるっていうよりは、もう

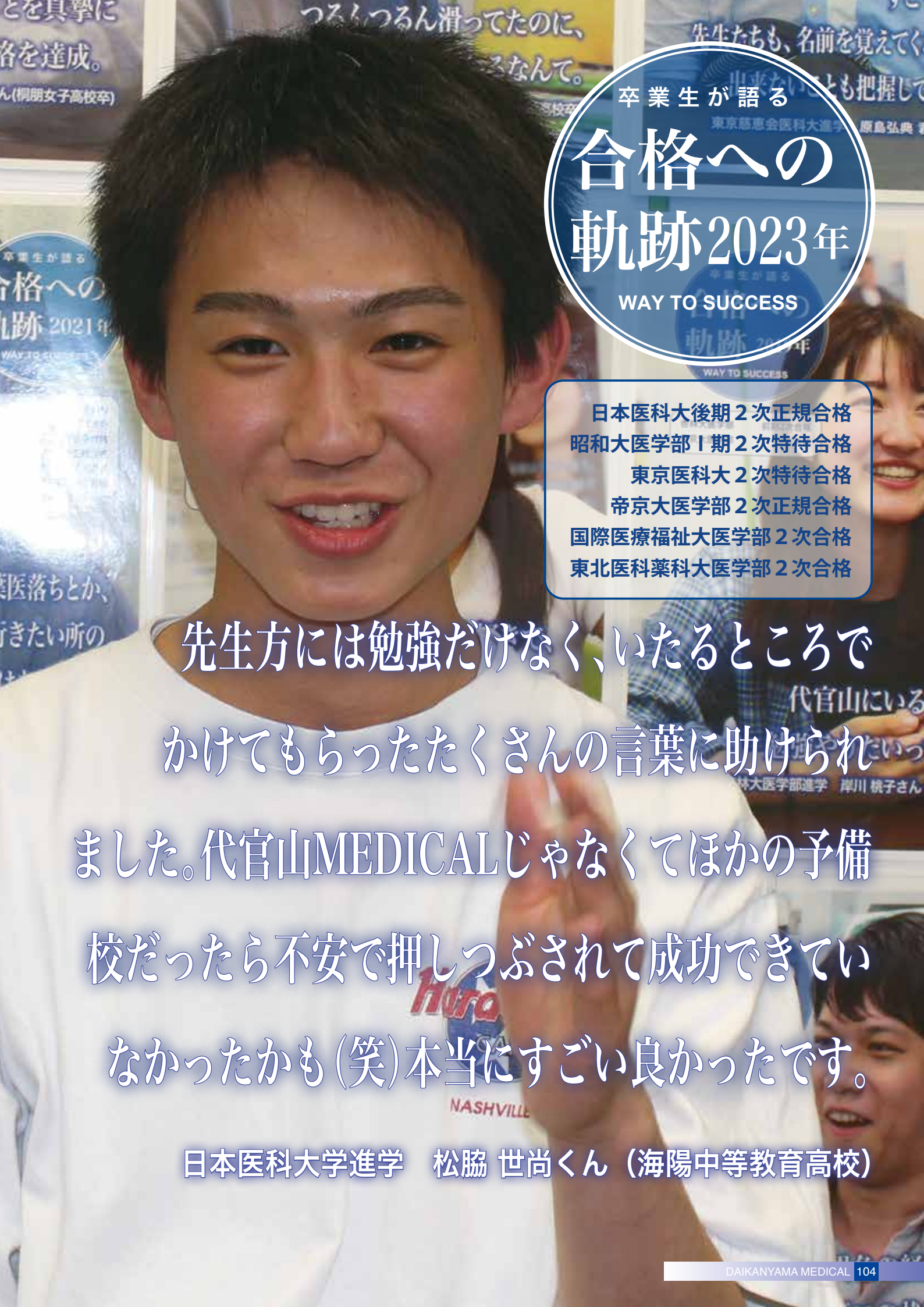
日々に、授業でやってることとか、自分でやってる課題とかを、こなして、それ身に付いたかどうかを試すみたいな感じでやってました。毎回、間違えたところも、小さいノートみたいなの、ミスノートみたいなもの作って、次は絶対、同じとこ間違えないと思ってやってて。本当に本番だと思ってやってたんですよ。実際本番に、例えば、休み時間の使い方とか、マンスリーが始まる朝の使い方とかも、本番を意識してやろうと思ってて。入試本番を考えたときに、まとめたノートを実際に本番に持ってこうと思ってたんで。4月からそういうのを作ってて。ミスノートとか、まとめノートとか作ってたんですけど、それを、マンスリーの休み時間とかで、見るようにして、本番を本当に意識した感じで。結局、そういうのが一番、合否に関わるのかなと思って。多分、そういうのって、他の人は多分、ミスんないから。他の人がミスんないのを間違えちゃうのが多分、一番やばいと思うんで。大手の模試だと、忘れた頃に返ってくるんで、でも、代官山 MEDICAL のマンスリー、本当に1週間ぐらいで戻ってきますし、やっぱり、結果も早く知りたいじゃないですか。なんで、本当に良かったですね、はい。多分、先生がたが作られてると思うんですけど。本当に医学部を、入試を意識した感じで、絶対取れないような問題とかも1個、入れてたりしてて。マンスリーは、そういうなんか、変な問題、奇問みたいなのがあるんで。それは、はい、すごい良かったです。先生がたも、そういうのを、アドバイスしてくださって。例えば、生物とかでの問題で、このタイプの問題は、結構、時間がかかるから、後回しにして他のやったほうがいいよとか言ってくださって、はい。それもすごい良かったですね。本番、そういうのって多分、本番を意識してるじゃないですか。全部解くんじゃなくて、取れるところを取るみたいな、はい。すごい良かったです。

## 毎日、勉強のことだけ考えてましたね。もう、1日は、すごい早くて。気づいたら、もう入試直前だみたいな感じでしたね、本当に。

基本的には、本当にずっと勉強のことしか考えてなくて。朝も、コンビニでグミとお茶を買って、2号館に行って、自習室に行ってっていう。その後は、基本的に、もう2号館から出ない。本館に用がある以外は、本当に全く2号館を出ない生活してて。そもそも外に行く用がないし、なんで、席もほぼ立たない。で、トイレと、お昼にお弁当を食べる以外には、基本的には、席を立ってなかったりする。ずっと集中できましたね。2号館1階に先生がいつもいらっしゃるので、成績を見せに行ったりして、落ち込んだ時もメンタル補強してくれたり、緒方先生に、マンスリーを見せに行ったときに、最後は、ちょっと不安になってたんですけど。でも、見せに行ったときに、もう成績的に上昇カーブからみて、大丈夫、大丈夫でしょうみたいな感じに言われて、それがもう、結構良かったと思いますね。例えば、宅浪とかしてたら、絶対、集中力っていうか、受験までモチベーションが保てないと思うんですよ。こういう医学部専門予備校だと、いろんな人からアドバイスもらったりしてやったほうが絶対、いい所行けると思います。はい、もう、ロボットみたいな感じで、なんも考えず過ごしてって感じで決めてました。もう、1日は、すごい早くて。気付いたら、もう入試直前だみたいな感じでしたね、本当に。本当になんか、毎日同じようなこと、行動をしてると本当に、1日は本当に、すごい早いですね、はい。一瞬ですよ。マンスリーとかウィークリーとかで、点数ランキングが70番ぐらいまで張り出されるんで、名前が出てると、それでいい気持ちになったりして、それがすごい、うれしかったんで。何ていうか、勉強は終わりがないですし、なんで、やればやるほどできるようになると思うんで。それで、いろんな新しいこととかを知るのが好きなので、なんで、飽きなかったんだと思います。生物の講師の方々は、本当に代官山 MEDICAL は、すごいいいですね。多分、もう、日本で一番いい、はい。

## 最後に、後輩へ一言。

本当に代官山 MEDICAL は、どの予備校の中でも一番、勉強時間取ろうと思えば取れますし。本当に、ずっとやれば、ずっと勉強していれば絶対、最初はそんなにできなくても、ずっとやってれば、全然上位の御三家とかも、全然狙えると思いますし。先生がたのレベルもすごい高いと思うんで、勉強以外のことは本当に考えずに、ずっと、浪人中は勉強していけば、大丈夫です。確かに、不安とかあると思うんですけど、先生たちに相談すれば、絶対ちゃんとした答えをおっしゃってくれますし、本当に信頼していただいて、勉強してください。応援しています。



卒業生が語る

# 合格への軌跡2023年

WAY TO SUCCESS

日本医科大後期２次正規合格
昭和大医学部Ⅰ期２次特待合格
東京医科大２次特待合格
帝京大医学部２次正規合格
国際医療福祉大医学部２次合格
東北医科薬科大医学部２次合格

先生方には勉強だけなく、いたるところで
かけてもらったたくさんの言葉に助けられ
ました。代官山MEDICALじゃなくてほかの予備
校だったら不安で押しつぶされて成功できてい
なかったかも(笑)本当にすごい良かったです。

日本医科大学進学　松脇 世尚くん（海陽中等教育高校）

## M1 クラスでスタートしてやろうと思ってたんですけどね。逆に M1 クラスにならなくてよかったのかも。

海陽学園っていう愛知県の寮にあるところだったんで、遠かったんですよね。なんで、高 3 の夏期講習のときだけマンツーマン､化学のマンツーマンとって、でも化学は偏差値が結構上がりましたし、結構できるっていう自信が高 3 のときには持てましたね。でも、やっぱり、化学だけ出来てもうまくいくわけもなく、受験では全滅でした（笑）もう、現役の時の成績だと、お試し受験みたいなとこが多かったですね。もう浪人の準備に入って、実際浪人生活が始まって、最初に躓いてしまって。4 月のマンスリークラス分けテストが思うように全然できなくて。で、もうこれ M クラスじゃないなと思ってたんですけど、まあぎりぎり M クラスの M5 には残れて。でも薄先生には、「おまえ M1 に入れよ！」って言われてて､なのに M5 だったんで、ものすごくショックでしたね。期待させてしまってたなみたいな、なんかごめんなさい、みたいな感じでした、はい。でもそのとき薄先生にも「これぐらいが妥当じゃない？」って言われて、ああやっぱ自分のその、学力って、まだまだこのレベルなんだなっていうのは、見せつけられたっていうか、自覚したって感じです。まだまだこれから一生懸命やんなきゃ駄目だなと。

## サボれば簡単に成績は下がる。やればやった分だけ伸びる！

最初のクラス分けテストの化学偏差値 69.3 で、すごく化学できるわ〜って過信してしまって。もう勉強しなくてもいいやって。5 月のマンスリーテストでは偏差値 45.1 ってものすごく落ちちゃいましたね（笑）一方、数学が一番伸びて、最初のクラス分けテストの偏差値 55.1 っていう数字が最終的には 12 月の第 9 回では偏差値 72 になりましたね。やっぱやるべきことやっていると偏差値伸びていくもんですね。今振り返ってみると、このやり方が良かったんだなっていう理由があって。自分の中で「あ、こいつできるな」って思っていた人に「一緒にやらない？」って誘って、グループを作って 11 月から過去問をずっと解いてたんですよ。髙谷（髙谷修志：順天堂大医学部進学：芝高校卒）ってやつとずっと、一緒に自習スペースで勉強してました。そこでずっと、何でこうなるのみたいな質問し合ったりとかして、そういうとこで復習の時間を作ってました。薄先生からもらった“私立医大 50 年分”っていう、過去問集があるんですけど、それを自分よりもレベルが高い人たちと解くことによって、レベル向上を図ったことがものすごく良かったなと思いました。解き合いを始めて、それを先生にも見てもらったわけです。1 週間に 1 回、その過去問解いたやつを持っていって。で、そこで「いや、ここは取れないと駄目でしょ」みたいな駄目出しをしてもらっていました。でもそのおかげで、数学がすごく伸びましたし、最終的に切磋琢磨した人と一緒に大学行けることになってよかったです。

## 復習する時間がないって思っているうちはダメですね。作ろうとしなきゃ！

最初のほうは結構焦りましたね。結構復習する時間ないなと思ってて。でも、だんだん慣れてくると、無駄な部分がそぎ落とされていって、これぐらいがちょうどいいって思える感じになっていきましたね。やっぱ時間って自分でつくらないといけないですし。ましてや 1 年で合格するってことを考えれば、やはりどれだけ自分の時間を濃密にするかってところが大事ですよ。登校は､絶対 7 時に。いつもと同じ電車乗って、いつもと同じ歩くスピードだときっちり 7 時に来れるんで。それぐらいルーティン化したほうがいいかなと思います。石井先生の授業でもルーティン化しろっていう話あったりしたんですよ。タイムカードも毎日やったほうがいいと思います。自分でこういうのをできない人､サボっちゃう人とかいたと思うんですけど、そういう人見てると､言っていいのか分かんないけど、やっぱり成績がどんどん落ちちゃってて。やっぱり登校時間を意識するっていうのは、勉強への意識にまで反映されてるんだなって思いますね。

## 石井先生の θ の授業が楽しみすぎて（笑）

石井先生は θ の授業で毎回すごいためになることを、話してくれてましたね。あの授業があったから 1 週間のモチベを保てられたっていう感じのところはあります。「人間は無駄なことをしないと非合理的なことをしないと合理的になれない」っておっしゃられてて、僕はものすごくその言葉が刺さって。僕は現役のとき、本当に無駄なことっていうか、効率の悪い勉強の仕方をずっとやってて。浪人になってしまったけど、僕にとっては現役の時の勉強は無駄じゃない、むし

ろ、それがあったからこそ、浪人になってから効率的に勉強できてるんだろうなって感じていたので。そこで先生がそれをおっしゃられたときに、「ああ僕はやっぱり間違ってなかったんだな」って思えて。その話のおかげでますます頑張ろうという気持ちになれましたね。それだけじゃなくて、人間として成長するためにみたいな話、人生においての知恵、学びなどの話も結構教えてもらいましたね。代官山 MEDICAL 来る前は、著名人が言ってる言葉をちらっと目にして、「へぇ、そうなんだな、頑張ろうかなぁ」みたいに一瞬だけやる気上がってみたいな感覚だったんですけど。人の話を聞いてここまで身に染みて感じたのは、石井先生の授業が初めてでしたね。すごいいい経験でした。あと、僕は一番前に座ってたんで、もうめっちゃ見てくるんですよ。めっちゃ目が合うんですけど、それでもむちゃくちゃ集中してました。やっぱり緊張するけど、どうしても前に座りたいっていう気持ちもあったんですよ。だって席取りでしたからね。前、絶対前取るって決めてましたね。しかも先生がそういうためになるお話をするときって一番前の人と目を合わせて話してて。一回だけ後ろの席行ったときに「あれ？先生と全然目合わないな」と思って、やっぱ一番前に座ったほうがいいんだなと思ってましたね、はい。

## 石井先生だけじゃなく、ほかの先生も心に残る言葉をいっぱいもらえました。

いつも薄先生に「ちゃんと人間として真っすぐ生きている人間こそが、上位校に受かるんだ」と言われた言葉があって。僕は今でも性格ひん曲がってますけど、でも昔よりかは結構真っすぐに近くなってきたのかなみたいな。そういう言葉を 1 年間言い続けてくれた先生のおかげです。薄先生は本当に、ずっと寄り添ってくれましたね。薄先生結構忙しいじゃないですか。だけどもやっぱり忙しいとは言いつつも、話してくれる時間だったり、チャンスだったりっていうのは作ってくれてたんです。薄先生が帰るタイミングで、僕が質問を持って行っちゃったことがあったんですけど。それでも「全然いいよ」って言って、残ってやってくれて教えてくれてということがあって。ああ、本当にいい先生だなって思いました。三上先生に言われた言葉も心に残ってますね〜。11 月と 12 月のどっか忘れちゃったんですけど、その時期に僕が、慈恵と日医の過去問を解いて持ってったときに、三上先生に「おまえこんなんで受かろうと思ってんの？」みたいに言われて。「え、いや、僕なりにはめっちゃ真面目に解いてったつもりなんですけど？」って思ってて。でも、例えば、計算をする場所とか、その解答の書き方が、雑だったりとかしてたのを先生はちゃんと見抜いてて「いやこれで受かろうとしてるなら無理だよ。このままじゃ受かんないよ」って言ってくれたんですよね。そのときちょっとむっとはなったんですけど、先生が真剣に僕の雑な部分が駄目であることを伝えようとしてくれてることもわかって、「そうだよな、改善しないといけないよな」と思って、あのとき三上先生が厳しいこと言いながらも、慈恵の過去問とか一緒に解いてくれてなかったら、本当に上位校になんか受からなかっただろうなって今では思います。解き方っていうか、そういうのを厳しい言葉を言いながらやってくれたのが、僕にとってものすごくためになったっていうか、三上先生だからこそ、そういうことできるのかなって思います。それで言うと、僕は薄先生と緒方先生にもすごく怒られてるんですよね。僕が 10 月ぐらいに結構調子に乗っていたタイミングがあって、慈恵とか日医の過去問解きまくっちゃってて。それでそのときに薄先生に「おまえまだこんなに基礎ができてないのに解こうとするなよ、もうちょっと簡単なものをいっぱい解け」ってめちゃめちゃ怒られて。薄先生に初めてそんなに怒られて、しかも薄先生が怒ったっていうエピソードも聞いたことなかったんで、ものすごく悲しくなったのは悲しくなったんですけど、でもあのとき、そのまま止めてくれずに、そのまま日医とか慈恵の過去問を解き続けてたら、全然数学とかも伸びなかっただろうし、受験結果ってどうなってたんだろうっていうか、あんまり想像したくないんですけど、危なかったかもしれないですね。

緒方先生には、あるときのマンスリーテストで、化学を 60 分かけて解いて、そこから生物を解こうとして、しかもそのときの生物がちょっと難しくて。ああもうこれはもう全然みんな取れないなとか思いながら、記述とかもあんまり書かずに、テスト結果として出したわけなんです。そしたら緒方先生が「なんだ、あの解答用紙は！？慈恵とか日医行くようなやつの解答用紙ではない！」ってめちゃめちゃ怒られて。そのときは総合偏差値もものすごく下がってた時期で、ものすごく気持ちも落ち込んでたときに、ずばって言われて。そこで「もっと貪欲に点数を取りに行けっていう、そういう姿勢が足りなかったんだろうな」と思って、そういうところを分かってくれてるんだなと思って、そのときはものすごくうれしかったです、緒方先生。あ、村上先生に言われて心に残っている言葉もありますね。僕が「マンスリーテスト緊張しちゃって、うまいこと解ききれないんですよね」ってことを言ったら、「いや、スリルは楽しむものだよ」って言われて。よく聞く言葉ではありますけど、そのときの僕にとっては結構刺さって。それ言われてから、僕自分が緊張しているときに客観視できるようになって、「ああ、いい感じの緊張だな」って、客観視して臨めるっていうのが、上位校とかの受験のときにめっちゃ役立ちましたね。

## ウィークリーテストもマンスリーテストも試験本番のためにとても役立った。

マンスリーテストは 9 回もあったんで、テスト慣れっていうのがものすごかったですね。英語のテスト

を受ける前に、英語の音読をしたほうが長文を早く読めるってことにあるとき気付いて。で、それをやってマンスリーでうまく解ききれるって手ごたえを得て。受験本番もそれをやることで緊張することなくいつものトーンで受けることができましたね。ほかにも試験前にストレッチをマンスリーのときもしてたし、受験本番のときも、周りの目を気にせずできましたね。ウィークリーテストでは、数学はなんかいつも満点取りにいこうっていう感じでやってたんですけど、満点取りにいこうとすると、毎回計算ミスとかしてたんですね。で、「計算ミスをするのは、自分に余裕がないからだ」ってあるとき気づけて。だから自分の余裕を増やすために解法をすんなり出せるようになるとか、そういうところに時間を割くべきだっていうのはウィークリーテストを重ねることで得られたものなんですよね。

### 成績の上下変動ってあっても、そういうときこそ諦めるわけにいかないぞというふうに自分を立て直してましたね。

夏に成績が一番下がってしまったんですよね。今振り返ってみると、努力してる気になっていたんですよね。じゃあ周りと差をつけるために、どういうことをやればいいかっていうのを夏からずっと考えてて。で、周りと差をつけるためにただ単純に量を増やす。質ってのは代官山 MEDICAL の教材やって、あと集中力さえあれば保てるはずで。でも量ってのは自分次第って感じなんで。あと自分に合った勉強法を確立するってことが、夏で一番大事だなって感じたことですね。例えば、自分が集中のスイッチ入れるときに、単語帳を 10 分見たりとか、英語の文章の音読だったりとかですね。そういうのを確立して、毎日繰り返してたら、10 月ぐらいから成績上がったんです。10 月、11 月ぐらいになるとみんな落ち込むっていうか、結構不安になる時期があると思うんです。けど、そういった時期に“どうやって自分をいい方向に持っていくか”っていうのが、ものすごく自分自身に問われてた気がしてて。僕は、このままじゃ受かんないとか不安に思ってたときには、「ここで諦めたやつが落ちるんだ」「ここで諦めなかったやつがやっと勝負できる」っていうのはずっと心に言い聞かせて、いい方向に持っていこうとやってましたね。あと、薄先生とか緒方先生とかと話してると、もう僕が上位校に進むっていう、それを前提にして話してくれてて。それも気持ちを奮い立たせてくれる言葉でしたよね。そういうふうに先生とか話して、自分のことを支えてくれてる先生がめっちゃ自分のことを思って言ってくれてるのに、ここで諦めるのは違うなって思えましたね。本当に支えてくれた先生たちのためにも頑張ろうと思えましたし。あと、お兄ちゃんお姉ちゃんが、ものすごく勉強の相談に乗ってくれてて。兄ちゃん（松脇伊吹君：東京医大進学：高輪高校卒）、姉ちゃん（松脇萌恵さん：東京医科大進学：栄東高校卒）も上位校狙って、兄ちゃんは慈恵 1 次は通ったけど二次はダメだったんで、代官山 MEDICAL 松脇家 3 人目にしてやってやろうっていう気持ちも自分を奮い立たせるものになってましたね。

### 今年受験を頑張る代官山MEDICAL生にむけて

最後まで諦めないことですね。諦めたくなることが何度もあると思うんですけど、でもそこで諦めちゃうと、やっぱり受かる人も受かんなくなっちゃうんで。本当に諦めないでほしいです。あとそれと似たようなことではあるんですけど、後悔をしない受験生活を送ってくださいってことですね。将来振り返ったときに、自分のことをなんか誇りに思えるような、そういう受験生活を送ってもらいたいです。

卒業生が語る

# 合格への軌跡2023年

WAY TO SUCCESS

日本医科大後期２次正規合格
昭和大医学部Ⅰ期２次正規合格
東北医科薬科大医学部２次正規合格
東京医科大２次合格
杏林大医学部２次合格
帝京大医学部２次合格
岩手医科大医学部２次正規合格

## 勉強はやればやるほど不安になる、
## 不安って向き合うと大きくなるから、
## 目の前の小さいことを潰していく、
## その不安は合格でしか消えないからって。
## 石井先生の言葉は大きかったなって思います。

日本医科大進学　大野眞理子さん（東邦大付属東邦高校卒）

## 代官山 MEDICAL に来た経緯は？

えっと、進学先は日本医科大学です。ハハハ。3 浪目で、あ、はい、3 浪目でここに来ました。1 浪目は、駿、ん違う、四谷学院に行ってて、2 浪目は駿台に行ってました。やっぱり、大手だから、一応、担任制みたいなのあるけど、なんか、半年に 1 回、面談するぐらいだし、すぐ相談行ける先生でもなかったし、まあ、そもそも担任の先生も医学部、詳しいわけじゃなかったっていうか、私に付いてくださった方はあまり詳しくなかったので、医学部何校ぐらい受ければいいですかとか聞いても、「んー、まあ、体力が持てば、受ければいいんじゃない」みたいな感じで、あまり具体的なことはおっしゃってくださらなかったんで大手は、そういう意味だと、ここ ( 代官山 MEDICAL) は、医学部受験に対するサポートみたいなのはすごい熱いと思います、こっちのほうが全然…。青葉先生とか長澤先生とかにも、そういう面では、ここ受ければいいんじゃないとか、すごい参考になったし、石井先生にも、これでいいと思うっていうふうな言葉をいただけて、本当にこれで、よし、じゃあこれで行こうって、迷わずに決められたのがいいかなと思います。そうですね、なんかもう、石井先生がいいっておっしゃったら、それでいいって、もうそれ以上悩まずに済むので、無駄な時間は少なかったかなと思います。

でも、本当に、なんか、1 浪目とか 2 浪目とかの 12 月とかが、本当に、人生暗黒期みたいな感じで、なんか正直、本当、2 浪の終わって 3 月、もう 3 浪、決定してる 3 月とかが、本当にもう真っ暗過ぎて、もう自分どうなんのみたいな、将来どうなんのみたいな感じで。逆に、4 月、代官山 MEDICAL 入って、ここで 1 年頑張れば、真面目に頑張れば合格できるだろうっていう、なんか、その安心感もあったんで、今年 1 年は、もちろん、しんどいこともあったけど、勉強が手に付かないほどしんどいみたいなことはなく、結構、安定して勉強できたかなと。山岡さん ( 山岡愛英 : 田園調布雙葉：昭和大医学部進学 ) ていう、昭和の、もう本当に、入塾決めたきっかけみたいな人で。そもそも、2 浪の終わった 3 月のときに、もう本当に、もう、お先真っ暗みたいになって、本当にどうしようって悩んでたときに、代官山 MEDICAL を見たら、3 浪の女の子がいるってなって。あ、3 浪の女の子って、私以外にもいるんだって、まずなって。さらに、昭和、受かってるってなって。じゃあ、ここで私も受かれるかな、みたいな感じで、もう、なんか結構、勉強、憂鬱になったら、軌跡 ( 合格への軌跡 ) を読み込んで、みたいな感じでしたね。だから私も、結構、山岡さんみたいになりたいなと思って、ずっと勉強してたんで、本当に、昭和、前期出たときは、本当にガッツポーズしましたね。

目標を見失わずに、そうやって軌跡、読めば、その人の言葉だし、だから、なんか、直接自分に伝わるから、なんか、そういう、ロールモデルじゃないけど、いると、だいぶ、なんか、その目標が達成されたときも、何倍もうれしいし、みたいな感じだと思いますね。

## 大手と代官山 MEDICAL での時間の使い方って、違いはありましたか？

私は結構、1 浪目、2 浪目のときは、どちらかというと、自習時間で何やっていいか分かんなくなっちゃうタイプで、なんか取りあえず授業の復習やって、あと、なんか自分で参考書探してやんなきゃいけないのかな…、みたいな感じで、なんか結構、自習時間に手ぶらになっちゃう、みたいなことが多かったんですけど。ここ ( 代官山 MEDICAL) はもう、本当、授業とその復習だけで本当に、おわっーて、時間がぱんぱんになるし、逆に、本当、決められたことさえやっていれば、もう、どんどん成績は上がっていくみたいな感じだったので、自習時間は私的には、そんな少ないなって感じたことはなかったです。逆に、大手でやってた時より、勉強時間も、結構、代官山 MEDICAL で随分増えたっていう、めちゃめちゃ増えましたね。なんか、高 2 とか高 3 のときの自分の受験に対する姿勢がひど過ぎて、1 浪目、2 浪目も、自分なりには結構、頑張ってるつもりだったけど、今年の 1 年と比べると振り返えると、もう全然だったなぁって思います。

## M コースで入学ですか。最初のクラスはどこからスタートだったのですか？

最初は A3 スタートでした。2 浪目のときの 11 月の模試成績で、なんか普通に、M コース入れたんですけど、4 月のマンスリーで、普通に成績順で A3 に入って、最初は本館かって思ったけど、まあ、そこから頑張りました。結構、ショック、そうですね。まず、なんか、普通に 2 号館に入れるもんだと思ってたので、なんか、いざ本館と思うと、一気になんか、やばいっていう気持ちになって、逆になんか、中途半端に 2 号館の一番下とかで始めるよりも、なんかエンジンはかかったのかなって。やっぱり、自分の 1 浪、2 浪、振り返って、なんか穴が多いなってことに、思いながらも、逆に下のクラスだからこそ、ここはもう、全ての問題を完璧に解けるようにしようみたいな感じで、本当に完璧にしよう、文字通り完璧にしようと思って、全部ちゃんと復習してやってました。やっぱり、こう、謙虚なところというか、自分に足らないところを、はい、大事だと思うし、やっぱり、1 浪とか 2 浪とかだったら、なんか、ここは出ないかもしれないから、まあいいかって、捨てちゃいがちだったけど、やっぱりそれじゃ無理だなって思って、もう、落ちたんだからスタート地点は、3 浪じゃなくて、もう本当に、現役生と一緒みたいな感じで、もう、おごらずに頑張りました。A3 のときは、夏直前ぐらいまで本当に 1 人でずっとやってて、夏直前ぐらいに佐分さん ( 佐分咲輝：西武学園文理高卒：昭和大医学部進学 ) が「夏期講習どうする？」って話し掛けてきてくれて、そっからずっ

と、佐分さんとは直前期までずっと仲良かったです。

なんか相談できるとかいうのは結構、心強かったと思います。なんか大手って、本当に1人で受けに行って、本当1人で帰ってみたいな生活で、なんか本当に、誰ともしゃべらず1日が終わるみたいな感じで、それが結構、2次にも影響あったなと思うので、こうやって日頃から普通に、何げないことをしゃべることっていうのも、なんかすごい大事だったなと思います。なんか、やっぱ大手だと、私、駿台が市ヶ谷じゃなかったので、普通に東大・京大志望の人たちと同じ教室で、私立医コースの人が10人しかいない、みたいな所で受けてたんですけど、そうするとやっぱ、なんか、東大の人は東大受けるからこの問題解けなきゃ駄目だけど、私は別に私立医だからいいかみたいな感じで、勝手に自分で問題、選別しちゃったところがあったんですけど、ここはそれはないから、自分で本当、出された問題全部解けれるようになればいいし、あと、周りもみんな医学部志望だから、なんか団体戦みたいな感じで受験に挑めるのも、すごい良かったと思います。なんか本当に、実際の受験会場で代官山MEDICALの子いて、なんかライバルってよりかは仲間みたいな感じで、みんなで受かろうみたいな、そういう空気があったのは、すごい力になりました。全然違いますね、安心感が。聖マ(の試験会場)とかは、もう本当に、そこら中に、もう視界に5人ぐらいいました。一緒に自習室、隣だった、長井花蓮ちゃんとか、あと、ずっとA3から一緒だった櫻井理沙ちゃんとかが一緒だったときは、なんか、いつものメンバーみたいな感じで挑めましたね。

## 授業の中の雰囲気はどうでしたか？

それは、すごく良かったかなって思いました。特に、あの、深瀧先生がめちゃめちゃ当てるんですけど、深瀧先生が最初、こう、端からばーっと当てていくときは、なんか、自分じゃなくても絶対考えるようにして、それで、なんか結構、そう、頭を回転させるみたいな力は、すごい、そこで身に付いたなって思います。やっぱり、グループ面接というか、集団で面接したりとかするときも、相手の話、聞いて、みたいなところありますから、人の発言から何をどう答えようかとか、あの人こう答えるんだとか、それ、もっといい答えだなとか、そこから参考になることもいっぱいあります。医学部だけに絞ってやるっていう環境は、自分にはすごく合ってたと思います、はい。やっぱなんか、私立医っていうふうに、狭めたとこでいくと、やっぱりなんか、もうちょっと代官山MEDICALのほうが特化してるかなっていうふうに思ってて、なんかやっぱ、やっぱその、めっちゃ難しいことができるよりも、基礎が盤石なほうが絶対いいっていうふうに思ってて、この、前期のスタ(スタンダード)のテキストとか、めちゃめちゃ役に立ったかなと。それで、基礎盤石にしちゃえば、なんか逆にテストで、これは解けなきゃいけないやつ、これは解けなくてもいいやつっていうのも分かるので、それは良かったかなって。やっぱ、慈恵、日医とか狙うんだったら、後期のテキストもちゃんとやらなきゃいけないけど、その後期のテキストをちゃんとやるためにも、前期のテキストを盤石にしないといけないっていうのがあるんで、前期は焦らずに、前期のテキストを本当に文字通り完璧にすることが、一番いいんじゃないかなって、どの先生もおっしゃってたんで、もう、そうなんだなって思ってやってましたね。

## 大野さんは苦手科目は何だったんですか。

英語ですね。もう群を抜いて英語です。ハハ。青葉先生とか、こう、マンツーを取ってる子たちで、復習テストみたいな小テストやって、結構、点数とか話して。とにかく、青葉先生は前期で授業を持ってもらってて、それで、初めて5月かなんかのマンスリーを見せに行ったときに、なんか、「なんで英語がこの点数で総合ランキングに載ってんの？」って言われて、それで初めて成績表を見せたら、理系科目、数学・生物・化学が、全部もう偏差値60超えみたいな感じなのに、英語だけ40台みたいな感じで、もう本当に英語が、一つだけ悪いみたいな感じだったんで。そのときに青葉先生がそれを見て、じゃあ、って次の週に、「大野英語強化計画」みたいなのを作ってくださって、夏までにこの文法テキストやって、並行して、単語帳もやってって、あと、英作文も週1本出そうみたいなふうに、直前期までの計画を立ててくださって、本当、それに沿って、本当に直前期の1月20日とかまで、その毎週の英作文の提出はやってたし、そういう感じ

で青葉先生は、結構。あと、長文とか文法とかも、私の英語の全てを見てもらってましたね。はい。なんで、もう、英語の記述がない大学っていうか、その、あんまり重要じゃない大学ばっかり、なんか正直、目指してて。まあ、日医なんて、本当、受かると思ってなかったんですけど、やっぱ最後の最後で、なんか、ちゃんとこうやって毎週やってきたことが、実を結んだんだなって思いますね。自分が最初、本当４月にそういう、日医なんて全く考えてなかったけど、青葉先生がそうやって、やっていただいたおかげで、こうやってちゃんと記述の力が付いて、合格できたと思うので、やっぱり、そんな自分なんてって思わずに、先生が言ってくれるんだったら真面目に努力してみるっていうのが、結構、自分の想定外なことにつながる気がします。

## 去年までの受け方と今年の受験の仕方は変わりましたか？

そうですね。なんか、今までは、こんなやつが医学部受けて笑われるな、みたいな感じの成績で、なんか、感じの気持ちで臨んでたけど、今回はなんか、本当に受かりに来たっていう感じで臨めたと思います。今年は、あんまり家でだらだらしてなかったと思うし、やっぱ、ちゃんと勉強やってるっていうのは親にも伝わってたと思うので、そういう面では、あんまり厳しいことも言われなくなったし、結構、まあ、自分で頑張りなさいみたいな感じで言ってくれたような気はします。でも、どちらかというと、親も、なんか、自分で気付かないと、多分、動き出さないじゃないですけど、自分で気付かないと本気で勉強しないんだなという、みたいな感じで、もともとあんまり、そんなガミガミ言ってくるタイプじゃなくて、なんかその都度、「あんた、どうすんの？」みたいな感じでだったんで、ちょっと時間はかかったけど、こうやって代官山 MEDICAL に来て、よかったかなって思います。特に、ここに来て、隙間時間みたいなの使い方も、うまくなったなと思います。去年までは、隙間時間とか、携帯いじって終わりみたいな感じだったけど、なんか今年、代官山 MEDICAL で、隙間時間にいろいろ、勉強とか詰め込んでたおかげで、なんか今、大学でも、ちょっとこの時間で課題やっちゃおうみたいな感じで、すごいそれは生きてる気がします。

## 予習とかって、どのタイミングでやっていましたか？

予習は、前日の空きコマとか、普通にやってましたね。そんな、はい、特殊なほうではないかな。多分、生物は、自習席ではあんまりやってないし、化学もテキストの予習と復習ちょっとしてみたいな感じで、本当に、ほぼ全ての自習時間を英語に費やしてた気がしますね、なんか、はい。とにかく、英語が断トツで悪かったんで、で、英語だけかけ過ぎてたら、ちょっと数学が怪しくなってきたんで、英・数にちょっと、後期からは数学も増やしてって感じでやってましたね。私、気付くと、なんか、理系科目を手に取ってしまうんで。もう、ハハハ。

自分の自習席の、目の前、正面に英語の○○って書いて、なんか時間ちょっとできたなーってときは、まず英語を手に取るっていう、なんかもう、その習慣から気を付けてましたね。

それはもう、本当に手遅れにならないうちに、もう、苦手だって気付いた瞬間から、マンツーの先生とかに、もう、「助けてください」って言いに行って、一緒に。私、自分がやっぱり嫌いだから、苦手なところが大きいと思うんで、やっぱ、一緒に向き合ってくれる先生と一緒にだと、頑張れるかなって思います。

最初、代官山 MEDICAL では電子辞書、駄目よって言うじゃないですか。紙辞書でねって。なぜなら、紙辞書で、自分が引いた所は必ずマーカーして、で、もう一回同じ所を引いてしまったら、自分が覚えてない所を自覚するために紙辞書しなさいってするじゃないですか。引いたっていう動作の記憶と一緒に、なんか結構、へーって思ったり、したりすることもあったんで、意外とそこは苦じゃなかったです。

## ふーん。逆に、苦だったのは何ですか。

えー、何だろう。でも、結構、予習、石井先生の授業は、やっぱ、当てられるのが結構怖くて、結構、毎回、緊張しながら予習してたんですけど、それで、1回、石井先生の授業で、英作、前に板書しなきゃいけないみたいなので、やったときに、うわー当たったと思って、何とか書いたら、石井先生が「いいんじゃない」みたいなこと言ってくださって、それで、なんか意外と英語、気付かないうちに伸びてるみたいな感じで、なんか、それも一つ、なんか、頑張れるきっかけになったんで。θ の授業は、予習が大変だったけど、あんま、苦痛みたいなのはなかったですね。

それも結構、石井先生が、前期の本当、最初のほうの θ で、なんかもう、とにかく我慢だよ、ストレス耐性みたいなことをおっしゃってて、伸びないからって点数が出ないからって、やり方を変えたりするんじゃなくて、みたいなことをおっしゃってて、それを自分なりに、なんか、遊ぶの我慢するとか、ま、娯楽、我慢するっていうのはもちろんだけど、なんかその、やっても成績上がらなくても我慢してやり続けるみたいな、自分自己流じゃなくて、先生がいいっておっしゃったことだから、多分、効果は絶対あるはずだから、その、成績上がらなくて投げ出したくなっても、いったん、我慢してやり続けるみたいな、そういうことが結構、なんか、自分が我慢、我慢って思えてましたね。

やっぱ、目の前に、いっぱい受か、受かってる人たちを見てる石井先生から言われる言葉って、結構、重いですよね。なんで、もう、θ で石井先生がおっしゃったこと、取りあえず、なんか、自分に響いたことは全部書いておいて、なんか自習室で集中できないなって

ときに、ぱーって見て、それ、あー、やろう、みたいな感じになってましたね。結構、そうですね、11月ぐらいのθの授業でも、多分、みんな今、不安じゃない人はいあに、みたいな、勉強はやればやるほど不安になる、みたいな。不安って向き合うとそれって大きくなるから、目の前の小さいことをつぶしていく、あいまいなことを正確に、知識の確度を上げていけばいい、って。

その不安は合格でしか消えないから、みたいな。そっか、誰も、自信満々で受験に臨める人なんていないんだなって思ったら、まあ、みんな不安なら、まあそうか、みたいな感じで、なんか、逆になんか、すっきりして臨めたので、そういう、結構、一つ一つ、石井先生の言葉は大きかったなって思います。

なんか、絶対的な信頼感じゃないですけど、こんだけ毎年、合格者が出てるんだったら、まあ、そう、そうだんだろうなっていう感じで。

## 模試やテストの活用はできましたか？

あー、1浪目、2浪目のとき受けてた模試って、返却まで1カ月かかってみたいな感じで。なんか、現状を知るっていうことが、すごいなんか、もう、1カ月過ぎてからだと、もう手遅れじゃん、みたいなことが結構あったので、代官山MEDICALあと、逆になんか、1週間ですぐ結果が出るっていうのは、めちゃめちゃよかったですね、すぐ復習ができて。で、逆に、そうやって毎週毎週、目標があって、またプレッシャーもあるっていうのが、逆に、だれずに勉強できたので、結構それは、よかったかなと思います。やっぱりずっと先の2月とか1月の受験が目標でゴールみたいになると、結構、そこまで1年頑張るのってしんどいから、毎週、毎月、なんか一つ、目標があって、取りあえずそこをいったん、目指してれば、そのまま合格につながるみたいなのがあったので、なんか、頑張る指標みたいなのでは、めちゃめちゃよかったですね。取りあえず本館にいたA3のときは、もう、取りあえずウイークリー10位以内みたいな感じで、全部、そうですね、目標はっきりもってやってましたね。

やっぱ、課したほうが、なんか、ある程度ちょっと、プレッシャーある中で勉強したほうが、なんか、まあいいやって諦めないし、いやでもこれを覚えなきゃって。ウイークリーのランキング載りたいから、みたいな感じで、あんま捨てずに勉強できたかなと。1浪目・2浪目は勉強してても、なんか自分でずっと不安を抱えながらいたんで、リビングにいても黙ってたり、そもそも人と話さないんで、家族に話すようなネタもないみたいな感じだったんですけど、逆に代官山MEDICALのときは、きょうウイークリーで何点だったとか、マンスリーで何点だったとか、そういう話が親とできたし、自分もなんか、勉強してるっていう自信があったんで、成績落ちても、なんで落ちたんだろうって、そこは、なんか逆に、真っすぐに両親と向き合えたかなって思います。

## 周りの人たちの実力やがんばり度とかは、気になっていましたか？

なんか、3浪っていうのもあったし、他の子たちはみんな1浪・2浪みたいな感じだと思ってたので、当初は。だから、あんまりもう、自分はとにかく3浪だから、1浪生の子たちと同じ受かり方はできないと思って、あんまり他を見ずに、自分が前回からどれぐらい変わったのかっていうことを意識してやってましたね。あと、マンスリーの結果も点数書いて、大問1はなんかちょっと時間かけ過ぎたなとか、文法問題あんま点取れなかったなみたいな。結構、大問、一個一個ごとに、なんか、自分が思ったことみたいなのを全部書いてって。あと、何点、取れなきゃいけない問題で何点失点してるとか、ミスで何点落としてるんだとかっていうのを全部計算して、本来だったら取れた点数みたいなのを出して、そっから、なんか、どうやって、どうやったらこのミスなくせるんだろうとか、なんでこの問題取れなかったんだろうと思ったら、ここに時間かけ過ぎてたからだって気付いて。じゃあ、時間配分、ちゃんと解くまで考えなきゃいけないんだなとかっていうのを、そういうのを、なんか、まあ、1回のマンスリーでめちゃめちゃ分析して、それを次回のマンスリーの直前に読んで、前回こういうことを改善しようと思ったんだなと思って、それで生かして、じゃあ、どれぐらい、それでマンスリー改善されたのかなみたいなのも、またすぐ分析して、ここはできるようになったっていうのを、だからその、マイナスばっ

かりに目が行きがち、できないことに目が行きがちだけど、結構できるようになることも多いから、そういうのを気付くためにも、自己管理、自分を分析しておくみたいなのは、すごい大事だなって思いました。

いや、でも、本当に、本当に受かると思ってなかったんで、しかも、後期で本当、2浪のときなんて、誰が後期なんて受かるんだろうって、もう。1000人ぐらい受けて、17人とかだから、もう、誰、負け戦みたいな感じで行ってたんですけど。今回は、直前で、直前の対策のときに、ヒラパン(平野先生)が、「もう前期受かったやつもいないんだぞ」って言ってくださって、なんか逆に、そっか、マンスリーでも、あの層いないんだって思ったら、なんか、自分これ、ワンチャンあるって思って、なんか結構、頑張れたんで、そういうふうな、その、直前まで授業があって、本当に試験前日まで見てくださるっていうのは、結構、試験直前、こう、自分の精神が、こう、狭まりがちな中で、結構、そうやって、人と、人が支えてくれるっていうのは、本当に大きかったと思いますね。特に私、2浪目のときは、11月までは普通に、なんか、頑張れたんですけど、12月とか1月とかで、急になんか、もう無理かもしれない、みたいな感じで、本当に心がポッキリ折れちゃって、そこから急に勉強しなくなって、がーって、そのまま全落ちみたいな感じだったんで、そういうふうに、冬期講習とか直前期になっても、1日も、なんかもう途切れずに、講習とかマンツーとかがあり続けるっていうのは、結構、本当に良かったです。大手だと1月なんて、もう本当、空っぽみたいな感じになるんで、そうやって試験の合間にもマンツー入れられてみたいな感じで、先生とコミュニケーション取れるっていうのは本当に、受験中は支えになりましたね。

卒業生が語る

# 合格への軌跡2023年

WAY TO SUCCESS

東京医科大 2 次特待合格
岩手医科大医学部 2 次正規合格
杏林大医学部 2 次合格
東北医科薬科大医学部 2 次合格
北里大医学部 2 次合格
東海大医学部 2 次合格

## ここで、勉強から逃げないで自分に向き合って1年間やれた、集団授業の先生とマンツーマンの先生が同じなのは代官山MEDICALだけ。自分の強み・弱みのデータが先生に蓄積されている。

東京医科大進学　富永 遥さん（白百合学園高校卒）

## 勝因は、今年の一年、勉強から逃げなかったこと。

去年は1次も一個も受かんなかったので、ちょっと今年はびっくりしました。1次だけで、11校、はい、通りました。2次の合格校が6ですね。11校中6校通りました。いや、自分でもびっくりして。アハハハ。東医は、1次は通ったなっていうふうには自分では思ったんですけど、特待までは行くと思ってなくて。良くて正規の、ま、番号は付かないですけど後ろぐらいかなっていうふうに思ってたんで、見たとき、めっちゃびっくりしました。親は、泣いて喜んでる。アハハハ。はい。昭和はちょっと相性が合わなかった、ま、自分の分析なんですけど、ちょっとご縁がなかったんですけど。東医は問題傾向とかも自分に結構合ってて。で、なおかつ特待で合格できたんで、すごい自分でも満足してます。勝因ってやっぱ、1年間逃げずに真面目に頑張ったことだと思います、はい。前の年は他の予備校で、逃げちゃったというか、で、ここでは、今年は朝6:00から夜まで塾が開いてて、授業も遅くまであるので、代官山MEDICALが家みたいに、もう代官山MEDICALにいる生活が、もう時間割でやるべきことが決められてたっていうことと、あと、友達ができてそれで楽しくて、代官山MEDICALにいたいなっていう気に変わって、そこが多分逃げずに代官山MEDICALで頑張れた理由の一つかなって思います。いつも一緒にいたのは、三村華弘さん(大阪医科薬科大進学：南山高校卒)と、宍戸鈴美さん（関西医科大進学：西武学園文理高校卒）と、あと南彩百合さん(日本大医学部進学：白百合学園高校卒)の4人で結構一緒にいました。みんな4人とも今年、医学部進学、果たしました、よかったです。やっぱりウィークリーとか、マンスリーとかが貼り出されたときに一緒に見て、私何位だけど、友達はもうちょっと上にいるなとか。結構、成績表とかも見せ合ってて、自分はここできてないけど相手はこれぐらいできてるなとかそういう他人と比べられたことで高め合ったと思います。4人で結構私はですけど、結構自分の立ち位置とかを見て、ライバルっていうか、負けないようにしようっていう感じでした。それもあって最初1学期M4でしたけど、最終的に冬ではM3に上がりました。えっと、毎月のマンスリーテスト終わった後はやっぱり4人とかで集まって一緒に丸付けして、ああ、ここ出たのを予測してたのに間違えたわみたいなそういう反省会みたいなのをしてました。はい。やっぱ女の子同士おしゃべりするとステレス解消にもなりますし。

## 日曜日も代官山MEDICALにきてました、自分の自習席が落ち着いて勉強できました。

英語は苦手だったんですけど、英語が得意な子に毎回休み時間とかお昼休みとかに会うときに「過去問何点だった？」とか聞いて、私これぐらいだったって、英語できる子の点数を聞くのと、あと「どういうふうに今英語やってる？」って聞いてました。できる人のまねをしたほうが成績上がるんじゃないかなって自分で思って聞いて、「毎日、長文読んでるよ」って言われたんで、できる人でも(長文)読むなら自分もやんなきゃできないなっていうふうに思って、英語を毎日やってこれだけやったら大丈夫かなって、ちょっと前向きな気持ちになっていきました。テストになるともう参考書とか見れないじゃないですか、辞書も引けないし、スマホで調べられないし。ああ、もうこれ自分の持ってる力とか知識でやんなきゃいけないなっていう、覚悟っていうか腹くくって、もうこれ解けなかったら落ちるみたいなそういう気持ちで英語を読んでたら意外と読めるっていうか。何かここまで、英語の文の内容が分かったことがないっていうぐらい分かるように受験のときになって、うまくいったかなっていう。授業の受け方は、やっぱり先生が言ってたポイント、黒板に全部書くわけじゃないので、それを聞き逃さないように聞いて。そういうポイントが言われたらすぐ、ルーズリーフの余白とかノートの余白とかに書いて蛍光ペンで塗って、見返したときにそのポイントがすぐ分かるようにっていうノート作りと授業の受け方してました。一つの目安がウィークリーで、ウィークリーの試験の日までに、時間がなくてできないときもあったんですけど、間に合わせるようにっていう目安をつけて、日曜日に、ガッとやるっていう感じで。ウィークリーテストって、範囲決まったりとかしてたじゃないですか、英語の700選はいつも25点取ろうっていう気でやって成績優秀者ランキングに出てました。最初と最後が取れなかったんで、それ以外は25点だったような気がします。なんか英語苦手な分、700選だけは頑張ろうっていうふうに思ってやってました。なんか1カ月単位だとやっぱり途中でだれちゃったりすると思うんですけど、毎週、毎週ウィークリーがあると1週間でリセットされるし。その、新しくやんなきゃいけない目標っていうのが1週間ごとに出されるので、気持ちがだれることもなく、目標見失うことなくできたと思います。マンスリー前には、てこ入れる感じで、苦手なところとかを復習するっていう感じで、日曜日も、代官山MEDICALに来てました。なんか代官山MEDICALだけだと思うんですけど、自分の自習席ここだよっていうのが1年間決まってるのがすごく良くて。静かだし、物も置けるし。隣に、クラスは違うけど顔知ってる子とかしゃべった子とかが座って勉強してると、やんなきゃっていう、闘争心っていうか、そういう気持ちも芽生えたので、すごい自習席が良かったです。

## 自習室でライバルの勉強の様子やどこを目指してるのかがわかって刺激的だった。

自習室のライバルっていうか、結構朝早く来てるなって、6時ぐらいに来てたんで結構早いなって思うんですけど。寮の子とか結構座ってて、え、もう来て

んの？みたいなそういう意識とか。あと、隣の子が来る時間とかになると、もうそろそろ来るなみたいな、そういう何て言うんだろう、隣の子のスケジュールも分かるぐらいなんか、そんな感じ。自習室で、ノートとか開いたまんまにしてると、あ、この子こういうことやってんだとか。あと、付箋とか見ると、なんかどこどこに受けるとか、そういう何ていうか、目標とか、あとここは間違えないとかそういうのとか貼ってあってちょっと見て、あ、そうなんだみたいな。そういう意識をもってやってました。人から学ぶことができるチャンスいっぱいあった感じですね、はい。私ちょっと恥ずかしくて、ここに受かりたいとかは貼ってなかったんですけど、英語で間違えたところの付箋とかは貼ってました。あと、時間割とかそういう類いのものは貼ってました。ペン立てとかも置いたり。アハハ。なんか、本立てるやつも置いたり、いろいろ置きました、カスタムして。卒業するときにはちょっと、こう、寂しかったんで、(自習席の)写真撮りました。アハハハ。形が残んないんで、写真に収めようと思って。それぐらい思い入れがあるっていうか、そうですね。一番人生で勉強頑張った1年です。

## 受験校は、面談で最終蹴ってしまました。

まず、自分で受けようと思ってるところを蛍光ペンで引いてお母さんに見せて。お母さんここ受けたほうがいいんじゃないみたいなのはあったんですけど、最終決定は、石井先生との三者面談のときに君はここ受けるの？みたいなとか、ここは受けたほうがいいよとかいう相性を決めてもらってアドバイスを受けて決めました。面談の時に、なんか（受験日程の）1週目に、ぜんぜん受験校入れてなかったんですけど、受けとかないと鈍っちゃうよっていう石井先生のアドバイスがあって、岩手と東北医科薬科を追加したんですけど。その追加したことで、なまらずに次の週の受験も迎えられたので良かったなって思います。1浪目までは、一回も1次通ったことがなかったんで、こんなに1次通れるんだっていうのは、結構、気持ちの切り替えとか前を向くっていうことに、きっかけっていうか、力になったと思います。

## 小論文も結構伸びた、20点から75点まで伸びた。

小論の授業のヒロ(高橋浩先生)さんの、その、小論書くときのフォーマットみたいなのがあるんですけど、そのフォーマット、書き方を覚えられたっていうのがすごい良くて。もうそのやり方で全部小論書けるし、夏から面接対策っていうか、小論の授業で面接の対策っていうのをやってて、それがすごく良かったなっていうふうに思います。代官MEDICAL来て初めて小論の書き方始めて。4月の小論とかめっちゃ悪かった。25点とか。あ、20点ですね。盛りました、盛りました(笑)。11月のマンスリーで75点。そうですね、結構伸びたと思う。自分でも思います。

真剣に取り組んで量をこなせばどうにかなるっていうか伸びる、はい。質だけ重視してて量をやらないと問題慣れっていうのができないし。量だけやっても、丸付けとかだけで終わらせると、その間違い何度もするんで、そのバランス結構大事だなっていうふうに1年間通して思いました。

## 計算ミスは、ま、人間なんで。エヘヘヘ。

するんですけど、なんか4月の初めの授業のときに薄先生が、計算毎日やれっていうことで、夜間(演習)の計算を前期テキストあったじゃないですか。それの積分のところを、1学期の間、朝早く来て、15分って決めて、解くようにして。積分の計算が結構鍵なんですけど、受験って。そこで鍛えられて、後期とかになって、数学できる子よりも遅く解いてるけど答えが合うのが早いっていうそういう計算の、計算が、ぴたって合わせる力が付いたかなって思います。なんかこうしたほうがいいよっていう、計算ミスはしないほうがいいよってアドバイスだけだと、どうしていいのかが分かんないんで、明確に何々をやればいいとか、この課題やれって、与えてくれたんですごく良かったと思います。数学はそんな感じで、あと前期のテキストは5回もやらされて。数学の授業で、少ない解法で網羅的な、たくさんの問題を解けるようにするっていう、知識詰め込み方じゃなくて、この公式をどういうふうに、どんな範囲まで使えるかみたいなそういう教え方っていうのを薄先生から教えてもらえて、いつも一番前で授業を受けてたんで、あと、単純に面白い先

生。アハハハ。なんか先生って、ま、声大きい人もいると思うんですけど、一番薄先生、声大きくて笑い方も豪快で。あと、生徒との距離も近くて、なんか問題早く解けたりしたら、「あ、できてんじゃん」みたいなそういう会話っていうか、声掛けてもらうのもうれしくて。どんどんもう食い入るように授業受けてました。私もらわなかったんですけど、直前期に、薄先生が配っている数学の過去問 50 選みたいな、これを受験前までにやるともう君は合格だ、みたいなプリントがあるんですけど、そのプリントをもらって。全部はいかなかったんですけど、友達と解いて点数とか見せ合ったりとか、先生に持ってって分かんないところとか聞いたり、そういうプリントはもらいました。

## 物理もマンツーマンとったおかげで、結構伸びました。

物理は、野村先生が好きでした。マンツーも取ってました。なんかクールそうに見えて意外とちょっと変なことっていうか、面白いことを時々言うところが好きでした、はい。アハハハ。なんか先生ってそんなこと言うんだっていう感じで、笑うんだとか、簡単な問題を解法をパッて思い浮かべられるぐらい、量をこなすっていうのと。あと公式だけ覚えるんじゃなくて、どういうときにこの公式使うとかそういう背景、使うまでの道のりっていうのを結構覚えてインプットすると物理って結構伸びたかなって思います。

## ケアレスミスの改善にも先生からのいろいろなアドバイアスが役立った。

1 学期 M4 で、夏で M5 で 1 個クラス下がりました。5 月のマンスリーでとんでもない偏差値 50 を少し切るっていう、49.7 になった。で、それで 6 月でカバーしようと思ったんですけど、そこまで良くもなく、5 月のマンスリーで得意だった物理の凡ミスっていうか、大文字で書かなきゃいけないところ全部小文字で書いて 1 問全部落とすっていうのがあって、それですごい悔しい思いをして、どうにかって 6 月頑張ったけど駄目で M5。ウフフフ。なんかもっと頑張っとけばよかったなってちょっと思いました、下がったときは。思うように頑張らなかったときっていうのを経験して、報いを受けるって言っちゃあれだけど、結果を受け入れると同じ間違い絶対しないようにと思いますよね。物理で、大文字を小文字で書いたっていう間違いをしたので、それからはもう式で使う文字とかには文章、問題のところに丸付けて、見直せるようにっていうか、意識できるように自分でしました。絶対間違いない。そうした後のほうがその意識っていうのが高まるし、もうミスをしないっていうふうに工夫もします。マンスリーの物理とかの解法でそのミスしちゃったときは結構気にしました。得意な教科だけに。数学でも平野先生とかは、よく先輩たちがミスしてきたところとかを授業中に言ってくれたり、あと、薄先生は、式を書くときにこういうふうに書けとか、計算するときはここをいったん計算してからとか、そういう問題の解法だけじゃなくて、その計算の仕方とかそういうふうに得点につながることも教えてくれました。

## 代官山 MEDICAL で 1 年やるにあたって。

まずは勉強から逃げないで自分に向き合って 1 年間やること。あと、授業の復習をするときとかには、ノートとかって結構大事だと思うんですけど、板書だけを写したノートじゃなくて、見やすさを改善したりとか、その時、その時に、先生が言ってたアドバイスや枝葉抹消な知識も書くスペースを作ったりとか、復習に力を入れるのと、あとは、マンスリーテストの、その一回一回の結果で落ち込んだりしないで、それをばねにして前に進む力っていうのが大事だと思います。結構、自分も上がったり下がったりの成績だったんで、結構、一喜一憂してたんですけど。ま、でも、友達としゃべったりとか、先生にどうしたらいいとか聞くことによってそういう気持ちを前向きな気持ちに変えられたので、やっぱりそこでウジウジして 1 カ月たつよりは、そういうふうに早めにすっぱり、立ち切るってわけじゃないですけど、そういうふうに前に向ける方向にしていくっていうのが大事かなっていうふうに思います。時間も少ないんで。毎回、毎回マンスリーの成績表、先生に見せてると、どこができてどこができないなとか苦手かなっていうのが、だんだんデータが積み重なってくと現れるじゃないですか。それで結構、自分が苦手だっていうところとかは先生に把握してもらってたかなって思います。

卒業生が語る

# 合格への軌跡2023年

WAY TO SUCCESS

東京慈恵会医科大２次合格
順天堂大医学部２次合格
自治医科大医学部２次合格
日本医科大２次合格
北里大医学部２次正規合格
東邦大医学部２次正規合格

寝てるとき、数学考えてるもん。

きょうの夢、数学、なんか解いてたわって、

朝起きて。やっぱ、全部かなぐり捨てて、

勉強一心になるっていうのが多分、

強かったんだと思う。

東京慈恵会医科大進学 鋪屋 瑠美さん（頌栄女子学院高校卒）

卒業生が語る

# 合格への軌跡2023年

WAY TO SUCCESS

東邦大医学部２次合格
東京女子医科大２次正規合格
獨協医科大２次正規合格

## 本当に、絶対受かりたい、それしか考えてなかったです。ずっと受験のこと考えて、本当に、もう、受かることしか考えてなかった。

東邦大医学部進学 榎本 由香さん (Walnut Grove Secondary 卒)

鋪屋：鋪屋瑠美です。進学先は東京慈恵会医科大学です。1次合格をいただいたのは、北里、杏林、日医、順天堂、慈恵、自治医科、東邦、昭和です。えっと、2次合格をいただいたのは、北里大学、日本医科大学、順天堂大学、東京慈恵会医科大学、自治医科大学、東邦大学です。

榎本：榎本由香です。進学先は東邦大学で、1次合格は、埼玉医科と東邦と獨協と女子医で、えっと、正規をもらったのは、東京女子医科大学と獨協医科大学で、補欠が東邦です。フフフ。

## 現役突破！、頑張り切ったなって。

鋪屋：いや、思います。でも現役で受かることしか正直、考えてなかったので、こうなってくれてうれしいし、本当にすごいのは榎本さんのほうなので。

榎本：いえ、でも私自身は、現役でも、年齢は実際1個上だから、もうなんか、1回浪人したら、もう、一気にそこで2浪になっちゃうじゃないですか。ハハハハ。

鋪屋：現役生の子だけで、この間、みんなでご飯行きました。長尾君（長尾快作：帝京大医学部進学：巣鴨高校卒）、原口さん（原口果子：東京医科大進学：雙葉高校卒）、安藤結ちゃん（帝京大医学部進学：東京女学館高校卒）と、榎本さんと私で、5人で、代官山MEDICALの（合格者）座団会の後に、ご飯行きました。あと、伊藤沙桜ちゃん（昭和大医学部進学：田園調布雙葉高校卒）ともご飯。みんな、お互いのことよく分かってるし。意外と絆、生まれたよね。

## 現役だけど朝6時に来てました！

鋪屋：朝6時に、毎日来てました。アハハ。約束どおりで。でも、6時に来始めたのは高3になってから。高3に上がったときとかに…。

榎本：すご過ぎる（笑）。

鋪屋：取りあえず1週間、毎日、2週間だけでいいから毎日来てって言われて、2週間来たら祝ってやるよみたいな、言ってもらって、で、ま、2週間来て、1カ月来て、みたいな感じで。閉館日以外は毎日いたかな、朝から夜までいたかなって感じかな。うん。

榎本：すご過ぎる人だ（笑）。

鋪屋：6時に来て、7時半までやって、で、7時37分とか電車、乗るんです。間に合います。8時に（高校の）朝礼なんですけど。間に合います。7時37分に山手線乗って7時55分に着いて、まあ、めっちゃギリギリ。何回か遅刻しました。

榎本：瑠美ちゃんが塾から学校行くときに、私が駅から塾に向かって、坂を上ってると、フフフ、瑠美ちゃんと会って、おはようございますみたいな。

鋪屋：ハハハハハ。

榎本：んで、めっちゃ罪悪感なんですよ、あー、瑠美ちゃん、もう勉強終わってんだーと思って、私、これから。

鋪屋：そう、7時半、ハハ、7時半に終わって、33分とかにそこの坂歩いてたら、下から上がって来るんですよ。

榎本：え、でも、直前はちゃんと私も来てました（笑）。

## 自分よりも他人が努力してることが怖くて、なんか、ずっとやってた。

鋪屋：…かな。確かに、ずっと焦ってたかもしれない。この間、母親にも言われたんですけど、なんか、一回もたるんでなかったよねって言われて。だからそれ、なんでだろうって思って。私、結構マイペースな人で、受験がなかったら家で一日中、寝てられるような人なんですけど、でも、毎日、自分をたたき起こして毎日来てたのは、確かに焦ってたのかもしれないなって。なんか、このままだと受かんないとか、いい所行けないとか、日医以上行けないとか、なんか、誰かが自分より今、頑張ってるかもしんないとか。そういう気持ちだったのかなって思います。

榎本：周りは対浪人生ですよっていう中で、どこかでやっぱ、自分は他の人よりもやんなきゃなみたいな、めっちゃありました。しかも、私はあっちの高校だったんで、もうすでに1周遅れみたいな。最初、授業入ってみて、全く分かんないんですよ、ベクトルとかが…。ベクトルって、ベック、なんだっけ、ベクターのことだったんだみたいな。

鋪屋：アハハハ。

榎本：なんか、手挙げて、薄先生に「何にも分かりません」つって、みんな、ざわざわみたいな。夏期講習のとき。

鋪屋：覚えてる、覚えてる。ハハハハハ。

榎本：で、なんか、「分かんない人、手挙げて」って言うじゃないですか。で、「はーい」つって手挙げたら、早過ぎて、え？みたいな。そういうレベルだったんで。私、A8入ってたんですけど、現役の授業の前に、昼間、浪人のクラスにも入ってて、はい。でも、

なんか、うち、この塾で、浪人生だと、A8って下のほうじゃないですか。だから、A8のクラスの勉強量してたら、なんか、やばいな、って思って。ああ、もっとできるようになりたいとか、あんまり、あの、こんなこと言っちゃ悪いけど、A8の人をライバル視はしてなかったけど。え、言っちゃった。フフフ。

鋪屋：いいんじゃない。

榎本:この人たち。この人たちに負けるわけないじゃんって言いながら頑張ってましたけど、毎日、朝は頑張ろう頑張ろうって思うけど、塾帰ってくると、ああ、今日も駄目だったみたいな。来年、浪人すんの？もう一回、やりたい？ちゃんと考えたら？みたいなことを、結構、家では、親に厳しいこと言われてて。そういうのいろいろ考えてたら、病んでたってわけではないけど、不安で、もう、本当に、絶対受かりたい、それしか考えてなかったです。でも気が折れなかったがおっきいっていうか、ずっと受験のこと考えて、本当に、もう、受かることしか考えてなかった。

鋪屋：分かる。なっちゃうよね。めっちゃ分かる。頭の中でさ、寝てるとき、数学考えてるもん。きょうの夢、数学、なんか解いてたわって思うよ、朝起きて。

榎本：なんかもう…、逆に、何もしないとなんか涙出てくる。

鋪屋：出てくる、分かる。何してんだろう私、みたいな。私、自習室で毎日、泣いてたもん、泣いてた。

負けず嫌いかな、人に負けたくないみたいな。2号館で、唯一最後まで残ってた、もうなんか、すごい人いたじゃないですか、四ヶ所（四ケ所 葵：横浜市立大医学部医学科進学：湘南白百合学園高校卒）とか、押久保君（押久保勇斗：日本医科大進学：芝浦工業大学附属高校卒）とか。ま、かなわないのは分かってたんですけど、それでも、やっぱ食らい付きたいっていうか、最後は私が勝ってやるみたいな。いや、まあ、一番目標にしてたのは、先輩の、やっぱ宮永さん。慶應に行った宮永さん（慶応義塾大医学部進学：青山学院高等部卒）。私が、6月ぐらいに、普通にヒラパン（平野先生）と話してて、私、「現役で一番いい所行きたいんですよね」って言ったらヒラパンが、「理三だろ」って言って。ハハハハ。えーみたいな。私、古典できないしみたいな。「私立で」って言ったら、「じゃあ慶應だろ」って言って。日医に行きたいと思ってたけど、そこで初めて慶應って文字が、慶應、慶應って。慶應を目指すんだっていうことを言って、そこでもう、じゃあ、ヒラパンと慶應、目指そうって言って。どういう生活してたかも周りに聞いたりして、で、それが一番モデルだったのかな。

## 現役生は、夏ぐらいにちょっと跳ね始める。

榎本：私、最初のマンスリーで、化学4点と物理3点だったんですよ。フフフフ。ひどいでしょう。

鋪屋：いや、だってさ、最初、覚えてるもん。私、榎本さん最初に見た授業、化学なんですけど、化学の授業で一番前、座って、そこで、「アンモニアってなんですか」みたいな。なんか、周りの時が止まったんですよ。え？みたいなハハハ。

榎本：フフフ。全く覚えてない。化学は、もう、頑張っても分かんなかった。なんか、最初なんて、小林先生に、いちいち、H2SO4、これは何て読みますかとか。HClはなんですかみたいな。めっちゃ質問行ってました。バカが過ぎるって。

鋪屋：やばくない？

榎本:でも、そんとき思ったのは、なんかそんとき、授業でやったのそのままテスト出てたんですよ。繰り返しやって覚えたてたんで、で、そしたら（ランキング）載っちゃったんですよ。フフフ。で、それを…、中村先生に言ったら、いや、大丈夫、テスト、受験なんてやったことしか出ないから大丈夫だよって言われて。じゃあ、やることをやるべきことちゃんとやってれば、載れる、載れるってことは、Mの人とかと、まあ、別に、めっちゃ大差あるわけではないんだなーっていうのはそこで感じました。

鋪屋：なんか、現役生が、ちょっと夏ぐらいに跳ね始めるじゃないですか。覚えてたのが、安藤さんが急に数学で3位取ったりとか取って。そこでマジへこみしちゃって。ガチへこみですよ。メンタル爆死だったもん。なんか、本当に、あ、私、駄目なんだと思って。なんか、もう、5時に起きてたし、5時に起きて、勉強してたし。なんか、何が駄目なんだろうみたいな。分かんなくて。で、夏休みはもう、ずーっとへこんでたし。へこむけど、でも、毎日、頑張んなきゃいけないし、あ、でも、回復したきっかけで言えば、10月かな。10月にマンスリーで跳ねたんですよ。爆跳ねして。いけるって思って。昼ごはんも、5分で食べて、昼休み自習室戻るみたいな。ごはん、全然、満喫はしないで、時間が惜しいから、どれだけ短縮できるかみたいな感じで、前の『（合格への）軌跡』で言ってる人もいたけど、もう買う物はルーティンで決めてるから迷わない。やっぱ、全部かなぐり捨てて、勉強一心になるっていうのが多分、強かったんだと思う。それは、浪人生でも、できてる人とできてない人、やっぱいるわけなので、それが結果につながったんだろうなっていうのは、今、思うところなのよ、その積み重ねで、うん。うち（の高校）は、本当に10人ぐらいしか医学部、目指してなかったし、お互い医学部、目指してるの隠してるし、みんな、そう、隠してて。でも、まあ、内心、分かるから、ああ、医学部だろうなみたいな。分かるから、ライバル視してて、そこではもう絶対、仲良くしないんですよ。

## 村上先生が、「鋪屋ちゃん、課題は？」みたいな。えーみたいな。

鋪屋：どうしても立体図形が駄目過ぎて、なんかもう、人間じゃないって言われてたんですけど。ハハ。人間じゃないぐらい感覚がなかったから、それで村上

先生に、「毎日、課題持ってきて」って言われて。村上先生のすごいところって、休み時間もフルに使って、ずっといてくれて、課題の分もくれるの。すごいの。本当に、もう本当にすごい。村上先生は、待ち構えてて、たまに２号館の入り口で、私が「はー、疲れた」って言って出ようとすると、なんか手出してて、こうやって出してて。なんか、「課題。課題は？」って、「鋪屋ちゃん、課題は？」みたいな。えーみたいな。「ちょっと、明日、すいません」とか言って。そう、ハハ。その日中に、結局、持ってくとか。うん、急かされて、急かしてくれた。村上先生そんな感じで、直前までずーっと見てくれてて。で、大丈夫だよって励ましてくれて、鋪屋さんなら大丈夫だよみたいな、鋪屋さんにできないことはないみたいな。言ってくれて。そう、まあ、それは励みになったかな、最後は。でー、まあ、やっぱ、ヒラパンなんですけど、最初の授業、新高３の１月の０学期の最初の授業で、一番目の席に座ってって、ヒラパンが当ててくじゃないですか。授業中に、もう、当ててくんですよ、目、合った人。で、それで一番最初に当てられたのは私で。で、あのー、「数Ⅲで一番難しい分野、どこだと思う？」って言われて、「２次曲線ですか」って言って、「あ、正解」みたいな。正解って言われてから、なんか、指されるようになって。で、そっからずーっと面倒見てもらって。で、日医に行きたいです、慶應行きたいですって言って。で、まあ本当に、最後まで一番、最後まで、慶應に鋪屋は行けるって信じてくれてたのは平野先生で。平野先生の魅力を一言で言うなら、みんながなんでヒラパンヒラパンって言うんだろうっていうの、そう、全肯定。なんか、誰でも、みんなを全肯定するわけじゃないと思うんですよ。ちゃんと信じてくれてたから全肯定してくれてると思うんですけど。みんなが、ヒラパンのこと好きなの。で、多分、ヒラパンの、その、引っ張ってくれるパワーというか、やっぱパワーがある先生じゃないですか。すごいパワーがあって、で、あ、この人、なんか信じていいかなって思わせる魅力があるんだと思います。私も多分そのパワーに惹かれた人だと思うので。本当に、本当に支えてもらってたかな。本当に感謝しかない。本当に、私が慈恵に行けたのはヒラパンのおかげかなって思います、私は。ハハ。

榎本：泣いちゃう。

鋪屋：アハハ、泣いてください、ヒラパン。受かったの、ヒラパンのおかげなんですっていうのは。

## これから頑張る後輩たちへのアドバイス。代官山 MEDICAL をどう頑張るべきかとか。

鋪屋：代官山 MEDICAL は、そう、なんか、みんなが勉強してるところ見れるってのが、すごいいいんですよ。

周りををライバル視して、なんか、お互いがいい相乗効果生んでるからこそ、まあ、そういう刺激を取れたんだろうなっていう、この人は何時に来て、どれぐらい勉強してて、何時に帰るんだっていうのが分かるんですよ。で、みんな医学部志望だし。そうすると、そう、周りからも自分はそう見られてるはずだから、なんか、適当に、きょうこれで帰ろうかな、にはならないってことだもんね、そういう意味では。

榎本：あんな、帰るやつに負けたくないなーって、心持ちとしては、もうなんか、メークとか髪型とか考えないぐらい、受かるしか考えないレベルで、瑠美ちゃんがずっと制服しか着てなかったレベルで。お洋服とか、おしゃれ付いてる場合じゃないし。もうなんか、受かることだけ考えたら、多分、なんかだんだん行動が変わってくると思うし、ご飯とかも時間が短縮して…、あと、先生を、せっかくこんな、たくさん聞いても、なんでも教えてくれる人がいるから、本当にありがたいっていうか、あの、バカな質問でも。もう何でも、詰まったら聞くのと、あと、よく思うけど、なんか、バカぶる、なんつーの？何だろう、天才ぶらないこと、頭いいぶらないことって、多分、大事で、おごらないことっていうか、すごい大事で、謙虚に。謙虚な医者がいい。

鋪屋：うーん。鋪屋的には、なんだろう、私なんて頭良くないとか、私なんて別に、医学部に、いい所に行けるような人じゃないって思ってる人にこそ、私みたいに、がむしゃらにやってほしいなって思う。例えば、１列目に毎回、座ってやろうとか。そのー、誰よりも早く学校から帰ってきてやろうとか、朝は別に無理はしなくていいと思うんですけど。誰よりも長く勉強してやろうとか、この人に絶対とか、何でもいいと思うけど、自分だけのものを決めて、その信念持って、曲げずに、みんなに笑われてもいいと思うから、もうなんか、あいつ本当きもいよなってぐらい、勉強を１年間だけ頑張ってほしいなって思います。

卒業生が語る

# 合格への軌跡2023年

WAY TO SUCCESS

獨協医科大２次正規合格
埼玉医科大前期２次合格

代官山にいる人たちは、自分でやれる人っていうのはなかなかいないんで、本当、大学に行けば自由になれるんで、取りあえず1年だけ束縛されましょう（笑）

獨協医科大進学　松田 弥君（成蹊高校）

卒業生が語る

# 合格への軌跡2023年

WAY TO SUCCESS

獨協医科大２次正規合格
東北医科薬科大医学部２次合格

## ともに医学部を目指すライバルを倒すために、ゲームとか、そんなことやってる暇ないんでっていうのは思ってましたね。

獨協医科大進学　大森 正太郎君（佐野日本大学高等学校）

## 先生方の授業がやる気を与えてくれた。

松田　松田弥です。出身高校は成蹊高校で、進学先は獨協医科大学です。

大森　大森正太郎です。出身高校は佐野日大で、進学先が同じく獨協です。

松田　いろいろ振り返ってみて、一番、やっぱ印象に残っている授業は、やっぱ石井先生の授業です。θの授業って、「前1、2列に座ってるやつ、やっぱ合格するよね」とか、よくジンクスでいわれているので、僕は2列目の通路側に座ってました。もう、ほぼ毎授業、当てられてましたね。もちろん、その英語の授業もそうだけど、勉強に対するモチベーションを最初の雑談というか、そこでもらうんですよね。「あ、頑張らなきゃ」っていう気持ちになるというか、よい刺激をいつも与えてもらっていました。

あと石井先生に直接授業してもらえるというのと、大人数のクラスだから緊張しちゃってたから、心臓ばくばくしながら頭、フル回転して、少ない知識で頑張って答えようとしてましたね。それがよかったっていうのもありますね。答えられたときは、めっちゃ褒めてもらえたんで、すごく頑張れましたね。

大森　僕は、深瀧先生の授業が印象が強烈に残ってますね。初っぱなの授業から当てまくるんですよ。最初に答えられないと悔しいじゃないですか。それで、生物は頑張れたなっていう。一学期が始まる前の春期講習で生物のテキストもらって一生懸命やってただけど、それでも全然答えらんなくて、そこで生物、頑張んないとって思えたきっかけでしたね。

深瀧先生だけじゃなくてどの先生も生徒の反応を聞くような授業が多かったですし、どの先生にしても、僕が分かってないであろう所を的確に授業で当ててくれて、そこはすごいありがたかったなって思います。

## 先生方がくれる課題は相当多い。けどそれだけこなせばしっかり見返りがある！

松田　1コマ80分っていう時間が、今、振り返るとめっちゃ良かったなと思います。大学の授業は1コマ60分なんで、めっちゃ短く感じるんですよ。80分っていう時間だと、授業を受けて、その授業内容を復習する時間もその中には含まれていて。自習室で復習する必要がないって言ったらあれですけど、復習も授業内で済ませるような指導をしてもらえる時間の使い方が僕に向いてたのかなと思います。自分でやれよって、ほっぽり出されると、やっぱきついんで、「何をやりゃあいいんだ」みたいな感じになっちゃうから。

大森　あと大学生になって朝来て自習するっていうのがなくなったんで、今になってありがたいと思うようになったのは、プリントをたくさんもらえたことですね。毎朝ほとんど三井先生のマンツーマンでもらったプリントをやってました。量が多かったんですよ。ファイルがめっちゃ分厚くなって。1年経つとその分厚いのが二つ、ばんってできたぐらいなんで（笑）ノートも何冊使ったか覚えてないけど、相当使ってましたね。おかげで化学はすごい伸びました。やっぱり「これをやっておけ！」みたいなのがないと勉強しませんし、成績も伸びませんよ（笑）

松田　それでいうと僕は、生物が初学だったんですよ。もう、最初が本当に大変だったんで。とにかくマンツーマンで、もうゼロから教えてもらって。めちゃくちゃ簡単なところからやってもらって、プリントもたくさんもらって。でも、最後の12月の模試で偏差値60いったんですよ。やっぱり先生がどういう順番でどれだけプリントこなせばいいか分かっててくれてるから、それにうまく乗っかってここまで成績伸びたんだなって思えますね。

ほとんどの人が、生物とか物理って高校からやってるわけで、浪人始めるにあたって、僕よりも知識が多いのは間違いないわけで。そういう意味では、浪人になってから僕みたいにゼロベースから勉強を始めた学生みんなに希望を与えられるかなと思ってますね。（笑）

あと工夫としては、分かんないところがあったときは、すぐ質問に行くんじゃなくて、取りあえず自分で考えるということをしてましたね。自分で教科書や資料集だったり見てから。それでも全然、分かんなかったら質問しに行く。僕の場合、本当、教科書開けば全部分かんないことみたいな、そういう感じだったんで（笑）あと、自分で難しい問題を考えたときに、いろんな資料集とか見てる間に、「あ、これはここにあったんか」みたいな思いがけない発見で学べるみたいなのもありましたね。

大森　僕は結構すぐに質問に行ってたほうですね。一応、自分なりに考えてからにはしてたんですけどね（笑）　マンツーの先生だからってわけじゃなくて、授業で教わってなくても、いろんな先生の所に行ったりしてましたね。先生がいるスペースがあって、そこに行けばとりあえず質問できる環境があって、クラス関係なく、科目さえ一致してりゃあ、その先生に聞きに行けるし、どの先生も気兼ねなく答えてくれてっていうのが他にはない代官山MEDICALで良かったなって思えるとこですからね。

## 苦手科目があるならマンツーマンで対策すべき

大森　マンツーマンで、生物は深瀧先生にすごい鍛えられてましたね。なんか技術力をアップしてもらえたみたいな（笑）知識は、単科の授業でもらったプリントをめちゃくちゃやって、入試の日までずーっと、ぐしゃぐしゃになるまで読み込んでましたね。で、知識はそれでいいんだけど、記述面とかの技術面を主に深瀧先生はアップをしてくれたかなっていう感じでしたね。先生がそういうバランスになるようにうまく指導してくれてました。

松田　僕はマンツーマンは、生物は1年間取ってましたね。1学期が赤松先生で、夏以降からは石原先

生。習い始めの赤松先生がきれいな絵を描いてくれて、ものすごいイメージしやすかったですね。初学の自分にはありがたかったです。で、石原先生にはプリントをもらいまくりでしたね。だから、最終的には自習席に４センチぐらい生物のプリントがたまりましたね。本当にいい意味でめちゃくちゃ距離が近くて、めちゃくちゃ基本的なことで気軽に質問できるし、直前期になると、「あれ、こんなのもできないの？」みたいな感じでいい感じにあおってきてくれるし（笑）

数学は村上先生、真中先生、佐藤祐先生の３人の先生に担当してもらって。教え方とかも変わるから、良くないかなと最初は思ったんですけど、今考えてみるといろんな先生に巡り会えたからこそ、いろんな解法を学べたという点でよかったなぁって思えますね。

大森　僕も同じ感想ですね。村上先生とかなんかテクニックを教えてくれるタイプ。真中先生は本当にもう取りあえず手で書いてみる、そういう感じのタイプ。(佐藤) 啓寿先生も。僕は、啓寿先生に習ってたけど、先生のお手製プリントを解きまくってました。「こういう分野が僕、苦手なんです」って言ったら、その分野の簡単なものから難しいものまで全部、用意してくれて、それで数学は伸ばせたんかなって思いますね。

英語は三ツ橋先生で。過去問を使いながら、文法、長文、記述まで一応、全部やってもらってました。一番伸びたのは文法かな。過去問を通して、こういうふうに出てるんだよっていうのを示してくれて。「こういうふうな出題なんだ」っていうのを理解して解いたら、解くスピードというかが格段に上がったなっていう。受験本番でも「悩まずにこれ！」っていうのが何問かあって、その余った時間を長文に回せるっていうのが受験でうまくいった要因ですかね。

松田　僕の場合は英語のマンツーマンは田中良平先生で。本当にもう、基礎の基礎からやってもらったんです。高校で本当、文法の『ぶ』の字もやってもなかったから。そこは本当に２回でも３回でも同じところをやってもらって。もう質問しまくって。柔軟というか、本当にいろんな分野に対応してもらってるなっていう気がしてました。

## モチベーションの維持するため、落ち込んだとき、やる気が出ないときにどうするか。

大森　モチベーションの維持のためにライバルを作ってましたね、同じ英語クラスで、中澤さん（中澤すみれ：東京医科大学進学：雙葉高校卒）がやっぱ一歩、飛び抜けたから、中澤さんを目指していたっていうのもあるし、あとは、同じ生物選択として齋藤（齋藤優希：東北医科薬科大学進学：逗子開成高校卒）も。彼は別格っていうぐらい自分とは差があったんですけど、その彼をライバルというか、目標として追い抜いてやるって思って頑張りましたね。結局、追い抜けなかったんですけど（笑）

他にも大野さん（大野眞理子：日本医科大学進学：東邦大付属東邦高校卒）とかも。目標というかライバルというか、こういう人たちが受かるんだなっていうのが、ある程度目標になってたんで。ライバルはつくったほうが、モチベ維持っていうか。だから、勉強に集中できましたよね。ライバルを倒すために、ゲームとか、そんなことやってる暇ないんでっていうのは思ってましたね。

松田　僕なんかは、本当に何にもやる気ないときとかは、一番好きな数学だけやってましたね。取りあえず勉強からは離れないでおこう、勉強するにはもう数学だけやってこうみたいな気持ちです。あと生物も、生物もゼロスタートだったから。勉強してみると本当めっちゃ面白いなって気持ちに最後の方はなってきてたんで。資料集とか、休憩時間ずっと読んでました。とりあえずやっぱ勉強から手を離さないように、とりあえず自習席に座っとこうみたいな。席を立たないという意識でやってました。そういった点で自習席が与えられてたのはありがたかったですね。自習席座れば、まわりのみんなも勉強頑張ってるし、自分もやらなきゃなって気持ちになれましたからね。

大森　僕はやる気が出ないときには、先生とか友達と話すっていうことをしてましたね。何だろうな。自分で「何で落ち込んでんだろう？」っていうのを考えてから、それを聞きに行ってましたね。「どうしたらいいの？」ってだけの質問は、先生たち困るだろうし、勉強しろとしか言われないでしょうしね（笑）だから、話をしに行くっていうのは、何て言ったらいいんだろ

うなぁ、自分がこうすれば伸びるんじゃないかみたいなものを確認しに行く感じだったかなぁ。あと、話をしている中で、どこが分かってないっていうのを先生たちが理解させてくれるから、そういう部分でも話にいってよかったですね。本当どの先生でも話を聞いてくれてありがたかったです。

## 2人の思う受験成功の要因とは？そして後輩へ向けて。

松田　東北医科薬科の生物の問題でちょうど1週間前のマンツーマンで教えてもらった問題が出て。三点交雑の遺伝計算の問題なんですけど、あれは運がよかった（笑）

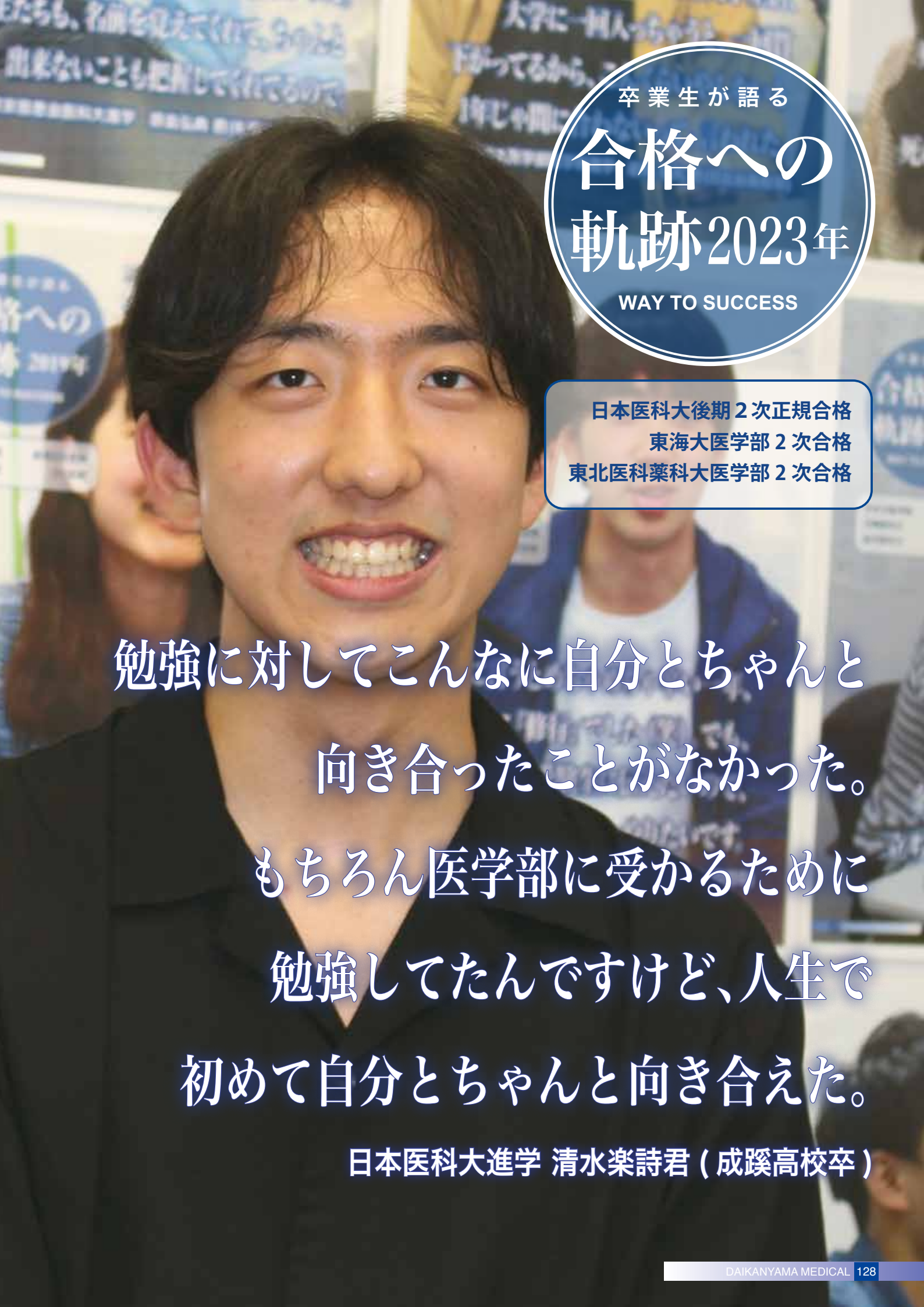
大森　僕も多分、同じ要因で受かった気がしますね。まぁでも、運がよかったっていう言い方より、医学部に熟知してる先生方が教えてくれるものだから、入試問題で出る可能性が高いってことなんだろうとも思いますよね。聖マの入試でも、植物の問題が出て「え？それ、そのまんま緒方先生のプリントのやつじゃん」ってなってましたし。もちろん勝負の運は絶対あるけど、限りなく運の要素をたぐり寄せられるようにって、先生がすごいしてくれてたんだなっていうのは感じますよね。もっと当たる確率を増やすっていう。

松田　だからこそ、授業を休まないってのが、めっちゃ大切って思いますね。ほんとはめっちゃ休みたかったんですけど（笑）　自分で言うのもあれだけど、どんなに落ち込んでても勉強から手を離さなかったことを、授業は休まなかったことを、言われた時間、ムラはあるにせよ守ってはいたということ、その約束は、ある程度ちゃんと守りながらやってたって。代官山MEDICALの言う通りにやってたって思えますね。そこだけ胸張って言えますね。それができたから今があるって本当に思えてますね。

本当、大学に行けば自由になれるんで、取りあえず1年だけ束縛されろって後輩たちには伝えたいですね。縛られたらやるし、縛られなかったらやらないでしょみたいな。今まで、縛られないとこ、T進に行ってたんで（笑）

大森　同じくK塾だった（笑）　代官山MEDICALにいる人たちは、自分でやれる人っていうのはなかなかいないんで。だったらもう、ここに来るんだったらね、その覚悟で縛られたほうがいいだろうと思いますよね。親御さんとかも、そういう気持ちで、送り出してるはずなんで。すごいマンツーとかもめちゃくちゃ入れまくって。その都度、親に「ありがとう」って思ってましたね。

松田　そうだね。いやー、親にはほんと感謝だね。



卒業生が語る

# 合格への軌跡2023年

WAY TO SUCCESS

日本医科大後期２次正規合格
東海大医学部２次合格
東北医科薬科大医学部２次合格

## 勉強に対してこんなに自分とちゃんと向き合ったことがなかった。もちろん医学部に受かるために勉強してたんですけど、人生で初めて自分とちゃんと向き合えた。

日本医科大進学 清水楽詩君（成蹊高校卒）

## 高校の時、自分の周りはみんな不登校みたいな…。

多分、一番勉強しました、人生で…。なんか２号館に移動するじゃないですか、継続して、２号館に移動してからずっとやってました。最初は、もうなんか、何したらいいか分かんないみたいな状態だったので。それでこう、先生たちから具体的に、どんな勉強すればいいのかっていうのを教えてもらって。で、やっと１年目終わった後に、自分でどんどん勉強できるようになって。で、やってやったら、２年目 M3 スタート。あ、なんかθ（シータの授業のテキスト）の一番最初のなんかところに、表紙になんか書いてて、努力の割り当てが間違ってた、ただ努力するんじゃなくて、なんか努力の割り当て考えろみたいな。もっと計算の訓練に時間をかけるべきだったとか、もっと朝早く来るべきだったとか、知識を正確にアウトプットできるようにすべきだったとか…。

１年目の最初のときはなんか本当、何やっていいか分からず、ただなんか勉強し、ただ勉強したって感じだったんですけど、その終わってからは、その苦手な範囲とかも逃げずにちゃんとやったり、なんか４教科のバランスとか意識しながらやってました。それまではこう、言われた通りやってた、やるだけしかできなかったけど、ある程度勉強できるようになってきたら、今度は何やりたいか、何を潰すか、何を今優先的にやればいいのか、こういうふうにしようかなとかっていう自分の工夫を入れるようになって、自分で考えながら勉強をするようになりました。いや、それもまた M3 に最初入れたの良かったんですけど、それはそれでやっぱり周りのレベルも高かったから、クラス落ちないようにしなきゃみたいな、周りについてきて、置いてかれないようにしなきゃみたいなので、それはそれで必死だったかもしれない。やっぱりその、先生との距離の近さとか、あとその朝から晩までずっと開いてくれて、ずっと勉強場所を確保してくれてるところが、一番大きかったかもしれないです。

いや、なんかもう高校生のときとか、僕、中高ずっと野球やってて。もうなんか、石井先生にもなんかθ（シータ）の授業に言われたことあるんですけど、なんか清水君はペン持ったことないでしょ（ドキっ）みたいなの言われて。本当にそうで、なんかもう、椅子に座って勉強するみたいな習慣がなくて、なんかもう最初ここ（代官山 MEDICAL）来たときは、椅子に座って授業受けるだけでも苦痛過ぎて、それが最初、結構辛かったんで、だけどそういう、確かにしんどかったんですけど、逆にそういう環境に身を置いて勉強できたのは良かったなと思います。自分一人で、例えば S 台とか行って、自習しなさいとかって言われたら多分無理です、はい（笑）。現役のとき、杏林受けて、なんか 2100 何人中、2017 位とかで、限りなくビリに近い状態だったので、いやドラマチックじゃないですけど、自分も中学の段階で仮進級と特別進級っていうあれで、なんかもう進級基準満たしてなくて…ほんとやばいやつで、もうそのレベルのバカで。いやそうだったんですよ。特別進級で進級した人、僕以外全員高校上れなくて、不登校みたいになってて、そのレベルのバカで代官山 MEDICAL 来たんですけど、そのレベルのバカでも、なんか２年間頑張ったら日医行けたので、絶対諦めないほうがいいなと。いや、なんか模試とかも、普通、理科はちゃんと化学とか生物って受けるんですけど、低い、どうせ低い偏差値出るから、それが嫌過ぎて、なんか理科基礎っていう、なんか文系の人たちが受けるあの、理科は受けてました。今では信じられないですけど。いや、怠惰過ぎました。

## 逃げてちゃ駄目だと思って、ちゃんと、向き合うようにしてました。

まあ、満遍なく全部の科目伸びたんですけど。そうですね、まあ、全部伸びましたね。一番伸びたのは化学かもしれないです。化学は１年目偏差値 37 とか取ったんですけど。２年目の最後から２回目か３回目の Monthly のときに２位になって、そのときは偏差値 68 か 70 ぐらいありました。倍ぐらいになりました、偏差値が。やっぱり２年目は M3 だったので、そのやっぱり周りも結構できるから、その人たちに負けたくないみたいな感じで。特に、なんか１問とか１点に対してしがみつく意識も、より強くなっていったかもしれないです。A9 にいたときよりかも。みんな同じ目標に向かっている人たちと、こうやって一緒に切磋琢磨できたので、それはすごい刺激になりました。Weekly とか Monthly の、まあ、点数だけが全てじゃないですけど、やっぱり一つの指標として大事だと思うので、そういうのはやっぱり友達とかに負けたりしたらやっぱり悔しいし、なんか友達があと自分よりか朝早く来たりしたら、あ、やばいみたいになったりして、気にして、はい。競争心が。

それこそあの、１学期は、ずっと M3 に留まれたんですけど、M2 に上がりたくて。他の M2 の人たちがみんな、早い人だと５時 45 分とか６時過ぎに来てて、自分もそれについていこうと思って、ずっと６時ぐらいに行ってて。で、まあ、夏ぐらいからちょっと遅くなっちゃって、まあそれでも７時半ぐらいまでには行くようにしてて、最終的には大体７時半までにはって感じで落ち着きました。本当みんな勉強してて、

仲良かったのでライバル視したのは三橋（三橋清哉：東京医科大進学）とか、堤勇太（東京慈恵会医科大進学）とかもすごい勉強してたので、そこら辺は結構意識するようにしてました。やっぱり同じクラスの人たちは結構、気にしてましたね。それこそ今、同じ日医の世奈（松脇世奈：日本医科大進学）とかも気にしてました。勉強に対してこんなに自分とちゃんと向き合ったことがなかったので、もちろん医学部に受かるために勉強してたんですけど、普通に２年間、自分とちゃんと向き合えたから、それはすごい良かった

なと思いました。高校のときとかは、勉強とかすごい嫌なことあったら、すぐ逃げちゃう癖がついてたんですけど、この２年間は逃げてちゃ駄目だと思って、ちゃんと、向き合うようにしてました。休憩してるときには休憩の雰囲気で、まあ話はするけど、互いに問題出し合ったりとかも結構してたので、それはすごい良かったです。三橋とか堤勇太とか、堤祐尋（日本大医学部進学）とか、そこら辺の M1、M2 の男の子たちと。やっぱりこう、上目指す子たちと話ができるっていうのがいい環境で、それは本当に一番良かったです。一番良かった。いっぱい刺激もらって、高校の時とはちょっと雰囲気違いました。

## 一番プレッシャー感じたとき。

やっぱ２浪目の、それこそ入試直前とかですかね、現役や１浪と違って、正直ある程度自信ついてきたんですけど、やっぱり、「1 次合格」ってものを経験したことがなかったので、どれぐらい取ったら行けるのか、1 次まず突破できるんだろうっていう感覚すらなかったので、それはやっぱり不安だったし、プレッシャーに感じてました。やっぱり Monthly Test でランキングに常時載ってたりとか、ある程度こう自分の立ち位置っていうのが分かってると、まだ不安じゃないというか、上下はあったんですけど、一応ランキングには常に載り続けてたので、それは確かに自信にはつながりました。石井先生、やればやるほど不安にはなるもんだって、仰ってて、おーってきました。だけどその中でも、やっぱり続けていかないと絶対行けないから。まあ石井先生のそういう言葉を聞きながら、

頑張んなきゃなと思って、はい。継続してました。今回初めて１次いっぱい受かって、２次試験受けて、いや、めちゃくちゃ緊張しました。なんか、もちろんここでも練習してたんですけど、やっぱりいざ本番となると、でもなんかもう緊張し過ぎて、うまくなんか言葉が出てこなかったりして、何回やっても慣れなかったですね。

## 集中が続かないんで、自習場所を変えてました。

最初は結構、ずっと自習室でやってたんですけど、なんかもう、こう一人で、こうやってるのが途中で苦しくなって。ラウンジとかブースとか結構使うようにしてましたね。1 浪目も 2 浪目も。なんかあの静かな空間が静か過ぎる空間が、あんま得意じゃなかったので。なんかちょっと環境音聞こえるぐらいのほうが、自分は集中しやすかったので、そうするようにしてました。いやなんかもうペンの、このカチャって音も、いや多分、自分の性格なのかもしれないですけど。なんか立てちゃ駄目かなみたいな、思っちゃうタイプだったんで、むしろ気にしてるほうがなんか疲れちゃうから、なら最初から外でやろうと思って、外でしました。たまに、先生たちの声とか聞こえるじゃないですか、盗み聞きして知識得てました。その周りのこう一生懸命やってる雰囲気を感じ取れるのが、やんなきゃ、やんなきゃって思っていうか、そういう意味でこう忍耐力っていうか、あと 1 分、あと 10 分、あと 20 分、あと 30 分ってやってくのができるようになったかな、はい。今思えば、すごいなんか、毎日同じ景色見てて、なんか本当、なんかしんどいなーみたいな感じだったんですけど。これが、代官山 MEDICAL じゃなくて他の大手の塾とかだったら多分途中で、わーもういいやってなんか抜け出しちゃって、なんか逃げ出してたかもしれないんですけど。やっぱり毎日みんな来て、みんな頑張ってる姿とか見てたので、自分負けてられないなと思って、そのおかげで頑張れてたかもしれないです。授業は欠席したことないですし、なんか結果がうまくいかなかったときに、マンスリーの点数とか下がったときに、授業切ったからじゃないかなとか思いたくなかったので。それは出るようにしようとしてました。

## 経験値が物を言う、Monthly で役に立ちました。

Weekly Test や、Monthly Test 以外にも、テストゼミっていう授業で、結構スピーディーに問題解くっていう練習ができたのは、普通よりも多かったですね、こう、時間を気にしながら問題解くみたいなやり方を、授業中でも結構、先生がたはアドバイスとかしてくれて、自分は、解くの遅かったんですけど、早く解くコツなんかも教えてくれて、解いた問題は、結構間違えず、その、ちゃんと正解できたので、逆にそれも強み

かなと思って、Monthly の時とかは、もう自分が手を動かした問題は絶対間違いないと思って、やるようにしてましたね。問題の選別というか、この問題は絶対自分を落としちゃ駄目だとか、Monthly とかでもわざと捨て問っていうか、落とし穴じゃないですけど、あんまりこう、深追いしてはいけない問題とか、本番をこう意識しながら解いていくのって、結構本番で役にたちました。やっぱりそこは、どうしても、経験値が物を言うみたいなところって絶対あると思うので、日頃のその Weekly とか Monthly とか、テストゼミの中で意識していくのが、一番大事なのかなと思いました。いきなりやっぱり最初から多分、この問題はやって、この問題は捨てるっていうか、そんな区別できる人って多分あんまりいないと思うので。Monthly は結構、雰囲気緊張してました。全然緊張しました。で、なんか、プラスこう、2 号館だと特にみんなランキングが貼りだされる同士なんで。なんか 1 年目とはまた違う緊張感がありました、2 年目の Monthly は。載るのは当たり前みたいな感じで、何位かみたいな感じだったので。やっぱり友達たちとあれどうやって解いたとか、共有したりしてたので、そうですね、刺激になりましたね、すごい。自分は、成績貼りだされるのが、むしろそれがなんか活力になってたっていうか。はい。むしろ試験本番、その 1 問とか 1 点とかですごい順位が変わっちゃうから、逆にその 1 問 1 点を結構、意識しやすかったので、Monthly は、良かったかもしれないです。

## 周りと比べてどんくらいできればいいのか分かった、化学偏差値 38 → 77。

自習ばっかだと、本当にその、自分、そういうの絶対やんないタイプだったんで、もう、その反強制的にそのやらざるを得ない環境が、を用意してくれてたのも、すごいありがたかったです。三橋と、あの、長田さん、昭和行った長田さん ( 長田 純奈：昭和大医学部進学 : 学習院女子 ) と、国福行った山崎さん ( 山崎みのり：国際医療福祉大医学部進学 : 大妻 ) と、あと上林さん ( 上林美早紀 : 杏林大医学部進学 : 桐蔭学園 ) の 5 人で。直前期一緒に、数学の過去問解いてました。なんか、薄先生が、50 年分なんかまとめてくれたプリントがあって、そこに良問が集まってたので、それをみんなで、解くのを習慣にしてました。お互いこう、なんか同じレベルの生徒同士で、この子できる、自分ができない問題もあるっていうことがあったとしても、同じ生徒でできるってことは、自分にもできるんじゃないかって思って。いや、そうですね。やっぱりそういうのでも、やっぱりこれはできなきゃいけない問題なんだとか。あ、これはみんなも逆にできてないから、本番取れなくても大丈夫なのかなみたいな、やっぱりそういう練習にもなりました。なんか、ある程度の緊張感を持ちながら、演習もできたので、それは良かったです。1 浪目の秋の段階で、なんかもう有機化学の本当に基礎のアルカン、アルケンとかすら全く分からない状態で、酢酸の構造式も書けないみたいな、そういう状態で、浅尾先生のマンツーを受けてて。そのときに合成経路のこういうプリントもらったんですけど、それを毎日書き続けて、多分、最終的に多分 100 枚以上毎日書いてて、浅尾先生にも見せたんですけど、はい。今でもとってあります、記念に。本当に化学偏差値 38 だったんですけど、それを毎日やってて、なんかそれやってたら、それだけじゃないですけど、それきっかけとかで結構、化学好きになって、最終的に偏差値、その倍の 77 ぐらいまで上がったので。はい、すごい思い出に残ってます。穴埋め式みたいになってて、全部消して穴埋めにして、毎日書いて確認してみたいな。1 浪目のときは、いやなんかもう本当に知識がなさすぎたので、取りあえず毎日書こうと思って。取りあえずただの暗記をしてて、だけど途中から、その、どんどんなんか理解できるようになって、自分で新たに得た知識とかをどんどん、その余白とかに付け加えていったりして。結構、思い出に残ってます。

## 1 年目から 2 年目になるとき。

いや、なんかまあ一応考えはしたんですけど。やっぱりその 1 年目に、もうすごいお世話になったから、むしろなんかここで受かってなんか、なんか先生たちに恩返ししたいじゃないですけど、なんかそういう気持ちが一番強かったので、すぐに残ろうって決めました。やっぱりその 1 年目は、なんかあんま、そのテキストとかを、なんかちゃんと回せなかったっていう反省点があったので。そうですね、もう 2 年目はテキストだけやるって決めて、もうずっとそれを繰り返そうって決めてたので。振り返ると、1 年目、回せなかったのはいろいろ ( 理由 ) あると思うんですけど、なんかもう授業のたび、授業のたび、もう知らないことが多過ぎて、なんかもうパンクしかけてました。初めて聞くことだらけだったから。先生方も、1 年で受かってほしいって伝わってくるんで、だから、どうしても詰め込んじゃうっていうのも…、やっぱ、どんなできなくても 1 年で受かる気持ちは大事で、器を大きくしていかないと、与えられても溢れちゃうんで、なんか、コップと同じで、こう、わざとこういっぱい入れないと、コップって大きくなんない。逆にその 1 年目は確かに、なんかあんま結構、置いていかれちゃう感じあったんですけど。まあ、逆にそれのおかげで 2 年目は結構、割と、その抵抗なく入ってきたっていうのもありますし。なんか、最後まで諦めない、諦めないのは確かに絶対そうですね。もう自分もなんか前期の段階で全然思うような結果が出なくて、2 次の結果が出なくて。結構、わー、もうまたもう 1 年かみたいな感じで考えたときもあったんですけど、なんかもう最後の最後で一番行きたいところに行けたので、やっぱ絶対最後まで諦めないほうがいいですね、多分。

いやなんか、ほんともう、確かに事務の方たちのなんか声掛けてくれたり、そういうのもすごいなんか嬉しかった。一番言いたのは、やっぱりその、自分、1次試験14校通ったのに、結構なかなか2次の結果は出なくて苦しい戦いしたので、やっぱり2次試験の対策をしっかりするっていうのはもちろんなんですけど、あと1問とか1点に対するその、執念とかを日頃の練習のときから、日頃の勉強のときからその大事にしてほしいなってのは思います。まあもちろん2次試験ちゃんとやるのはもちろんなんですけど、やっぱり学科のほうでも1問1点に対するその、執念とかを大事にしたほうがいいなと思います。いうので身に付つけていけるのかなと。あと、9時半まで、なんか謎になんか一番最後まで残りたい、謎になんか負けず嫌いみたいなのがあって、なんか9時半とか9時40分ぐらいまで残ってたので、そっから多分30分ぐらいで家なので、まあ10時過ぎとか10時10分ぐらいに着いて、お風呂入ってご飯食べて、もう、すぐ寝るみたいな感じでした。そう、6時半ぐらいに出て、着く感じ。1浪目、一応、なんか大鹿(大鹿颯大：昭和大医学部進学：青山学院高等部)とかが7時とかに開く前に並んでたりしたので、まあちっと負けないようにしようと思って、着いて、自分も7時に行くようにしてた時期もあったんですけど、確かに2浪目、2年目のほうがよりその意識が強かったかもしれない。浪人してる間は、もうLINEも返さないようにしてました。だから、なんか2年越しにLINE返信した人とかいます。

卒業生が語る

# 合格への軌跡2023年

WAY TO SUCCESS

北里大医学部２次正規合格

代官山来て分かったっすけど、
代官山じゃなかったら無理っていうの
はありましたね、やっぱり。他の塾だと、
多分、緩過ぎてやんないなみたいな。
やっぱ、楽しに行くわけじゃないんで。

北里大医学部進学 大島 世名君（穎明館高校卒）

## きつい系の塾でやろうって決めてきました。

北里、正規で行きました！決まったのだいぶ早かったっすね。杏林と帝京は1次受かって、杏林は、補欠ついたんすけど、番号回んなくて…。今年、100何番ぐらいしかいかなかったらしくて。帝京は2次が、日がかぶったんですよ、北里と。で、塾長と相談して、北里にしようみたいになって、で、北里正規、はい。最初、A9で、ハハハ。初めて代官山MEDICAL来たとき、覚えてますけど、気まずかったっすね、いや、なんか、成績表とか見せてるじゃないですか、高校時代の成績表とか全統(河合塾)とか、うち私立だったんで、結構、模試受けさせられるんですよ。あと、ベネッセみたいな。そういうのを、ばあっと持ってきたんですけど、まあ、気まずくって、なんか、論外過ぎて、成績が。塾長も、僕も、父親も、全員、なんか、気まずそうに地獄みたいな空間になって…(笑)、めちゃくちゃ覚えてますね。そんぐらい学力がなかったっす、マジで。高3のときの全国模試の偏差値は、40切ってるやつとかありましたよ。100点中4点とか、化学とか何もやってなかったから、まあ、しょうがないんっすけど、ハハハハハ。で、4月の初っ端のクラス分けテストもちゃんとできず、それこそ正規でA9ですから、別に、寝てたとか、サボったとかじゃなく、真っすぐテスト受けて、真っすぐA9いきましたからね(笑)。で、すぐに春の先取りの授業受けて、先取りは、物理で寺澤先生の授業とか受けてて、先取りの課題やっててって感じでしたね。なんか、お父さんに連れて来られたみたいな感じだったイメージだったんですけど、入れてくれるだけ、やっぱ、感謝だから。何ていうんですか、別に、嫌々行ったわけではないんですけど、一応、親が最初浪人決まったときに、親が2択で、代官山MEDICALか、どっかの、なんか、他の医専で、まあ、こっちは、代官山は、きついと。きつい系の塾で、あっちは、多分、普通の、緩めな感じだよとか言って。あー、じゃあ、きついほうでつって、こっち来て、みたいな感じでしたね。最初、本当に基礎からやっていきたかったんで。

## 本当に、人、変えてましたね。代官山にいる間は。

正直、1年で結果出ないと思ってたら、多分、1年で決まってないんで、もちろん1年で決める、って思いながら通ってて、で、うちも別に、家計が余裕あるタイプじゃないんで。母親も、こんぐらいお金出してんだよみたいな、頑張ってねみたいな、言われて(笑)。あと、学校の先生、高校の先生とかは、最後の面談あるじゃないですか、11月ぐらいのやつ、進学先決める高校の三者面談のときとかも、担任から(医学部に受かるの)6年かかった先輩もいるから…みたいな、すごい嫌みな励ましをされて、なんか、多浪、多浪覚悟みたいな。でも、そう言われても仕方ないぐらいの成績だったんで、まあ、仕方ないんですけど。僕自身、浪人中って、はっきり言って、人権ないじゃないですか、正直。アハハハハ。浪人中、人権ないから、もう、個人で頑張ろうと思って。でも、そう言っても、代官山MEDICAL、せっかく周りも人いるから、ちゃんと、友達とか、ある程度、勉強のためにコミュニティー作んのも大事とは思ってたんですけど。別に、誰もかまったりもせず、一喜一憂もできるだけしないようにして。中高もそうすけど、小学校も、とてもじゃないすけど真面目ではなかったから、もちろん勉強もしないし、周りのつるんでるやつらも、やんちゃなやつらばっかで。真面目にやるのは恥ずかしいと思ったことはないっすけど、何かを真面目にやる瞬間っていうのが人生の中でなくて。で、さすがに浪人ってなって、成績も悪いし、クラスも下だし、本当に、人、変えてましたね、代官山MEDICALにいる間は。そうしないと、だって、今までの自分でいって駄目なんだから、ここは、ちょっと、別人になって。いや、もう、シンプルに受かりたいなみたいな。そうっすね。やっぱ、高校の友達とかでも、同じように医学部目指してる人とかいたから、そいつらにも負けたくねえなみたいな。絶対受かるみたいな。で、しかも、医専(予備校)入れてもらってるから、医専、こんないい医専入っといて、だから、それが、もう完全にスイッチ入りましたね。

## やっぱ、塾に対する誠意を示すためにも、ウィークリーはやっとかないと。

ちゃんと試験に向けて勉強したのは、ウィークリーですね、ウィークリーは落とすのダサいみたいな。だって、ベイシックだから、落とせねえなと思って。ウィークリーは、結構、ちゃんと、やってました、ずっと満点取ってます。だってやっぱ、一番下だったから、最初、A9、1学期A9で、夏にA8上がって、2学期でA6ですよ。冬でA3ですよ。すごくないですか。まあ、ウィークリーは言い訳、利かないんで。これは完全に100パー努力なもんだから。やっぱ、塾に対する誠意を示すためにも、ウィークリーはやっとかないとって。紙とかに、ひたすら英語、写経するんすけど。ルーズリーフの、白の面積がちっちゃくなるぐらいまで、ぶわあって書いて、ひたすらやってましたね。で、正直、マンスリーとか模試のためには、普段は勉強してなかったっす。別に、マンスリー受けに来てるわけじゃないから。なんで、マンスリーのためにみたいな勉強はしてなかったですね。、ウィークリーの勉強をしていれば、必然的にマンスリーの勉強にもなるんで。まあ、でも要領が悪い、コスパ悪いというか、なんで、己の力を信じてマンスリーに臨んでましたけど、やっぱ、形式が私立医だから、その形式に慣れるっていう、慣れのためにマンスリーを僕は使ってましたね。まあ、内容なんて、被んないじゃないですか、あんまり。大学の入試と被るとは思えないから、あんま内容よりは、形式とか時間。あれ、多分、あえて杏林みたいな、時間、間に合わないぐらいのあれにしてあるから、時間

とか形式に慣れるために、僕はマンスリー使ってたんで。点数とかは気にしてなかったっすね。でも、クラス上がっちゃうと環境変わるから、やっぱり、知らない人がいっぱいみたいな。周りから、え、こいつって思われんのは、めちゃくちゃ気持ちよかったですよ、でも。ハハハハ。うーん、そうっす。頭良くて、悦に浸ってるやつらを、へへ、下から、ガッてやってやろうとは思ってましたよ、やっぱり。まあまあ、受かったんでいいんすけど。

## 自分を律しようとするところとかは、やっぱ、父親の影響がでかいかもしんないっすね。

1週間のスケジュールの授業が決まってて、全科目、小論も(いつになにやるか)授業が決まってるのが、スケジュールみたいのがちゃんと決まってるのが、僕的にはやりやすかったっす。僕、自分で一人で考えて、スケジュールとか、こう、組み立てとか、そういうのは苦手なんすけど。決めててくれれば、ロボットみたいにこなすんで。それは、すごいやりやすかったっすね、代官山 MEDICAL いる間は。もう一つ、代官 MEDICAL と、もう1個迷ってた予備校で、ちょっと緩かったって思うんで、そこの予備校だったら、いや、受かってないっすよ、多分。だって、普通に。てか、その時ですら、緩い塾行ったら、受かんないなと思ってたから。多分、受かってないと思います。自分の怠惰で浪人になってしまったっていう、自分に厳しくしないとなみたいなのはありました。父親も、やっぱ医者だから、一喜一憂しないんですよ。だから、本当に、おお、よかった、みたいな。よかったよかった、

で終わりですね。そうっすね。ま、そこがちょっと似たかもしんないです。父親に憧れてるから、あんま一喜一憂しないようにしてるとことか。あと、何だろうな、自分を律しようとするところとかは、やっぱ、父親の影響がでかいかもしんないっすね。現役んときは、勉強は、まったくやってなかったんですけど。一応、塾通ってました。●谷学院です。あそこって55段階あるから、結構、勉強しなきゃいけないんじゃないですか。●谷学院に55段階とかあったっすけど、全部切ってました、あれ。ハハハ。いや、いいやと思って。まあ、切っても誰にも怒られないんで、誰も注意しないんで、でも、代官山 MEDICAL の授業は切ることはなかったっすね。あの、体調不良で1回行けなかったことあったけど。あの時だけですね。多分、他は全部、多分、行ってますね。僕が一番怖かったのは、やっぱ授業を切っちゃうと、本当に授業中に先生が言ったワンフレーズの知識とかが、ぱって出たりするんですよ。授業の中の、一瞬一瞬で拾えるものってあるんで、全部丸々切んのはちょっとな、ていうのがあったんで。

だって、正直、教科書があれば、あれじゃないですか、この日の授業何やるっていうの分かるじゃないですか。なんですけど、やっぱ、1時間20分ってあの時間の中で、本当に教科書に載ってることだけを、機械みたいにやる先生たちじゃないから、もっと、教科書より発展させた何かを、絶対、教えてくれるから、それは切れないと思って。やっぱ、実際テストに出るのとかも、そっちのほうなんで。教科書に載ってるのよりも。だから、まあ、すごい、それがあったから俺は一切、授業切ってなかったっすね。そっから、課題も出るし、基本もらったものを、ひたすら、わあってやるみたいな。分かんないことがあったら質問しに行くみたいなんで。野村先生とかなんか適当に物理の話して、なんか、うん、よかったっすね。あの人、結構、話も付き合ってくれるから。やりやすかったっす、めちゃくちゃ。気持ちの、精神の安定剤でした、あの先生。普通に、勉強してて、やっぱ一喜一憂しないとはいえ、やっぱ、へこむときもあるじゃないですか、成績で。全然できないってなったときとかに、泣きつきに行ってました。ここの範囲どうすればいいのかな、つって。これは、こうすればいいんだ、やったでしょ、みたいな言ってくれるんで。それが、精神安定剤でしたね、本当に。

## 塾に行くのは、やっぱ、楽をしに行くじゃないんで。

A9だし、周りとか同じ流れでいっちゃうと、多分、受からないって最初から思ってたから、勉強してこなかっただけだ俺は、みたいな。俺のポテンシャルは全然上だから、いける、みたいに思って、もう、ばあってやってたら、そうっすね、どんどんクラスが上がったのもよかったっすね。おかげで、周りとなれ合うこともなかったんで。あんまり、人とつるむことってな

かったっす、だから、覚悟というか、何つうんすか、うーん、あんまり、僕、人のタイプ的に、物事を何も考えず発言したり行動する人とか、あんま好きじゃないんすよ。ちゃんと一つ一つの行動とか発言とか、理由とか何か意味を持ってしか、あんまり発言も行動も、僕、しないタイプなんで、それがやっぱ効きましたかね、人間的に。それがあったから、俺、浪人生だから、受からなきゃいけないからっていうので生きてたら、必然的に、代官山 MEDICAL では、ああいう感じになりましたね、結果的に、芯持った行動とかに変わったのかなみたいなのは、自分では思いますね。そうっすね。やっぱり、請求書まで見せられてるんでね、こっちは。腹くくんないといけないんで。2年もかけられんってなって、まずいってなったから、ういっす、1年で決めますって、もう、その場で、頭下げて母親に宣言して、俺。分かりました、1年で決めますってって、階段上がって寝て、その次の日から、もう、ガチで、代官山で、ガチで勉強して、いや、だから、代官山 MEDICAL 来て分かったっすけど、代官山 MEDICAL じゃなかったら無理っていうのはありましたね、やっぱり。他の塾だと、多分、緩過ぎてやんないなみたいな。やっぱ、その、●谷学院の前科があるから。こんぐらいじゃないと、やらないって思ったっすね。うん。やっぱ、楽しに行くわけじゃないんで。辛い思いするために行くなら、やっぱ、この塾がいいのかなみたいな。

## 親は、僕のことを大人扱してくれて、ほんと、感謝です。

うちの家庭って、そんな甘々な家庭ではないんですよね。でも、一般的にいったら裕福な家系だから、手取り足取りは、一応、やってくれるし、僕も甘やかされてはきたんすけど、いわゆる、みんながイメージするような甘やかされ方はされたことないんですよ。結構、ちゃんと、父親も母親も、結構、ちゃんと僕に対して、こう、大人として接してはくれるんで。いや、もちろん、親、子どもっていう立場は、これは揺らがないすけど、それでも、ちゃんと、僕を、一大人として、いい意味で冷たく、いい意味で、距離を離して、僕と接してくれるから。なんで、それがあったから、なんか、いきなり、例えば、高2とかも、僕、2週間、単身でアメリカ、ばんって行かされたり、結構、放任というか、ほったらかしてくるんですよ。ちっちゃい頃から、あの2人、看護師と医者で共働きだから、保育園とかに夜8時ぐらいまで、ばんって置かれたり。一人にさせる時間がやっぱ長かったから、そのおかげで、結構、自分一人で物事を考えたり、なんか、いろいろ考えて、いろいろやろうとか、一人でどっか行ってみようとか、そういうのをするタイプにはなったから、そういう教育、教育じゃないすけど、そういう僕に対する接し方が、だって、浪人中なんて、あの、あんま親に頼れるタイミングってないじゃないですか。例えば、代官山 MEDICAL って、朝から夜まであるから。あんま、親に泣きついたり、なんか、親に相談も乗ってもらう時間なんてないし、あっちだって仕事あるし。だから、昔からの親の接し方のおかげで、一人でもの考えたり、やったりっていうのをできるタイプになれたのかなっていうのが、やっぱり、ありますね。うちの親は、たまに父親が、なんか、化学どうしたの、みたいな言うことはあっても、それで、なんか、けんかになるとかは一切なかったっすね。ほぼ口出しせず。でも、僕が、A3 に上がったとか言うと、母親が、もう、鬼みたいに喜んで。ストレスが最小限だったっすね。本当、親に感謝っすね、それは。ちょっと父親が、完全に、ロボットぐらい、何ていうんですか、喜怒哀楽があんまない人で、それがちょっと似てるのもあるかもしんないですね。自立しやすかったのは。そうですね。やっぱ喜怒哀楽あったら、多分、医者ってできないと思うし、感情的になることが父親もないんでね、あんまり。

## 代官 MEDICAL の後輩に向けてアドバイス。

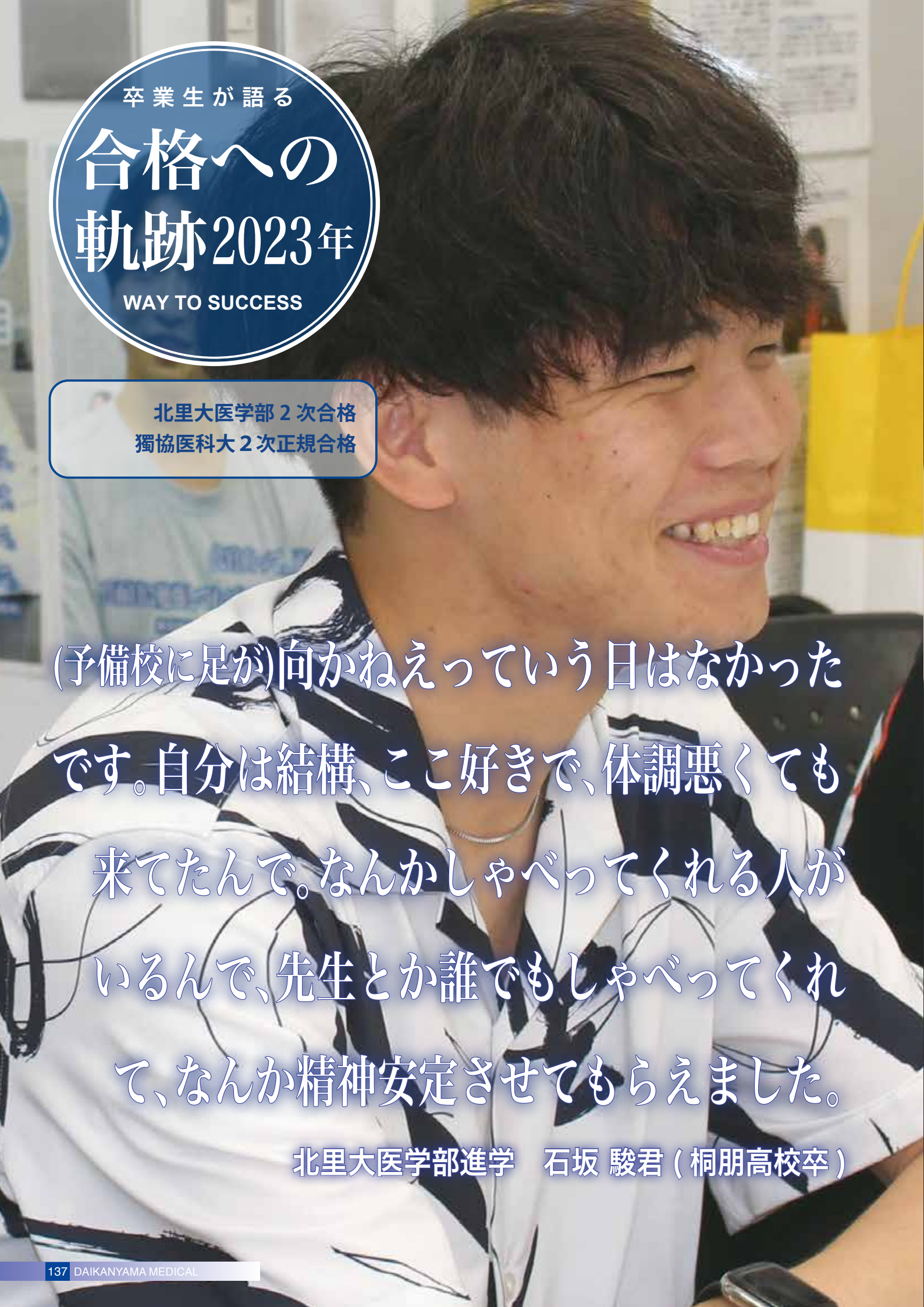
何ですかね、先生の言うことは聞いたほうがいいと思います、素直に。なんか、別に、自分一人で考えてやるなら、ね、なんか何も吸収しないぐらいなら、一人で宅浪したほうがいいんで。せっかく塾入ってんなら、やっぱ、せめて先生たちの言うことは信じたほうがいいのかなって、聞かないほうがよかったなみたいなことは、一回も代官山 MEDICAL でなかったんで。ま、先生の言うこととか、特に石井先生の言うことも、素直に聞いたほうがいいと思います。びっくりするぐらい当たるんで。やっぱ、浪人してる中で一番大事だなと思ったのは、授業に絶対休まず出るとか、そんなのは、まあ、当たり前で。あのー、真面目に勉強するとか、あのー、そういうのも当たり前で、何よりも、自分が浪人してて、その、浪人生の中で自分がどれぐらいの立場なのかとか、どれぐらいのレベルなのかみたいなのを、自分の立ち位置というか、やっぱ、その、自覚をするっていうのが、なんか、一番、多分、大事だと思うんすよ。自己分析というか。で、2次の面接とかでも、自己分析ができているかどうかっていうのが、一番問われるんですよ、やっぱり。北里のときもそうで。自分ではどう思う？っていう質問が多いんすよ、やっぱ、2次って。それって、やっぱり、こいつ自覚できてんのかな、みたいな、自分の立ち位置とか、自分が今、何を目指して、今、自分が何やってんだっていうのを自覚できてるやつなのかっていうのが、分かってるかどうかを、やっぱ、大学側も求めてるから。その、自覚さえちゃんとできてれば、どのルートで勉強すれば、どういうルートを歩めば、浪人時代歩めば受かるのかっていうのが、見えてくるじゃないすか。これ、足りてないとか。自分は、このレベルだ、今っていうの。だから、やっぱ、これから浪人する人は、そういう、やっぱ自覚っていうのを持つのが、僕的には一番やっぱ大事かなって思いますね。

卒業生が語る

# 合格への軌跡2023年

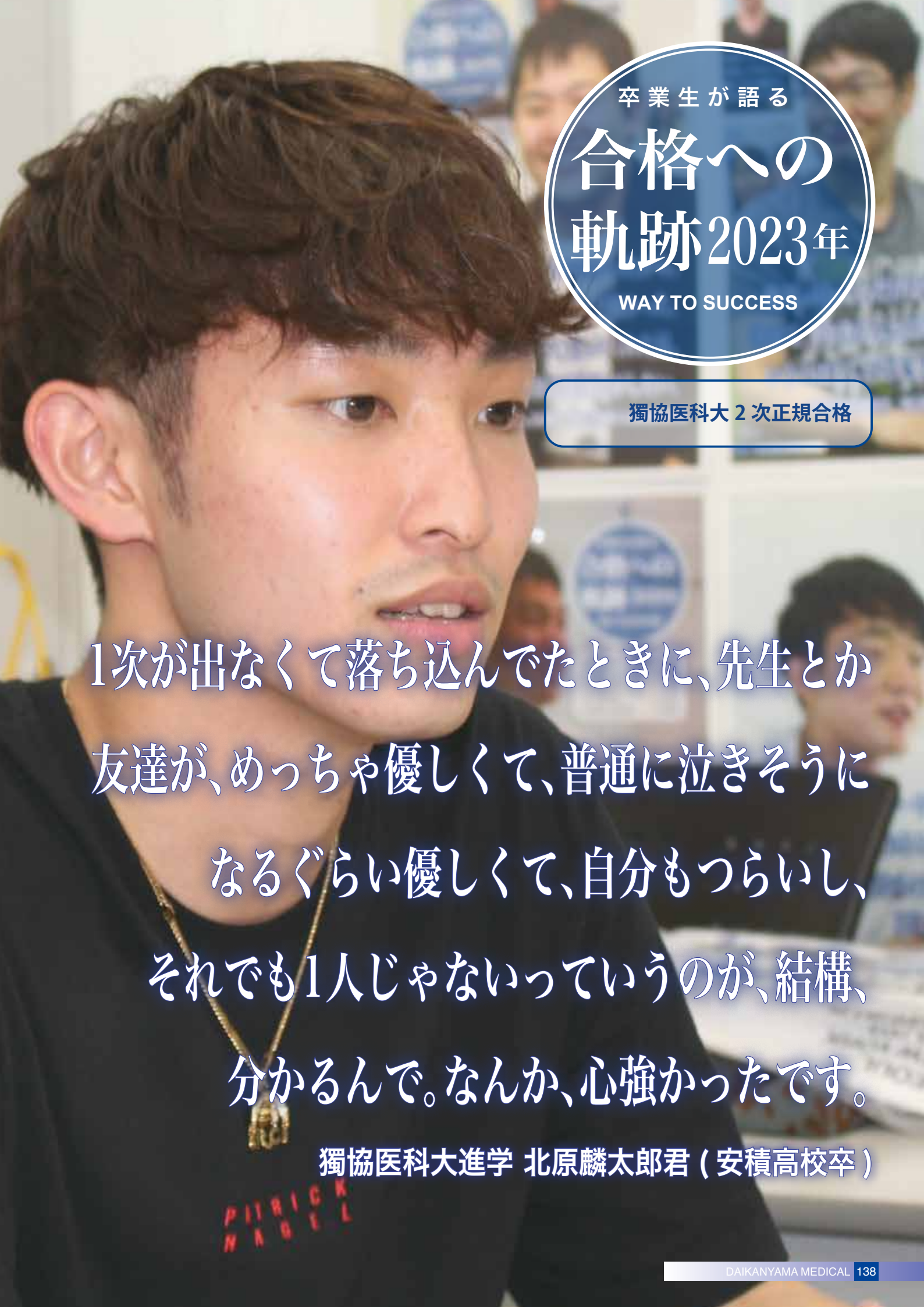
WAY TO SUCCESS

北里大医学部２次合格
獨協医科大２次正規合格



(予備校に足が)向かねえっていう日はなかったです。自分は結構、ここ好きで、体調悪くても来てたんで。なんかしゃべってくれる人がいるんで、先生とか誰でもしゃべってくれて、なんか精神安定させてもらえました。

北里大医学部進学　石坂 駿君（桐朋高校卒）



卒業生が語る

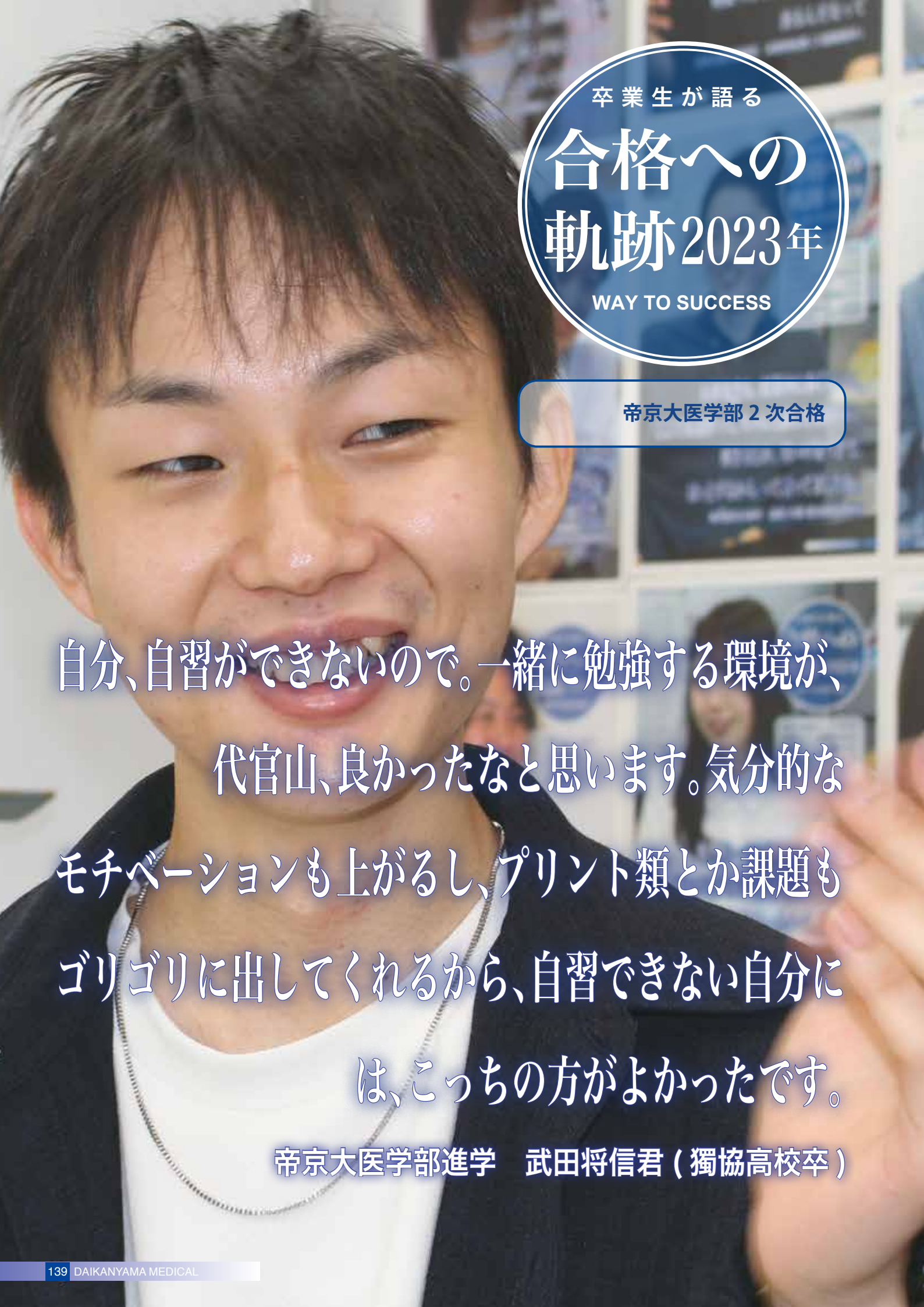
# 合格への軌跡2023年

WAY TO SUCCESS

**獨協医科大 2 次正規合格**

1次が出なくて落ち込んでたときに、先生とか友達が、めっちゃ優しくて、普通に泣きそうになるぐらい優しくて、自分もつらいし、それでも1人じゃないっていうのが、結構、分かるんで。なんか、心強かったです。

獨協医科大進学 北原麟太郎君（安積高校卒）



卒業生が語る

# 合格への軌跡2023年

WAY TO SUCCESS

帝京大医学部 2 次合格

自分、自習ができないので。一緒に勉強する環境が、代官山、良かったなと思います。気分的なモチベーションも上がるし、プリント類とか課題もゴリゴリに出してくれるから、自習できない自分には、こっちの方がよかったです。

帝京大医学部進学　武田将信君（獨協高校卒）

## 2浪目を迎えて

武田：えっと、武田将信です。出身高校は獨協高校です。進学先は帝京大学医学部です。

石坂：えっと、石坂駿です。えー、出身高校は桐朋高校で、進学先は北里大学医学部に進学しました。

北原：はい、北原麟太郎です。出身高校は安積高校で、進学先は獨協医科大学に進学しました。んと、自分は、最初のクラス分けテストであまり勉強してなくて、本館の A4 スタートになってしまって、この武田君とか、石坂君が 2 号館に行ってしまったことで、結構、精神的にも辛くて、辛かったんですけど、1 学期から勉強をずっと頑張って、でもそれ ( 自分だけ本館スタート ) が起爆剤になって、頑張る理由になりました。

石坂：んと、自分は 1 年目、1 浪のときが下のクラス (A9) だったんで、まあ、その 1 年目駄目だった結果を見て、2 年目頑張ろうって決めて、あとなんか、2 年目、クラス分けで、いいクラス (A3) いけて、で、そこからは、負けたくないって気持ちが、結構出て自分で頑張ろうって思って、クラス維持からクラスアップを目指して、日頃なんかやるべきこと ( 先生からの課題 ) ちゃんとやった 1 年でした。

武田：自分も去年は、1 浪目のとき、結構下のクラス (A9) だったんで、で、2 浪目で少し上のクラス (A3) にいけたんで、それで最初のほうはモチベーション高く、上のクラスに上がるぞって気持ちで勉強できたと思います。

石坂：全員、2(浪) ですね。リンちゃん ( 北原麟太郎 ) がそっから最終的に A1 まで上がって、武田も M4 まで上がったのか、すごい躍進的ですね。

北原：1 浪んとき、聖マリの 1 次 ( 合格 ) が出て、2 次があと 40 人で回んなくて、それですごい落ち込んでて、( 次の年の ) 春は、全然勉強ができなかったです。ああって落ち込み、引きずって。はい、そうです。普通に引きこもってました、ハハハ。んと、掲示板とかで、きょう 1 日、何人回ったとかが分かって、で、先生とかも自分の番号を知ってるから、もうちょっとだねとか言ってくれるんですけど、回るのが遅くなって、結構、自分では、ああ、やばいかもって察しちゃって、なんか家族とかに申し訳ないなと思ったり、あと 1 年頑張るのかっていう気持ちで落ち込みました。諦める選択肢はなかったんで、そのときは。あ、それはないです。

石坂：いや僕は、もともと、結構、現役のときに、偏差値 36 とか 40 ないぐらいだったんですよ。で、高校の先生とかにも、もうなんか、医学部目指すのやめてほしいみたいな。マジ、やめた方がいいって、言われて。そんぐらい言われてて、で、まあ、浪人するのは、その高校が、そもそもみんな浪人する学校なんでなんかあんま、別に恥ずかしくはなかったんですけど、最初から、なんか 2 浪計画みたいな感じでいってて、自分は。あんま良くないんですけど。で、1 浪のとき、川崎医科だけ 1 次 ( 合格 ) もらって、正直、そのときは本当びっくりで、もともと全落ちすると思って受験を挑んでたんで、1 次もらえて、意外とそっから勉強する気が起きて。で、しかもクラス分けに向けて勉強して、来年は絶対、受かるなみたいな、来年、2 号館いけるなみたいな、手応えがあって、勉強の仕方とかも、そこら辺からようやく分かってきて。多分、( 学力が ) 伸びたのは受験のときで、1 校通ったっていう自信、そこが自信になって。で、なんかもし、その ( 補欠が ) 回ってきても、なんかあんまいい話、聞かないとかあったんで、だったらなんかワンチャン蹴って、実際、回ってこなかったんですけど、回ってきたら蹴って、来年、もっといいとこいけるなぐらいな、なんか自信が付いて。でなんか、その逆にめっちゃ勉強できました、その期間も。

武田：1 浪終わったときに、後期で埼玉医科 ( 1 次合格 ) が出たので、で、まあ、1 次受かれば、正直、2 次はどっかしら、来年いけると思ってたんで、結構、楽観的な気持ちで 2 浪目迎えて、まあ、受かるだろうって感じで春もやってました。

## 1 浪のときと 2 浪のときの違い。

北原：行動的に変えたのは、全科目のマンツーマンを取ったことです。２浪目は全科目先生決めて取るようにしてました。物理が柳瀬先生で化学が菊本先生で、数学が典さん ( 高橋典先生 ) で英語が北林先生です。えっと、物理が一番苦手だったんですけど、物理で柳瀬先生と、春から勉強することによって、自分の勉強の仕方とか、どういう覚え方をしたほうがいいとかを、柳瀬先生が分析してくれるので。あと、課題もたくさんプリントとかをくれるから、それに従ってやってたら、結構、伸びました。ここ全員、柳瀬先生にお世話になってる ( 笑 )。

石坂：はい。柳瀬組です。生徒思いのところ、なんか、仕事で教育をしてるというんじゃなくて、なんか好きで教育をしてるって感じがして、なんかもうプリントとか、全部、自分で作って、一人一人課題とかちゃんと与えてくれて。過去問解いて持っていったら、めちゃめちゃ添削してくれて、ここ、こうしたほうがいいとか、なんか、いや、もう、まじ、いい人っす。まあ、なんか、あんま褒めはしない。ツンデレですから。

北原：愛はすごい伝わりましたね、本当に。

武田：自分も、朝起きれなかったんで、柳瀬先生にあいさつしに行きたいって言って。来てもらって、はい。

石坂：本当にやばい、こいつ。柳瀬先生に朝、あいさつしに行こうと思って、来るようになったの。で、来てくれました、あの、( 柳瀬先生は )1 限ないのに。

北原：( 柳瀬先生に ) 「8 時 20 分に来て」、とか言ってた。

武田：はい、頑張りました、頑張りました。

石坂：なんか行動で、もともと 1 浪のときは、クラスが下 (A9) だったんで、もう勉強するしかないなっていう、なんかもう量やるのが大事って考えてたんですけど、なんか２浪のときクラス上にいって、なんか効率をなんかひたすら求めて、その、眠いときになんか頭使う勉強しても、なんも入ってこないし、もうなんか、もう寝る限界のところで、なんか勉強しても、絶対、勉強にならないなみたいな。だからそういうときは思い切ってやんないとか、やることをなんかそのちゃんと決めてもらって、で、その量もあんま多くしないで、質を高めて勉強するみたいな。なんかやる気でないときはやらない、やる気あるときに、があって詰め込んでやるみたいな、質、効率を重視してました。でも多分、量が少なかったので、楽詩 ( 清水楽詩：日本医科大進学：成蹊高校卒 ) とかとの差が開いちゃいました。楽詩は、清水は、僕と真逆で、効率じゃなくて、もうひたすら勉強みたいな。なんか勉強量で、あそこと差がついて、まあ、今の結果になってるのかなみたいな。

武田:あと物理も、あの結局、その復習ほぼせずに、柳瀬のプリント、あ、柳瀬先生の、( 北原：「先生」付けてください ) 柳瀬先生のプリントだけやって、やってれば、なんか勝手に伸びたので、そのおかげで。

北原：自分もです、マンスリーも。

石坂：あ、僕は、取ってました、岩瀬先生。数学は中村先生で、化学は龍さん ( 高橋龍先生 )。で、龍さんオリジナルプリントがあって、オリジナルの問題集があって、で、各分野について 10 問ぐらいあるんですよ。で、大体、10 問できるようになったら、もうそこの分野 OK みたいな。要点まとめたのがあって、で、僕はさっき言った通り、質重視な感じでいきたくて、だから、その量が多過ぎずに 10 問ぐらいなんで、ちょうどやりきれる量だったのが、ちょうど解ける分量でちょうど良かったです。で、あと、英語が苦手だったんで、梅田先生の英語のプリントで、その文法もなんか、えげつないぐらい量が多くて、それをいっぱい復習して、なんかオリジナルの問題集がある人がすごい良かった印象が。ほんと、自分にあった先生、先生方だったと思います。

北原：自分は、柳瀬先生と化学の菊本先生に、よくお世話になっていて、菊本先生は、マンツーのときにプリントをたくさんくれるんですけど、そのプリントが、まんま本番の試験に出たっていうのがあったんで、それが 1 浪目の、あ、1 年目の話なんですけど。それで２年目も菊本先生を取って、化学は一番得意で、武器になりました。ほんと、本番で出ました。あと、柳瀬先生もピンポイントで出て、金沢医科とかも、普通に全く同じ現象で、大問で出たりして、でも落としたら殺すみたいな感じで、結構、本当にまんま、出ました。あと、精神的にも、そうっすね、菊本先生とか柳瀬先生は、質問対応がすごく良くて、聞きに行くと、

いつでも、なんか嫌な顔せずに、僕らに教えてくれるっていう印象があって、そういうハートフルな先生が、自分は好きでした。典さんもです、めっちゃいい、優しいです。お父さんって感じ。

## 一番きつかったときは？

北原：きつかったのは入試の時期で、自分が一番最初に１次合格が出たのが金沢医科で、それが受験期の３週目とかで、その最初の３週目までに１個も１次合格がなくて、それで今年も受かんないのかなっていうメンタル状態になって、結構、落ち込んだときが一番辛かったです。なんか負のオーラが立ちきれなくて。

武田：聖マとかが出なくて、その後の試験ってことじゃない？

北原：引きずってましたけど、金沢が出て、周りの友達とかもみんな喜んでくれて、あ、これいけるんじゃねって思って、そしたら獨協と、福岡もぽんぽんと出て、結構、のりのりで、２次試験に行けました、はい。１個出るまでがすごい辛かったです。つらい。物理が全部、難しくて、最初の１週とか。それで、みんな追い込まれてました。

石坂：僕も、結構、あったんですけど、夏、周りがみんなめっちゃ勉強してて、あ、ちょっとやばいなって感じて、なんでした？なんの質問でしたっけ？あ、きつかった時期ですよね。その、なんかめっちゃ勉強してて、あ、自分もしなきゃみたいになって、なんか焦って、自分ちょっと追い込んで、やってた時期がちょっときつかったのと、あとは、その時期に体調崩しちゃって、やっぱり１週間休むみたいな、みたいなのがあって、しかも時期が時期で、11月ぐらいで、しかもちょうどそのときに妹（石坂美涼：東京女子医科大進学）が、推薦で女子医科に受かって、受かっちゃって、で、先に大学生、決まっちゃったってなって、ちょっと焦って。プレッシャーが…まあ、あそこはまじ、一番きつかったですね。

武田：自分は、３月が一番辛かったです。１次合格が４つ出たんですけど、２次が最後の最後まで来なくて、で、２人は正規で決まっちゃったから。で、もうまた、３浪目は絶対したくなかったので、医学部へいけないかもなと思いながら、３月過ごしてました。３月の最後、終わりに、（２次）合格、来たって、いったとき、安心はしました。親もすごい喜んでくれました。ちょっと、まさか帝京来るとは思わなくて。

北原：走り続ける。走り続けてって感じですよね。歩いてもいいから止まんなかったです。毎日、塾、来ようとしたりして。日曜日に、行こっかな、行かないかなっていうときがあるんですけど、行かないと絶対、後悔するんで。根は真面目なので（笑）。まあ、そうですね。

石坂：向かねえっていう日、いや、無かったです。自分は結構、ここ好きで、１浪のとき休んだのが１回で、ワクチンの翌日だけで。去年は、体調悪かったとき以外、でも、体調悪くても、多分、来てたんで。なんかしゃべってくれる人がいるんで、しゃべり相手が先生とか、結構、６階行けば、誰でもしゃべってくれて、なんか精神安定させてもらえました。引きこもってると気持ちも、やっぱ負のほうにいくだろうってなるから、気分転換も兼ねてこっちに来たほうが、絶対にいいっていうのはあります。

武田：朝、起きれなかったんです。朝起きれなくて、でも起きたら行く努力はしてました。３限までに起きれたら。行くようにはしました。眠くて。

北原：睡眠薬、飲まないと。恋はしないほうがいいということは、言っときます。後輩たちへ。ここはノーカットで。

武田：えー、完全にカット、完全にカットだよ、これ。だって、学内で恋愛はさ、ご法度よ。ご法度ですから。

石坂：だから、僕からからも注意を。

北原：マジでしないほうがいいと思います。

石坂：でも、まあ、経験上、そうしないほうがいいと。

北原：病むんで。

石塚：病む。

北原：勉強以外で病むのは、まじ、もったいない。

## 代官山だったから受かったなって、いうところがやっぱ…。

武田：えっと、自分は、現役のときに、メディカル●ボ、行ってたんですけど、で、メディカル●ボは本当に人と交流なくて、で、代官山 MEDICAL は、いろんな人とまあ、しゃべれて、人としゃべれないと、自分、病んでしまうので。

北原：そっか。アハハ。知らなかった。

武田：知らなかった？そうですよ。だから、メディカル●ボだと、先生としゃべれる機会があまりなくて、

ラボは、授業が1日に3コマぐらいしか入ってなかったんで、はい。あと全部自習でやんなきゃいけないんで、自分、自習ができないので。はい。だから、人と一緒に勉強できる環境が、代官山MEDICAL、良かったなと思います。話をすることで、気分的なもののモチベーションも上がるし、それも、プリント類とか課題もゴリゴリに出してくれるから、自習できない自分には、こっちの方がよかったです、はい。

石坂：僕はマンツーマンっていう制度がめちゃめちゃ良かった。授業とマンツーマンが同じ先生っていうのが良かったです。授業とマンツーマンっていう、その二つある制度が良かったなって、どっちか片方じゃなくて。なんかその、授業って、多分、授業受ける、クラスの全体授業受けるって、多分、受動的になっちゃって、聞いて終わりみたいな、なっちゃうんですけど、それを聞くだけじゃなく、あの、マンツーマン受けることによって、授業を、なんつうか、能動的に、自分から勉強するみたいな、僕のマンツーマンの使い方が、その授業でやったことの復習を先生に助けてもらうみたいな形が多かったんで、その受けた授業を無駄にしないみたいな、そういうスタイルが良かったなあと。

北原：確かに、それは他のところでできないかなって感じがする、なるほどね。僕は、クラス分けに関する、関わる重要なテストが月1回ずつあることです。マンスリーがなかったら、多分、1カ月に1回とか、そのペースで復習しようとは思わないんで、知識の確認にもなるし、ひりひりしながらテストが毎月できるっていうのは、結構、他のとこにはない良さなのかなって思います。そうだよね。多分、うちぐらいでしょ、計9回もやって、外部模試も含めると11回あるわけだから、マンスリーテスト前の1週間とか、やっぱ、空気変わってくるんで。

石坂：うーん、めちゃめちゃ、でも、勉強はしますね。自分は結構、してました。

北原：マンスリーの前しか質問にいかない人、邪魔だなと思ってました。いつもいないのに、めっちゃなんか、だらだら質問してるし、なんか、自分たちの柳瀬先生が取られた感じがして、ちょっと悲しかったです。1週間前に急に来るようなのってなんなんって、俺らずっと聞いてるのに、みたいな。

石坂：僕はほぼ、毎休み時間。なんか質問じゃなくても、しゃべりに来たりとか、してました。

武田：休み時間、聞きに行ってた。6階、ん？　自習室にはいなかったです。はい。

北原：んと、代官山MEDICALは普通に、なんていうのか、誰もが通えるところじゃないし、親がいないと医学部にも入れないしっていうのを、結構、受かってから、幸せ者だなって思うことがあって、あとは、先生とか友達に、勉強以外のとこも支えてもらったんで、結構、感謝ですね。ああ、何だろうな。うーん、1次が出なくて落ち込んでたときに、先生とか友達が、めっちゃ優しくて、普通に泣きそうになるぐらい優しくて、自分も辛いし、それで、でも1人じゃないっていうのが、結構、分かるんで。なんか、心強かったです。1人には、なってなかった。

石坂：まあ、モチベーションの保ち方がうまくいった、はまったって感じですかね。なんか例えば、マンスリーで貼られるじゃないですか。で、僕はあんま、2人に言ってないですけど、この2人には負けたくないなって言って、なんか一緒に勉強とかしてて、2人とかその、なんか仲いいから勝ちたいなみたいな。

北原：俺も持ってました。
武田：持ってました。全員そう思って、負けたくねえなって。
石坂：俺は、なんか別に勝負とかしてたわけじゃないですけど、いや、頑張りてえな、みたいな。
北原：物理は特に負けたくなかったです。
石坂：そうですね。なんか落ちなかったですね。上のほうにいられた、そのモチベが。
北原：あ、ジム行って元気になってたじゃん。
武田：うん。はい。ジム行ってました。はい。リフレッシュです、主に。走ると元気になるんで。
北原：余計なこと考えなくなるんでしょ。
武田：そうそうそう。なるべくそう、邪念を取り払える。
北原：いや、日曜日の代官山 MEDICAL が終わった後に行ってたので。合法です。
石坂：いやいや、まあまあ、やることはやってました。

## 武田君と北原君は、寮生活でしたよね？

武田：自分、食事付きの寮でした。
北原：自分、徒歩 1 分の寮でした。うまくやってました。朝起きて 15 分あれば、近いんで塾が、15 分あれば学校に行けるっていうとこがすごい魅力的で、あと、授業の合間に、1 回おうちに帰って、ごろんってしてリフレッシュしたり、お昼休みだけおうちに帰って、リフレッシュしたりとかが、1 分のほうの寮だとすぐできるんで、そういうところは結構、魅力だと思います。たまにご飯作ったり、まあ、洗濯は毎日ぐらいしてて、結構、そういうのも効率のいい人間になるためには、結構、成長できたかなという感じです。
武田：えっと、1 浪目にも行ってたんですけど、食事付きの寮に、そのときは、あの、リンちゃんとか、その辺りがいたんで、授業終わった後に食堂で食べるのが、すごい楽しかったです。
夜ご飯、はい。あれ行けば、ぎりぎり間に合うんで、9 時半ぐらいで。ぎりぎり間に合います夕飯。あの、刺し身とか天ぷらが出るので、いい時はすごい、ちと。みんな、なんか割と集まって食べれるんで、楽しく。

## 後輩へひとこと

北原：はい。自分は、なんで医者になりたいのかを、ちゃんと心に留めておくことが大事だと思います。自分は、後輩が死んじゃって、それで救急救命医になりたいなっていうのを、結構、なんか毎日のように、シャワー浴びてるときとか考えちゃって、あ、自分、そんなに医者になりたいんだって思ったら、自然と勉強も頑張れる気がして、それも原動力の一つで。結構、医者になりたい気持ちがあれば、なんか 2 次試験とかで、そんな対策しなくても本当のこと言えば、その面接官にも伝わるし、この子を大学に入れたいと思われるはずだから、勉強面でも 2 次試験の面でも、医者になりたい気持ちを忘れないでいたほうがいいと思います。それ獨協の面接で言ったら、受かりました。フフフ。そうなんですよ。だから、心でなんか会話したほうがいい。対策マニュアルとかを覚えるよりも、ちゃんと心で、2 次試験はやったほうがいいと思います。この 1 年間、それをね、片時も忘れないでいられた。
武田：後輩へのアドバイスでしたっけ。これからね、代官山 MEDICAL で頑張ろうって人に。石井先生の面接、小論文の授業が冬にあったんですけど、その教わったことが、面接でも聞かれたし、面接で言うときにも、それ思い出しながら言えたので。印象にも残りやすい話だと思うし。印象に残って、役に立ちました。石井先生、そこら辺、精通してるから、詳しい内部情報であったりだとか、そういうね、話題性のあるものっていうので提供してくれてたと思う。面白かったんです、面接の授業が。
北原　獨協、来たほうがいいですね。大学病院が隣にあるし、ドクターヘリのヘリポートとかが見れるから、まじで、うわ、かっけえっていう思いで、早く医者になりたいって、みんな、みんな思ってます。白衣の人、超、かっけえって。

卒業生が語る

# 合格への軌跡2023年

WAY TO SUCCESS

日本大医学部Ⅰ期２次正規合格
埼玉医科大前期２次正規合格

正直、誰よりもやってた自信あるけど、
それがめちゃめちゃつらかったけど、
(合格への)軌跡とかを読んで、やるしか
ない、って、MEDICALで無理なら、
無理だなと思いながらやってた。

日本大医学部進学 鳥山 美紀さん（淑徳与野高校卒）

卒業生が語る

# 合格への軌跡2023年

WAY TO SUCCESS

埼玉医科大地域枠推薦合格

本当に、マジで運でした。数学も出たんですよ、テキストから。数学なんて全部で8問ぐらいしかないのに、最後の1問がもうそのまま出たから、それのおかげだった。

埼玉医科大進学 小牧 明路葉さん（都立白鴎高校卒）

## この１年できつかったところ。

小牧：えーっと、埼玉医科大学に進学した小牧明路葉です。出身高校は都立白鴎高校です。

鳥山：日本大学医学部に進学した鳥山美紀です。出身高校は淑徳与野です。

小牧：私の場合はなんか周りの、高校で周りに医学部に進学する人はいなかったので、あんまり。理解されにくい、自分でやっていることが、なんか、何ていうの、結構、周りはあんまり勉強してなかったんで、休み時間とかは結構、きつかった。私は勉強しなきゃなって。その学校にいる子たちのギャップも結構、苦しかった感じでした。

鳥山：私は６月の初めまで部活をやってたので、部活をやりながら、代官山 MEDICAL に来るのがきつかったですね。結構、確かにぎりぎりで来ているというか、その１個前の、現役のクラスが始まる１個前（５時間目）のマンツーも部活でつぶれるし、現役の１コマ目（６時間目）も部活でつぶれるし、大会とかの前だと、もう走って来るみたいな、（代官山）MEDICAL に。なんかすごい急いで、荷物も多かったし、しかも一番きつかったのは、代官山 MEDICAL に行くとみんながもう、1、２時間前とかに勉強してるのに、私、勉強してなくてみたいな。そのー、同じところを目指してるのに、全然、足りてないじゃんっていう。でも、できないしっていう、その葛藤がつらかった。大変だったかなと思います。足りない時間は、隙間時間とか、電車とか、まあ、歩きながらとか、休み時間とかもそうだけど、でも正直、６月、部活を引退するまで、部活も割と入れてたから、あんま勉強は、ただ焦って勉強してないみたいな。そっからは、部活引退してからは、もうそれだけ誰よりもと思って勉強してた。でも、うん、受かるまでは間に合うと思ってなかった。

小牧：私も、でもそう。はい。そうです。学校から代官山 MEDICAL までの、その電車の時間に課題はやるみたいな感じでした。本当にそういうところを切り詰めてやっていかないと、間に合わなかったって。でも最初、なんか推薦を受けようとか思ってなくて、なんか普通に一般だけ受けようと思っていたから、急に推薦を受けるってことが決まって、そこから焦りまくりって感じでした。なんか一般への、試験の練習になるかなって思って受けました。

鳥山:そうだよ。あろちゃん、なんか「マジで絶対、落ちた」って言ってた。

小牧:そうなんだよ。本当に、なんかもう試験、試験っていうか、終わった後、「落ちたわ」とかって、フフフッ。

そら受からんわみたいな。ハハハッ。

鳥山：私は思ってた。絶対、この子、受かるって。

小牧：受かんないよ。

鳥山：いや、だってさ、あろちゃんのできないは絶対、私よりできてる。毎回そうだった。うん。謙遜なんだなって思っていました。

小牧：本当にもう、面接とかでもマジで答えられなくて、落ちたって思って、でも、それでもいいやって思ってたから。答えられなかった質問ありました、全然。そのー、一般推薦の子が受ける質問は結構、なんか優しい方で、答えられたんですけど、地域枠のほうは結構、きつくて、私は埼玉県の地域枠で受けたんで、埼玉のことについて聞かれるんですよ。それはあんまり対策してなかったから、そこは結構、きつかったです。地域特有の話。

それでも合格したっていうことは、多分、筆記でだいぶ稼げたっていうところが大きい、はい。実際、日曜日がテストだったんですけど、土曜日の緒方先生の生物単科でやった問題とか、そのまま出て。マジでそのまま出て、それとかが大きかったかなって思います。

鳥山：数学、ガチむずかったんです。数学はもう、どの学校も難しくて、数学は間に合わなかった。でも、生物とか理科、化学と生物に関しては、授業でやった問題とか、それより簡単な問題とかが出たから。だから、できた日大と埼玉だけって感じです。でも、受け終わったときは、受かってると思ってなかった。日大の１次は絶対、落ちたと思ってたから。

## 代官山でガチやりだした。

鳥山：私は、いとこの川島綾美ちゃん（日本大医学部進学）がここに通ってて、同級生の川島怜大（昭和大医学部進学）も来てたから。その紹介で来て、石井先生と面談してみて、自分に合うなと思ったから。そうそう、怜大も現役で昭和に合格して。マジですごい。お姉ちゃんも今、チューターやってくれてるし。

小牧：すごい。マジですごいよね。私はここ来る前

の、なんか個人の家の下の塾で教えてもらってた古田先生（古田貴栄：東京女子医科大進学）っていう先生がここで受かったって聞いて、来てみたって感じです。前いた所の人の紹介みたいな感じ。

鳥山：え、結構、前からだよね。２年生のころ。

小牧:２年の、２年の夏終わったぐらいだと思います。で、もう石井先生に「間に合わない」って言われて。

鳥山：ね。だから間に合わないって・・・。

小牧：夏前だったら間に合った。

鳥山：あ、言われた、言われ、ていうか、間に合わない時期に入ったうちらもやばいね。

小牧:そうそう、そうそう。で、「間に合わない」って言われたのに…。

鳥山：もう間に合わないの衝撃、やばかったよね。

小牧：そうそう。それしか覚えてない。そう。それでやばいなって思って。

鳥山：だから、私とかやばいなと思ったから、これはちょっとカットしてほしいんだけど、数学の High クラスにいたんだよね、最初、２月、３月とかかな。だけど難し過ぎて、でもやんなきゃと思って、２時ぐらいまで勉強してた。

小牧：えー。

鳥山：そしたら、ちゃんと体調崩して、でも別に解ける問題とか増えてないし、だから健康が大事だしなって思った。自分のレベルに合った、ちゃんと授業を受けたほうが近道だなって思ったかな。無理し過ぎて食い付くよりかは、自分に適したところでちゃんと。そう言ってあげたい。あの頃の私に。中村先生の、できるレベルのところからのアプローチ、そう。中村先生は救世主だった。

小牧：でも、みきちゃんとか、朝来るときも、あの坂あるじゃないですか。坂で、マジで生物とかをこうやって歩きながら見てましたよ。

鳥山：いや、でも別に、歩きながら勉強はできた。許容、自分の許容だったって感じ。

小牧：それ見て、すごいなと思って、私もやらなきゃっていう。

鳥山：でも、その許容って、一人一人違うから、例えば７時に来れる人と、７時には来れない人とか。だから許容、自分の許容をちゃんと分かった上で、最大限にやったほうがいいと。鋪屋さん（鋪屋 瑠美：東京慈恵会医科大進学：頌栄女子学院卒）のことは真似できなくない？

鳥山：あれを真似しようとすると、風邪ひくから。あとなんか、受かったときの自分をめっちゃ考えてた。やる気なくなったとき。モチベーションはずっと保ってた。

小牧:私、あんまり先のことを考えてなかったです。もう今、（中村先生からもらった）やるべき課題だけを考えてました、私は。

鳥山：そう、確かに。これ対極だね。先のことを、大学生になるのを想像してモチベーションを高めていた。

小牧:今、これやんなきゃで精いっぱいでした。はい。

鳥山：これ、デメリットとしては、大学の自分、想像し過ぎて、時間経ってるみたいな。アハハハハ。そうそう。今、我慢してるのとか、やってる自分とか、想像すると楽しくなってきちゃって、気付いたら時間が…。

## 先生とも近くて、２人だから相談しながらできた。

小牧：先生との距離が近い、っていうか、気さくになんでも話せたし、あと、友達ができる。他の塾とかだとあんまり個人（個別）とかだと、私、無理で、なんか、友達と切磋琢磨できた。

鳥山：なんか刺激だったよね。鋪屋さんとか、シカちゃん（四ケ所 葵：横浜市立大医学部進学：湘南白百合学園卒）とかがすごいから、もう焦りしかないみたいな。生物を受けても。

小牧:で、できる人のとにかく真似をするみたいな。みきちゃんとかもなんか、休み時間あるじゃないですか、休み時間も自習でこもって、途中から、なんかチャイム鳴ってから来るみたいなのあったよね。そう、そこまでずっと自習室で勉強してるんですよ。なんか他の子とかが喋ってても、教室に行って先に喋ってても、みきちゃんは、自習室でもうぎりっぎりまでやってから来るみたいなのやってたから、私も真似してやったりとかしてました。

鳥山：いや、私も、集中力が切れたときに、今、あろちゃんだったら集中してるんだろうなっていう。あ

ろちゃんを憑依させてた。しかも、鋪屋さんとかシカちゃんになってくると、そもそもが出来上がってたけど、私たちって言うともう失礼だけど、私たちは、結構、ぎりぎりだったじゃん。

小牧：そう。ぎりぎりで。

鳥山：受かんねぇな、こいつみたいなレベルからのスタートだったから、そのぐらいやらないと、ていうのはあった。

小牧：そうです、そうです。

鳥山：夏休みの７月 30 日かな、７月 30 日のマンスリーで、生物がやばかったんだよね。マジでできなくて、で、そこで、「え、やばいよね、やばいよね」みたいな。で、明日から頑張ろうみたいな。

小牧：で、みきちゃんがその前から頑張っているのは分かってたから、１人で、なんか８階のラウンジとかでも休み時間とか勉強してんの分かってたから、私も頑張んなきゃなってなって。

鳥山:で、やばいねってなって、明日からやろうねっていう。その次の日から生物、その冊子があったよね、あのー、ハンドブック、緒方先生の。現役だけかな、暗記のやつ。暗記カードみたいなのあって、それを全部書けるようにしろみたいな。なんか 200 枚ぐらい、100 枚ぐらいあって、それを夏までに全部書けるようにしろって。

小牧：言われてて、それを緒方先生から。

鳥山：だから、私はその、写すとこから始まったんだよね。単語のカードを作るところから。

小牧：そうそう、そうだ、で、そっからもう夏、毎日、朝７時。

鳥山：そこのＢ教室に来て。朝３枚を、何も見ないで書いて、お互いに採点し合うっていうのを１カ月続ければ、100 枚ぐらいいくよねっていう計算で。それを無理やりやってたよね。だから、それは２人いたから。

小牧：そうなんです。１人じゃ無理だったけど、２人で。辛くなったときとかも、相談できるし。

鳥山：あと、ここ、普通に授業の質、高くない？

小牧：うん。

鳥山：授業の質がめちゃめちゃ高い。あと、授業のコマ数も多い。質×量で、もう何倍にもなるみたいな。高３の夏、ぎっちぎちに入ってたもんね。夏とか時間割、多分。

小牧：あと、やることが決められてたっていうのは大きいかも。なんか自分でそれを考えるのもあれだから、言われたことをただやるみたいな。いい意味で自由じゃなかったのが、結構、大きい、課題、これやれ、これやれ、ずっとね。

小牧：決められた課題をやるので、空きコマも精いっぱいみたいな感じだったから、自分であんまり考えることはあんまりなかったです。なんかいい意味で暇じゃなかったから、やることが常に決まってたって感じで。

## 現役で医学部に受かるためには。

鳥山：確かに、現役ね、私はもうマジで、なんか、諦めなきゃ受かると思う。絶対に落ちると思ってて、浪人すると思ってたから、自分が。

小牧：私もそう。

鳥山：正直、誰よりもやってた自信あるけど、でもそれでも落ちると思ってたから、それでこんなやってんのに落ちるんだっていう、それがめちゃめちゃ辛かったけど、でも本当にそれをやり続ければ、受かる可能性は全然あるから、現役生で部活大変な子も頑張ってほしいなって思う。生物はもう夏にめちゃめちゃやった。泣きながら、泣いてた、ガチで普通に泣いてた。でも、周りとか、(合格への)軌跡とかを読んで、やるしかない、って、やるしかないって、ああ、(代官山)MEDICAL で無理なら、無理だなと思いながらやってた、って感じで。

小牧：何だろう、若干、(推薦は)孤独感みたいなのがあるかもしれない。でも、推薦で受かるってあんまり思わないで行くことが大事かなみたいな。要は(一般)試験の前倒しっていう、体験みたいな感覚で受けて、通れば嬉しいねっていうぐらいの心持ちでいれば。でも人よりも早い段階で(実力を)仕上げなきゃ、推薦受からないっていう意味では、それはそれで、はい。でも、完成はしてなかったですよ。確かに完成するのは難しいと思う。だって、余裕で１年２年かかる人間だっているわけだから、そん中でも短期間で仕上げたっていう、一定水準まで持っていけたっていうのは、運が大きかったです、私の場合は本当に。

鳥山：でも、日頃の行いがいいから。

小牧：もう本当に、化学とかも前日、授業でやったとこが出るみたいな。本当に、マジで運でした、本当に運でした。私は運で受かったようなものかな。数学も出たんですよ。本当なんです。これ、本当に。数学なんて全部で８問ぐらいしかないのに、最後の１問がもうそのままなんですよ。出たから、それのおかげだった。それだけ入試に、ばんって出るよっていうものを取りそろえているテキストがあったから、すごい、そうです、そうです。

鳥山：それはすごい。マジでそう。

## 印象に残った先生。

鳥山:中村先生（数学科）。とにかく分かりやすかった。とにかく基礎だけでいいって言われて、もうただ私はもう基礎しかできなかったから、もう基礎だけでいいって言われたのがもう救いで、とにかくそれをやり続けたって感じ、基礎の考え方が一番大事だから、そのー、応用をやるんだったら基礎をやれみたいな感じだったよね。

小牧：だから、普段からそんな難しい問題も解いてなくて、自分が理解できるかできないかの狭間みたいなところをずっと解いてたんで。

鳥山：「これって解けたほうがいいですか」って、

聞きに行ってたもんね。授業が終わった後とか。なんか、「これはなんかできなさそうなんですけど、これは今の私が解けたほうがいいですか」みたいな。今すぐ解けたほうがいいか、まあ、「もうちょっと他のことをやってから解けたほうがいいですか」とか、聞きに行ってた。

小牧：そう。なんかマンツーでやった問題だけじゃなくて、集団授業でやった問題も、他の先生と集団授業でやった問題も中村先生に、その後、聞きに行くみたいな。

鳥山：アハッ。懐かしい。

小牧：してました。

鳥山：泣きそうになりながら行ったよね。解けなくて、やばいみたいになって、で、2人で聞きに行くっていう。

でも、中村先生、優しいから、全部、笑顔で、まあまあまあ、落ち着け、落ち着けみたいな。

小牧：で、ちょっと違う教え方で、その基礎から理解できるように教えてくれるって感じでした。

鳥山：しかも、きれいだったよね、ノートが。赤じゃなくて、緑を最初に。緑大好き。

小牧：緑大好きだった。英語は、解き方を梅ちゃん(梅田先生)に教えてもらった感じ。

鳥山：確かに。長文の読み方とかね。英語なんて覚えるもんだと思ってなかったから。でも結局、覚えなきゃいけないんだなと思った。そのー、限界があるから、だから、語法とかも覚え始めるのが、ガチ遅かったなと思ったもん。もっと早くから始めてれば、もう暗記こそ全てだと思った。

小牧：うん、うん。結局、暗記だったよね。

鳥山：ね、結局、単語力、うちらさ、やってたよね。ターゲットのやつを梅ちゃんから…、200問くださいみたいな。

小牧：で、夏やったんだよね。1週間ごとにターゲットの、1週間200単語とか決めて、範囲を。で、梅ちゃんにテストの紙もらって、朝やるみたいな感じだったよね。朝、2人で来て、やってたよね。で、お互い採点し合うみたいな。1人じゃなかったから、頑張れたっていうのはあります。

鳥山：うん、そう。マジでそう。あろちゃんがいたから、朝も行こうと思ったし、覚えようと思ったよね。

小牧：そう。で、次のプリントをもらいに行かなきゃみたいなのもあったから。それも2人で行ったから、まあ、楽しいみたいな。

鳥山：化学は、マジ龍ちゃん(高橋龍先生)、分かりやすかったし、めっちゃ書くの早かったけどね。でも、マジで優しかった。優しくて分かりやすかったから、龍ちゃんのことが好きで。一番前で受けてました。

小牧：一番前で受けるっていうのは、結構、やってたかもです。はい。石井先生の授業でも一番前の一番真ん中で受けてたし、一番前で受けることで、何だろう。なんか何やってるかも分かるじゃないですか。先生から見ても。だから寝れないし、なんか分かんなかったりすると、先生とかにすぐ言えるしみたいな。

鳥山：え、すご過ぎる。その精神力は私にはなかったから。

小牧：いや、違う。そうしないと寝ちゃうから。ウフフ。

鳥山：で、あろぴょんは、あと授業中、その、ペンを書く手が止まらない。なんかどんだけ難しい問題でも、すごい書くんだよね。止まらない。本当にそれはあった。すごい、マジで尊敬。で、一緒に帰ってたんだよね、2人で。で、9時半に、ここを出ようみたいな。代官山MEDICALを出ようみたいなことを言ってたけど、私は9時28分ぐらいに準備を始めて、で、あろちゃんの自習室に行くんだけど、あろちゃんは9時半になったのに、まだ勉強してるの。本当に、すごいなって思った。集中力、エグかった。本当にね。

卒業生が語る

# 合格への軌跡2023年

WAY TO SUCCESS

帝京大医学部２次正規合格
埼玉医科大前期２次正規合格
岩手医科大医学部２次合格

## 代官山MEDICALは本当にダメだった
## 自分をうまく軌道に乗せてくれて、
## 振り返っても一瞬だったと
## 感じられるぐらい濃密な時間でしたね。

帝京大医学部進学　秋山 開君（県立宇都宮高校卒）

## 代官山 MEDICAL に通ってた知り合いが結果出してて。その結果を信じて通うことに決めました！

高校卒業して、浪人が始まったときに、大手の予備校、大手の麹町にあるＫ塾に行こうって話がついたんですね。で、そのついたちょっと後に、自分の祖母の知り合いのお孫さんが、代官山 MEDICAL に通ってて、医学部に合格したって話を聞いてきて、じゃあ代官山 MEDICAL に通うのがいいんじゃないって話になったんですけど、そのときはＫ塾に決まっちゃってたんで、その話は流れて。今考えると１浪目から代官山に通っておくべきでしたね（笑）。で、結局Ｋ塾でも結果出ずに、２浪目突入みたいな感じになったんですよね。そのときに中学からの知り合いで、同じく浪人してる田村さん（田村萌々奈：作新学院：東京医科大進学）が代官山MEDICALに通っているって聞いて、連絡取ってみたら、１次試験を４校通ってるみたいな話を聞けて。高校の時には自分と同じレベルだと思っていた田村さんが４校も受かるんだみたいな驚きもあって、じゃあ２浪目は代官山 MEDICAL に通おうってなったんですよね。その田村さんつながりで阿久津くん（阿久津一馬：作新学院：東北医科薬科大進学）も同じく通うことになりましたね。

## 代官山 MEDICAL では自分にあったレベルを提供してくれて、スタートは低くても最終的には医学部に受かるレベルまでもっていってもらいましたね。

数学は、高校１、２年生のときにつまずいてしまって、苦手意識が消えないままでしたね。で、１浪目に通ってた大手の予備校では、東大とか京大に入るレベルの数学の授業を受けさせられていたんですよ。まあ、基礎もできてないような人に、最初から難しいことをやらされるので、全然付いていけなかったですね。本当に手も足も出なくて、何をやってるんだろうみたいな感じで授業を受けてて、今考えると１浪目の特に数学は本当に悔いが残りますね。で、それを穴埋めできずに、1 浪目の終わりまできてしまったっていうのが、最初の浪人生活の反省点でしたね。そこまでは、数学の苦手な分は他の教科でカバーしようみたいな考え方をずっと持っていて、ほんとにそこがダメでしたね、国公立大学を目指してたりしてた時期もあったのにも関わらずですよ（笑）

２浪目に突入して、代官山 MEDICAL に入ったからには、ちゃんと数学に取り組んでやっていこうって気持ちにはなっていたんですけど、じゃあ何から手を付ければいいんだろうって困ってましたね。でも、数学の担当だった高橋典先生にちゃんと教わったっていうのが大きかったですね。まずは自分のできないところを見定めてもらって。で、そのできていない基礎の部分を穴埋めしてもらっていって、そこからちょっとずつレベルをあげていってもらえて。言われたことをきっちりとこなしていくと、着実に成績が伸びていって、「あぁ自分の一番苦手だった数学がまともな成績になってきてる」って感動すら覚えてましたね（笑）最初のほうとかは、偏差値 50 も超えてなかったんですけど、最終的には 60 も超えるようになって、医学部入試でも困ることはなかったですね。本当に１浪目から代官山 MEDICAL でお世話になっていればって思いますね（笑）

集団授業の数学のテキストも、先生方がちゃんと解説してくれて。どういうふうに、いつ、復習するかも全部ちゃんと示されてて、その指示に乗っかって繰り返しやっていくことができましたね。「これを落としたら本当に駄目だぞ」みたいな基本問題も入ってて、そういうとこをしっかり予習でやっていくとほんと力が付きましたね。難しい問題を解けるよりは、本当に落としちゃいけない問題を落とさないっていう点を意識させてもらえるようになったっていうのが、苦手克服に繋がりましたね。

## 集団授業だからこそ得られたものがあった。

一番は印象に残っているのは生物の深瀧先生の集団授業ですね。自分は、代官山 MEDICAL に入る前に生物はこのままのペースでやっていけば大丈夫だろうと思ったんですけど、もう初っぱなの授業から、深瀧先生は、ズバズバものを言う感じの先生で。「全然、違うよ」とかって、間違っているところをちゃんと指摘してくれて。間違った知識を直すことができて、そこで覚え直すことができるっていうのができたので、すごい良かったなっていうふうに思い返してますね。あと、かなり質問してどんどん回していく感じで、次の人、次の人みたいな感じで回していくんです。そこで「あ、あの生徒はクエン酸回路の、あのポイントで間違ってたな」とか「あ、あの生徒が間違ったところだ」みたいな感じで、後々になって逆に自分が覚えられたりもしたので、そこは集団授業だから得られたものですよね。

板書も、プリントもすごく分かりやすく作られてて、考え方のプロセスを順序立てて教えてくれました。生物の簡単な問題は、単純に暗記で、何とかなるんですけど、難しくなってくると、ちゃんと考察して、教科書に載ってる知識を基にして解くっていうのが大事なんで。その、知識を基にして問題を解くときの考え方の流れっていうのを、的確に伝えられるっていうのがすごいなって思ってました。暗記のほうも、夏期講習の単科授業とか、直前の単科授業に出席すれば穴埋めができたので、それも良かったなって思います。

## 高橋典先生、深瀧先生だけでなく、どの先生も分かりやすくてよかったです。

英語は三ツ橋先生に一番お世話になりましたね。板書が分かりやすくて、まとめみたいなのを作ってくれて、ものすごく分かりやすかったです。数学は、集団

で受けた先生は基本的に全員良くて。平野先生だったら、数学はコツコツ努力してやっていくことが大事ってことを強く教えてくれて、薄先生は、問題を解くときのポイントをすごく分かりやすく教えてくれてましたね。佐藤啓先生は、基礎的な部分から応用的な部分までしっかり全部網羅してくれた印象です。どの先生も本当に質問しても的確に教えてくれるし、なかなかない経験だったなって思えますし、どの先生もお薦めっていうのは正直な感想ですね。

化学は、小林先生と、菊本先生の授業受けてて。覚えるべき知識、覚えなくてもよい知識を的確に分けて教えてくれていたのが助かりました。あとは、小論文の高橋浩先生のマンツーマンですかね。おかげさまで、2次合格を複数取ることができたんで、2次試験で競り勝つ、2次突破力っていうのを鍛えてもらいましたね。1次試験で僅差の点数だったら、2次の小論文、面接が大事になってくるんで。小論文の授業を受けていれば、的確にものを伝えたりとか、文章をしっかり書いたりというのは、だれでも最低限はできるようにはなると思うんです。で、それにさらに高橋浩先生のマンツーマンを取ってくと、小論とかで問われるような周辺知識も、的確に教えてくれるので、かなり実力は付きますね。そういう点で高橋浩先生のマンツーマンを取るのはお薦めですね。

## 入試が始まっても、代官山 MEDICAL で先生方に質問して平常心で臨めました

入試のときにも、代官山 MEDICAL に先生が来てくれるっていうのが個人的にはものすごくありがたかった、いつも校舎にいてくれて。1浪目通っていた予備校だと、入試が始まると先生たちが休暇に入ってしまって、質問しに行きたいのにできない状態だったんです。代官山 MEDICAL は本当にずっと先生がいてくれて。ある1つの大学の入試が終わったその日のうちに、「この問題が分かんなかったんですけど」っていう質問をできたんですよね。その答えが次に受験する大学の入試問題で出たりっていうのがあったりしてすごく助かりました。「あ、これ出た！同じの出た！質問しといてよかったじゃん！」みたいのがあって（笑）

で、先生と話すことによって、気持ちとかも、リフレッシュされるんで。それで次に向けて頑張ろうっていうのがあったんで、そこは結構、大きかったなっていうのがありましたね。先生に「この問題できなかったんですけど」って聞いたら、「あ、それはほかの受験生も解けないから気にしなくて大丈夫」って言ってもらえて、「あ、解けなくて大丈夫だったんだ、よかった」って思えて、次に切り替えやすくなりましたよね。石井先生も言ってたんですけど、入試が終わって、さっさと自宅に帰ってしまうんじゃなくて、代官山 MEDICAL に来て、友達とああだこうだ話して、あの問題、できたとか、できなかったとかって話をして、適宜、先生とかに質問して、気持ちリフレッシュするの大事っていうのを教えてもらってて、本当にそうでしたね。実行に移せてよかったなって思います。

## 誰しも与えられた時間は同じ。それを活かすにも毎日同じ時間に来て、同じ生活リズムで勉強することが大事だと気付きました。

限られた時間をうまくやりくりするっていうのが、大事だったと思っていますね。代官山 MEDICAL のシステムっていうのが最適化されてるので、それに乗っかるというのか、先生に相談しにいって、どこを絶対に押さえなきゃいけないんですか、っていうような質問をして。そこから先生のアドバイスを受けて、結果、ちゃんと回すことができました。英・数・理だけやればいい、っていうのは聞けば簡単だと思うんですけど、そこにプラス小論文とか、面接とかもしなきゃいけないんで、暇になることはなかったですね。で、じゃあそれをやりきるためには、できるだけ同じ時間に来る、同じ時間に帰るっていうルーティンをしっかり確立することですよね。まあ、朝早く来れば来るほどいいと思うんですけど、例えば、1日だけすごく頑張って朝5時に来て、でもその次の日は7時だったりしてってなっちゃうと、もうそれで生活リズムが崩れてしまって、結局勉強のリズムも確立できなくなるんですよね。それだったら2日続けて朝6時に来ればいいと思いますね。毎日同じ時間に来る、帰る、そして決まった時間に決まった科目を勉強するっていうのが大事なんですよね。自分は毎朝6時に登校していて、ふっと見ると、現役生の鋪屋さん（鋪屋 瑠美：頌栄

女子学院:東京慈恵会医科大学進学）がいて、「うわあ、朝から勉強してる、自分も頑張らなきゃ」みたいな感じでした。他の子もそうでしたね。やっぱり朝６時くらいから登校してる子は決まってて、そのルーティンは誰も崩してなくて。で、お互い頑張ってる姿を見て、自分もそのペースを崩すわけにはいかないって刺激しあうことができて。で、そんな人たちは皆合格していきましたもんね。

## 最後に、後輩へ一言。

親からは浪人生活長くて苦しかったみたいな話をされるんですけども、自分としては、本当に一瞬だったなっていうふうには感じてますね。気付いたら入試、そして気づいたら大学生になってたみたいな（笑）走り抜けたなっていうのがあって。本当に一瞬で過ぎた、特にこの代官山 MEDICAL で過ごした２浪目は特にそうだったなって思います。それだけ濃密にやりきったってことですよね（笑）。自分がこう言っているのと同じくらい言えるような浪人生活を過ごしてほしいですよね。

あと、石井先生によく教えられていた学則にも書かれている「2 ランク上を目指す」みたいな言葉があって。やっぱそれが大事だなっていうのを痛感しました。自分が考えている大学よりも２ランク上目指す、自分のレベルを高くもっていこう、意識して頑張ろうとしないと、受かるところも受からないよっていうことなんですよね。後輩たちには本当に２ランク上を是非とも目指してほしいな、っていうのがありますね。

卒業生が語る

# 合格への軌跡2023年

WAY TO SUCCESS

帝京大医学部２次正規合格

## 代官山MEDICALのウィークリーテストが毎週・毎週の復習みたいになるじゃないですか。おかげで、知識が定着して本番のための貯金になったって感じですね。

帝京大医学部進学　長尾 快作君（巣鴨高校卒）

## あの兄貴が現役で合格できるんだったら、自分だって代官山 MEDICAL 通えば、自分も現役で受かるだろうって思ってましたね（笑）

代官山 MEDICAL に通うってなったのは、兄貴（長尾快登：福岡大医学部進学：巣鴨高校卒）が現役で合格したっていうのが一番大きかったですね。自分の中では兄貴は結構頭がよくないと思っていた部類だったんで（笑）そんな兄貴が現役で合格できたんだったら自分も現役で合格できるだろうっていう気持ちで高３の４月からお世話になりましたね。兄貴とは小、中、高、そして部活も通う塾もまったく同じで、兄貴のルートを後を追うようにたどってばっかりだったんで、そういった面でも自分も医学部に現役で合格するんだろうなっていう、何か根拠のない自信もありました（笑）。でも実は、高校３年生までまったく受験勉強なんてしていなくて遊んでばっかりだったんで、やばいなぁと内心不安な気持ちもあったりはしたんですけどね。その当時、兄貴にも「ここまでまったく勉強してないお前は落ちるに決まってる」って言われるぐらいだったんで（笑）まぁそう言われて発奮したというか、「負けてたまるか」の精神になって頑張れたのがよかったですね。まぁでも振り返ってみると、兄貴はすごく努力してたんで、朝も学校行く前に早くから代官山 MEDICAL の自習室行って先生からの課題、宿題？やってたみたいだったし、授業が終わって遅くまで残って勉強して、さらに家帰ってきてからも１～２時間は勉強してましたもんね。実際に自分が受験生生活をやってみて、そのすごさが身に染みて分かりましたね、塾（ここ）に来てから兄貴の踏ん張りっていうか、すごかったし、代官山 MEDICAL って、そんなに人が変わるのかって、思って入ってみようって、思って。まあ、兄貴からすれば、そこまでの自分の勉強度合いを見て、０（ゼロ）どころか、マイナスに当然見えていたわけで（笑）そりゃ兄貴としても弟は落ちるに決まってるって思いますよね（笑）

## 代官山 MEDICAL のシステム、先生の教え方が自分にうまくはまったから現役で合格できました。

自分は、単純暗記するのがすごく苦手で、根本的な部分から納得して理解できないと覚えた気がしないし、すぐに知識が抜けてしまうタイプなんですよ。塩島（塩島功生：昭和大医学部進学：九段中等教育高校卒）なんかはガーって知識を詰め込む方が得意なタイプだったんで、羨ましいなって思ってた部分もありましたね。でも、自分の得意不得意を考えると、そのまんま真似してもうまくいかないって意識してたんで、見習えるところは見習おうって思いつつも、自分のペースは乱すことなく、普段の勉強に取り組めてました。

それでいうとウィークリーテストって、毎週実施されてるんで、そのテストを受けている最中に、その前の週に習った授業内容を思い出せるじゃないですか、「あ～、確かにこんなの習ったなぁ」って記憶が蘇ってきて、復習の機会をテストで確保できるんですよ。コツコツできない自分にとって、ほんとにそれがありがたかったですね。それが貯金になっていったって感じでした。それと同じでマンスリーテストも毎月あったから、まとまったカタチで復習する機会を設けてもらっていたっていう感覚でしたね。周りのみんなは「またマンスリーテストかぁ～、悪い成績取ったら嫌だな～」みたいなテンションだったんですけど、自分からしたら「やったぜ！これで受験勉強まとめて復習できるぜ！」ってポジティブな気持ちで臨んでましたね（笑）だからマンスリーテストの結果で一喜一憂することは少なかったです。もちろん結果がいいに越したことはないんですけど、自分の中では復習の機会と捉えているところが大きかったから、「あ～なるほど、自分はここの分野は知識が入り切ってないんだな、じゃあそこを徹底的に復習しよう！」っていい意味でポジティブに頑張ることが出来てたんですよ。

授業だと、数学では中村先生に助けられました。「この公式は覚えろ！」という指導じゃなく、基本の論理をしっかりと教えてくれて、問題を解くにしても単純な解法、少ない解法で全て解けるように教えてくれるところだったり、ふとした時に以前の知識を思い出させるような授業をしてくれたところが、自分にすごく合ってましたし、化学は三上先生に教えてもらって助かりました。化学ってめちゃくちゃ覚えること多いじゃないですか？けど三上先生は、めちゃめちゃ理論タイプで、頭ごなしに「覚えろ！」じゃなくて、「これはこういう理論だから、ここをちゃんと理解して問題に活かしていこう」みたいなタイプだったんで、もう、まさに俺向きみたいな先生だったんですよ。で、理解をするっていう過程で身についた知識って忘れに

くいし、他の問題にも応用できるんで、だから自分は、数学と化学に関しては、ほとんどの大学で行っても対応できましたね。やっぱ自分はあんまりコツコツ覚えるのが得意じゃなくて、やっぱり全部理解しないと気がすまないってタイプだったんで、問題数もたくさんこなしていくっていうタイプじゃなかったんで、はい、塩島なんかは、たくさん問題解いてたくさん知識、パターンを詰め込むってことをしてて、そのために先生たちから沢山プリントもらってたんですよ。でも自分は詰め込むっていうのが嫌でってなってると、先生たちがそれを見越して、「これだけやっておけば大丈夫！」みたいな量が少なめのプリントをくれたんですよ。

## 受験仲間が沢山いること、友達同士で教えあう空間が良かったっすね。

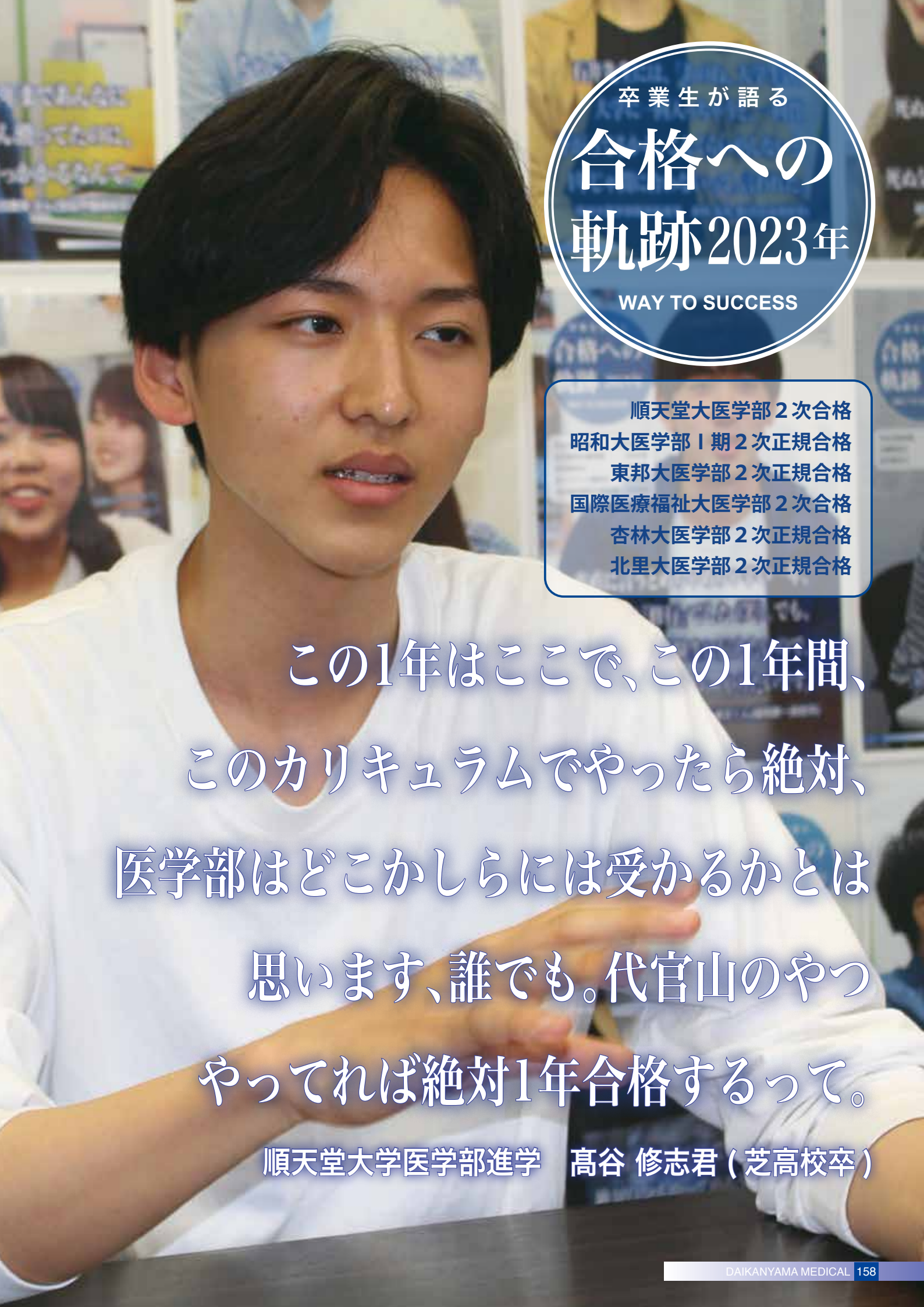
最初のきっかけは、夏の高３のθの授業の内容を全部理解してて、たまたま人にそれを教える機会があったんです。中澤さん（中澤早紀：聖マリアンナ医科大進学：広尾学園高校卒）が、その授業を休んじゃってて、「じゃあ、ちょい教えるわ」みたいな感じになって、んで教えてたら、自分の中で知識がすごく定着して、「あ、これはいいな」って手応えみたなものをすごく感じられたんですよ。石井先生もθの授業で、「同級生同士で互いに教えあうからこそ、理解が深まるものだし、自分の不安な知識に自信が湧いてくるし、それを積み重ねていくことで互いに高めていくものだ」みたいな話をされてたんで、「あ〜、こういうことか！」ってすごく腑に落ちたんですよ。そこから友達同士で教えあうようになっていきましたね。７限終わった後とか、ホワイトボード使って、教えるのが楽しかったですね。教わるというより教える側が多かったです。やっぱり自分はコツコツ勉強が嫌いなタイプだったんで、ほかの子の説明とか聞くのが苦手だったんで（笑）でも、自分で説明するっていう場があると定着絶対します、忘れにくくなるから。もともと分かってる人に説明したとこで、「ああ、確かに」「ああ、そうね、そうね」ってなるだけなんで、質問が絶対返ってこないんですよ。お互いに分かっちゃってるから（笑）でもそれって、お互いに浅い認識で、表面だけ分かってるっていう可能性もあるんですよ。片方だけが深くまで分かってても意味ないんですよ、両方ともに深くまで分かってないと。表面だけだと、質問が出てこない、分かった気になっちゃうから。だからもう、一切分かんないやつに説明したほうが、根本的なところで質問が来るんでいいかもしれないですね。

とはいえ、その教えあう相手も受験では競争相手でもあるんで、そこは忘れないよう、気持ちはバチバチでやってましたね。自分たちの代には四ケ所さん（四ケ所 葵：横浜市立大医学部医学科進学：湘南白百合学園高校卒）っていうエースがいたんで。彼女ほんとにすごかったんで、全科目では勝てなくても、せめて化学だけとかなら勝てるんじゃね？って気持ちでやってましたね。塩島も仲良いですけど良い意味でライバルの意識は持ってたんで。だから、そういう問題を教え合うとか、質問しあうとかって含めても、話しやすい友達でありライバルのようなつながりはあったほうが、受験生活ってうまくいくのかなって思います。代官山 MEDICAL だとやっぱり同じ医学部を目指すもの同士ってことで、そういうつながりもつくりやすいですね。

## 後輩へ向けて

一番合格につながったなっていう要因は、やっぱメンタルだと自分は思ってます。マンスリーテストの点数が上下したからって、あんま心が振られない人だったんで。マンスリーテストの成績とか見てもらったら分かるんですけど、総合の偏差値が夏の時に 35 まで落ちたときが一度あって、そのときも普通に笑ってたぐらいなんで（笑）さっきも話していたように、マンスリーテストはまとまった復習のチャンスだって捉えていた部分があったのと、自分がどの立ち位置にいるかっていうのを、周りの人のその出来栄えとか、やってる努力の値とかを見て、「自分と比較してみてもそこは遜色ないわけだから、仮にここは点数を取れていなくても、ほかの人より劣ってるとは思わない。だから次は大丈夫！」って判断ができるメンタルの持ち方をしてたからなんですよ。逆に試験本番とかになると緊張の仕方がひどくて、めっちゃ緊張して頭が働かないみたいなことが多かったんですけど、面接でも緊張してなんもしゃべれなくて、（笑）どうすれば緊張しないかってことに、だいぶ時間を使って。「自己分析する時間があるなら、勉強すればいいじゃん」みたいなことを言う人もいるとは思うんですけど、自分はそういう意識を持つのが嫌だったんで。自分が何が苦手なのか、苦手なとこが分かればそこをつぶしていけばいいって、思って、自分的には受験で成功するには自己分析が一番大事だと思ってます。自己分析して、苦手なところが分かれば、そこにちゃんと危機感を持って、その危機感に従って勉強すればいいと思います。危機感大事です！（笑）

あと帝京大学を、受験しようと考えてる人は選択科目は数学、化学で受けたほうがいいと思います。物理を選ぶなら、ほんとに自信をもって得意と言える人だけにしとくべきです。意外と難しかったりするんで。石井先生のアドバイスでも、数学は３日のうち１日だけ簡単なのがあるから、３日受けるなら数学を選んだ方がよいって言われたので。それで帝京大学に受かりましょう！（笑）



卒業生が語る

# 合格への軌跡2023年

WAY TO SUCCESS

順天堂大医学部２次合格
昭和大医学部Ⅰ期２次正規合格
東邦大医学部２次正規合格
国際医療福祉大医学部２次合格
杏林大医学部２次正規合格
北里大医学部２次正規合格

## この1年はここで、この1年間、このカリキュラムでやったら絶対、医学部はどこかしらには受かるかとは思います、誰でも。代官山のやつやってれば絶対1年合格するって。

順天堂大学医学部進学　髙谷 修志君（芝高校卒）

## 初めから順天堂を第 1 志望にしてました。

いや〜、もう、順天から、合格通知来たとき、自分、トイレにいて、父親から電話かかってきて。もう、発狂しました。うわあああ、みたいな ( 笑 )。トイレしてる場合じゃないみたいな。ハハハハ。おまえすごいじゃないかって。あっちもそのテンションできて、で、親子で、うおお、みたいな。

ずっと , 初めから順天堂を第 1 志望にするっていうのは決めてて、それは言ってきたので。でも正直、受かるとは思ってなくって。成績的にも。だって最初の成績が、クラス分けの時点での成績が、数学、物理、死んでて。初回の偏差値 50.8 で、合計 170 点で…。でも最後の最後は MAX 64.5 までいって、はい。

一番、まず大きいのが、苦手だった数学と物理の克服ですね。それはやっぱマンツーで、数学は啓寿先生 ( 佐藤啓先生 ) で、物理は柳瀬先生にすごいバックアップしてもらって。で、やっぱ苦手があると足引っ張っちゃうから、そこがなくなったのはすごいでかい。自分的には結構できるようになって。

化学も、自分が授業受けてた小林先生とかから、プリントめっちゃもらって。あと、三井先生とか、高橋龍先生とか、えー、あと化学っていったら菊本先生。三井先生、菊本先生とかから結構プリントをもらって。で、テキストめっちゃ厚いので、それを周回して見てもらってました。苦手なものはプリント演習するということも含めて、もう最初の段階から、第 1 回のクラス分けの結果を見ても、これはやるしかないと思ってましたね、はい。

あと二つ目が、夏が勝負だ、夏終わったらもう、それはもう決まってるっていうのを先生言ってたんで、それまでにはもう、完成させようみたいなのを思ってて。で、夏終わる前まで、6 月、7 月、8 月ぐらいで、授業でやったとこは、復習もしっかりしてっていうのは、気を付けてました。

4 月の頃は、まずテキストの問題とそのレビュー課題で、僕にカスタマイズされた時間割の空いてる時間でこれやろうとかっていうふうに、結構やってました。カレンダーみたいなの作って、逆算してやっていけました。物理は代官山 MEDICAL で配られる徹底基礎演習っていうのがあって、それを何回も周回して。それと同時並行で、課題の良問の風っていうのをやって、それを夏始まるまでに 2、3 回ぐらいやってました。全然、分かんないことあったら、先生に聞きに行って、啓寿先生とか柳瀬先生とか、田山先生とかにも聞いてた。聞きに行きたいときに、なかなか先生、捕まんないっていうのは、あんまないんで。いつでも先生がいる感じで、結構よかったと思います。

## 原動力は、1 個上の先輩に、あそこに牧野先輩っているじゃないですか。

最初は、クラス分けで A4 スタートでした。ぎりぎりまだ本館で、2 回目のクラス分けで、2 号館上がって。A2 まで上がって。A4 から A2 いって、そっから、最後は M3 でした。基本的には生活してたのは 2 号館がメインだったんですけど、なんか、思い出は結構、こっちの本館のほうがあって。初めの 4 月、5 月、6 月とかはずっとこっちだったんで、友達と昼、富士そば、そば屋さんがあるじゃないですか、下の。とかに行くのが楽しみで、そういうのは、勉強のモチベとかになってましたね。でも、モチベーション、ずっと保ち続けるの大変で、まあ、大変でしたね。原動力は、1 個上の先輩に、あそこに牧野先輩っているじゃないですか。芝 ( 高校 ) から順天行った先輩とたまに、授業の合間にアドバイスくれたりして、かっけえなみたいな。アハハ。チューターで来てくれてて。それで、牧野先輩の後を追いたいみたいな感じもあったりしたんですけど。あとは、何だろう。モチベーション。自分、寮住みだったんですけど、それも結構でかかったなって思ってて。1 分マンションで。すぐ起きて、シャワー浴びずに、なんも身支度せずに出られたっていうのが楽だったからよかったなって。目と鼻の先、2 号館って、めっちゃ楽でした。本館にいるときは 7 時から来てて。あ、もう、開館時間には来てて。で、でも、9 月ちょっとだらけちゃって。授業始まる直前とかに。9 時前ぐらいに来たみたいな。一回、だらけちゃって。

いや、なんでだろう。なんか、先輩にも言われてたんですけど、絶対 9 月には、夏休み終わってからだれるよみたいな。それが来ちゃって。なんでだろう。あの燃え尽き的な。一回そういう時期もありました。

9 月中結構、もう、そんな感じでつぶれちゃって。はい。多分、気持ちとかにも出ちゃって自信なくなってみたいな。そのころに、薄先生とかが、過去問、朝にやれみたいなのを言ってくれるじゃないですか。それを 10 月、11 月ぐらいから始めたと思うんですけど。11 月かな？　それを朝、日医に行った世尚 ( 松脇 世尚 )、あと、清水 ( 清水楽詩 ) とで朝 6 時 40 分からやろうぜみたいな。それで何とか、徐々に戻ってたっていう感じ。周りやってるしなっていうのもあるから。結構それ助けられました、周りに。別にサボったりなんなりとかっていうのはしなかったんですけど、夜はちゃんと遅くまで。9 時 15 分くらいまでは自習してました。比較的一年通して規則正しく生活はできて、全然そうですね。振り返ってみたら。

## 順天堂、最後の勝因は、やっぱ、小論。

やっぱ、小論ですね。ヒロさん ( 高橋浩先生 ) にめっちゃ助けられました。自分、初めのクラス分けのテストで、小論文の試験で、原稿用紙最後まで埋められなくて 4 割ぐらいで終わっちゃったんですけど。それで、やばいなって思って、1 学期からヒロさんと始めたんですけど。やっぱ、順天って、特色あるじゃないですか、小論が。その、論理性とか、文章の構成の、形式とかを、もう、覚えろみたいな感じで言ってくれて。まず、自分の主張で、その次に何々だが、しかしこれだみた

いな、そういう形を覚えさせてくれたのはよかったです。定型的なものを。大学ごとの特色に合わせて、もう、これを覚えなさい、これやんなさいって指示がちゃんと出てたんで、大体、大学全部、形式は一緒なんですけど、面接とかだったりは、大学ごとに合わせてくれました。やっぱ、2次の対策って手厚いところあんまないじゃないですか。せっかく、そんだけ1次通っても2次が振るわなかったら意味ないんで。ヒロさんは、授業中に、他の生徒とかの情報とかも教えてくれたりするので、それも、モチベとかになってました。あと、順天の面接、特徴的じゃないですか。なんか、すごい、30分ぐらいあって、自分の持ち物持っていかなきゃいけないみたいな。それも、アドバイスもらって、これ入れたほうがいいよみたいな、これいらないよみたいなのも言ってくれたの、すごい参考になりました。俺は、まず小学校の、成績表は絶対持っていかなきゃいけなくて、それに加えて、小学校のときのサッカーの、トロフィーと、中高やってたバスケ、賞状を持ってきました。自分、運動してましたよみたいなアピールを、主軸にしていこうみたいな。そこからどう、何を学んで、これがどう活かせますみたいな話に持っていこうみたいな。結果、あまりその質問はされなかったです。アハハ。でもそういう安心感はありましたよね。実際の順天の面接官との話、弾んで。話、弾みました、結構。ありがとうございましたみたいな感じで最後、終わったんですけど。あとはやっぱり、順天は、英語の作文ですね。

英作文は、自分、夏から青葉先生にマンツーを取らせていただいてやってました。青葉先生はマンツー以外でも、添削してくれたので、1週間に1英作文、書いて提出してっていうのをずっとやってて、それもめちゃめちゃ書けるようになりました。授業外のところでも、関係なく渡してくれるんで、めっちゃありがたかったです。

一応、結構、埋められたと思います。でも順天入ってみて、なんか、英作、半分しか書かなかったぜみたいなやつもいるんですけど、そういう人たちは多分、数学力とか物理力とかがエグいから。だから、そういうめっちゃ数学できるような人たちは逆にそっちを伸ばしてもいいのかもって思ったんですけど。

## 自分のために自分だけの課題をもらえて、淡々と無駄のない勉強ができた。

典さん(高橋典先生)とかはマンツー取ってなかったんですけど、自分がA4だった頃の数学の、あの、5集、6集の担当で。それで、めっちゃ授業が面白くて、なんか、笑い、笑いがずっと起きてて、典さん、ま、愛されキャラじゃないですか。初め怖いなって思ってて、でも、みんな笑って、でもしっかり、微積の裏技とか、こうしたらもっと早く解けるよっていうのを教えてくれたのが、すごい、自分好きでした。他の数学の先生も、なんか、いろいろ別解出してくれたりとか、もっと楽なやり方とかっていろいろ提示してくれる先生多いんで、それもかなり、役立ったって感じで、解き方。すごい役立ちました。啓寿先生も典さんと同じ感じで、すごい、裏技チックな。順天って、やっぱ、時間が足りないので、その時間を、いかに早く解ききって別の問題につなげるかみたいなのが大事だと思ってたので、なんか、早業とかを教えてくれたのがすごい役立ちました。

物理は、やっぱ、柳瀬先生。プリントすごいくれて。柳瀬先生は、自分が言った分だけ返してくれるみたいな。これしてくださいって言ったらしてくれて。すごい面倒見良くて、ここ自分できないんですって言ったら、言った分だけじゃない、言った分それ以上のものを返してくれる、みたいな。ここできないんですって言ったら、すごい、いい問題、何枚もプリントくれたりして、それずっと解いてました。的確に自分の苦手を見抜いてもらって、じゃあ、これ解いたほうがいいよみたいな、言ってくれて。そういうプリントをもらって。物理は結構、解いたと思います。最終的には得意になってきて。7月とか8月とかマンスリーで70点以上取れてたんで、マンツー取ってないんですけど、無理言ってお願いしてマンツー用の教材とかも、ちょっと、もらったりしてて。で、電気分解ができないですとか言ったらそこの冊子をくれたりして。マンツー並みのことはできないかもしれないけど、もらって、じゃあ、それやったところの分かんないところの解説ぐらいは立ち話でもしてくれて、それがすごいよかったです。代官山MEDICALの良さって、まあ、まず、先生と近い距離でできるっていう、集団(授業)

の先生が直接、自分のために合った課題を与えてくれるし、いろんな先生がいるから、自分に合った先生ってのが絶対、見つかると思うんで。だってマンツー取ってなくたって、そんだけやってくれるわけなんで…、で、もともと得意だったんですけど、英語は、やっぱり、やっぱり石井先生っすかね。石井先生の、はい、初め、θ（シーター）の授業、初めA4で受けてたんですけど、θの授業だけ、すごく緊張して。いや、まじで、本当に。やられるかもって思いました。アハハハハ。なんかすごい緊張しちゃって、授業中ずっと、そうなんですよね。なんかいい意味で緊張感ありました。周りもよく言ってたんですけど、前2列目ぐらいまでいるやつってちゃんと合格するよねとかって、言ってるんですけど、後ろのほうでした。いや、やっぱり、上のクラスになるとみんなすごいできるなって印象あって。それはよかったですね。上のクラスに上がってきてからは当てられるようになったんですけど。A4のころは、先生も俺、緊張してるの分かってたと思うんで。アハハハハ。当てたら爆発しちゃうかもしれない。アハハハハ。先生は、いつも、先生いつも言ってたのが、淡々とやる、淡々とこなしていくのが大事、っていうのをすごい言ってて。当たり前のことを当たり前にやる。それ自分も意識して淡々と、問題解いてく。でもただ、機械作業するんじゃなくて、学びながら解いていくみたいなのは、先生が言ってた言葉。

## 順天は、代官山MEDICALだからこそ合格できた、って思う。

1年前は、1次とか、どこも通ってなかったです。ゼロでした。

高3のとき、あんま勉強自体を、そもそも、習慣できてなくてやってなかったっていうのもあるんですけど。で、塾は高3のときも行ってなかったですね。ノー勉で。まあ、だからこそ切り替えがうまくできたのかもしれないですけど。記念受験みたいな感じで。やっぱり時間管理。時間管理すごいしっかりしてるなと思ってて。9時、そこは、他の所もそうなのかもしんないですけど。ま、でもそんなに。他は緩いと思いますよ。なんか、すごい厳しいのが自分はすごい合ってんなと思いました。あとは、空きコマがそんなないから、逆にそれがよかったなって。そこに具体的に何やるか詰めて、やろうっていうのができたので。逆にここしかないんだからみたいに時間の無駄がなくなったっていうか。時間の使い方がうまく学べました。時間が自由だとかえって、辛かった、辛いですよね。自由時間が長いと何したらいいのか分からない、逆に。時間を持て余してっていう。代官山MEDICALはそれがない。自分の自習時間がはっきりしていて、自習時間がいついつ何やるみたいなのが決まっているので、ほんと助かります。程よく、本当に、バランス取ってやれたって、思います。1日に3コマか4コマ授業っていうのがベストかなって思いました。日曜日って特に授業のない縛りだから、翌日のウィークリーに向けての勉強とかも含めて、あの日が、多分、一番、調整利きやすい日なんじゃないかなって。ただいつも、ここに来たからにはもうやるしかないみたいな感じで、意識してましたね。先生方もよく言うけど、ここ来て受かんなかったら多分どこ行っても受かないんですよ。アハハ。ここまでぎちぎちにやって、しっかり時間管理してもらって、やることがはっきりしてるんで、ここまでやらせるみたいなとこなんてないから。そういうふうにスケジュール管理とか時間管理がかなり厳しいっていうのって、自分じゃ甘えちゃうし。でもこれやれば、やっぱ、1年で合格できるんだから、それ相応に、みんなちゃんとやっていけば通るんだなっていうのは分かりますね。あ、もう、どこでも受かると思います。この1年は、ここで、この1年間、このカリキュラムでやったら絶対、医学部はどこかしらには受かるかとは思います、誰でも。代官山MEDICALのやつやってれば絶対1年合格するって、みんな、みんな言ってるから、この軌跡の人たちも、いや、代官山MEDICALのテキストで十分ですから、みたいな。

受かんなかったら、それはやってないんですよね。多分。受かるためのものなのに受かんないってことは、やってないって、言い切れますね、あのテキストで、順天受かってるんで。フフフ。

## 後輩、今いる人とか、に向けて、アドバイスとかエールとか。

それはやっぱり、あの、淡々とこつこつと、自分がやっていることを苦に思えなくなるぐらい、ルーティン化して勉強習慣を付けることが大事だというのを一言、それに尽きます。もう本当に。そうなんです、小手先のことばっかり言えるかもしれないけど、実際のところ、それをこつこつやるっていうのがどれだけ難しいかってことなので。

卒業生が語る

# 合格への軌跡2023年

WAY TO SUCCESS

聖マリアンナ医科大２次正規合格
東京女子医科大２次正規合格

## 自分の行きたい大学に行った先輩の軌跡をすごい読んで、「くじけてる場合じゃない、頑張ろう！」みたいに気持ちを奮い立たせてましたね。

聖マリアンナ医科大進学　舩井 茉奈さん（東京女学館高校卒）

## 浪人生活でモチベーションを保つのはすごく大変。けど代官山 MEDICAL の先生たちにいいタイミングでいい言葉をかけてもらったから最後まで走り抜けました。

浪人が決まったとき、本当にすごい落ち込んじゃって・・・。でもまあ、やっぱり高校生のときから、現役合格を目指して一応勉強してたんですけど、やっぱり自分の努力が足りなかったし、部活にすごい集中しちゃってたので、まあしょうがないかなって思ってた部分もあったんです。でも、すぐ切り替えて「絶対 1 浪で受かってやる！」って思って、春の先取り授業とかすっごいやって、めっちゃ先生に質問しまくって、春休みはもう勉強漬けでした。もう春休みからちゃんとやんないと駄目かなってすごい思って、そのときはすごい厳しくやりました。でもやっぱり、そのモチベーションは、常に持ち続けるのが本当に大変で。特に 2 学期に入って 10 月、11 月とかが、すごいなんか不安と焦りが勝っちゃって、いろんな感情がぐるぐるし始めてたんです。それで勉強全然、集中できなかったり、もう毎日泣いてたりして、本当に私は受かるのかな？なんて、先のことを考えても意味ないのに考えちゃって。すごい泣いてたんです。それで、冬の面談があって、そのとき成績がそこまで良くなくて。地方の補欠が回ってくればいいねってはっきり言ってくださったんです。そのときに「あ、やばいな」って気付けて、そこからすごい追い込んで、入試にそのままの勢いで行けたんですよ。やっぱり地方に行くんじゃなくて、都内の大学に通いたいって願望も強かったんで、「絶対受かる！」って気持ちで、やる気 100 パーセントな気持ちで最後の受験が終わるまでいけたので、それは助かったなって思います。

1 年間マンツーマンでお世話なった平野先生（数学科）にも、マンスリーテストで悪い点数を取って落ち込んでるたびに「結果、終わったことばっかり気にしてても、本当に意味ないし、ネガティブになって成績上がるんだったら、ネガティブになったほうがいいんだけど、全然そんな意味ないしみたいな。なんか、受験までまだ時間あるんだから、自分の今の立ち位置と行きたい学校までの距離だけ見て勉強すればいいんだよ」みたいな言葉でずっと励ましてくださったんですよね。そんな感じの励ましの言葉を 1 年間言い続けてくださって「ああ頑張ろう」みたいなやる気を保ててました。

石原先生（生物科）にもすごく助けられました。家からも近かったので、聖マにはすごく行きたくて、聖マって記述がすごく大事で、そこの過去問をたくさん添削してもらって。さらには、受験始まった最初のころ、岩手医科の一次の発表があって、私落ちちゃったんです。周りとかは割と受かってたりしたので、「あ、やばい」「これまた受かんないのかも」とか思っちゃったりして・・・。そのときに言われた言葉が、「通うことになる学校は 1 校だけだから、最悪 1 校受かればいいんだよ」っていうもので。どうしても受験シーズン、日々結果が示されるじゃないですか。そんな中でネガティブに考え込んじゃう人もいると思うんですけど、行く学校は本当に 1 校なので、1 校受かればいいっていう、イージーな考えも持たないとやっていけないなって思えて。その言葉のおかげで、「あ、次受ける大学で頑張ろう」みたいな、1 校絶対取るみたいなそういう気持ちを持てたので、石原先生には感謝しています。

英語は、青葉先生と石井先生がすごい印象に残ってるんです。青葉先生は、ずっと春の先取りからマンツーマン取ってて。私英語自体が好きで、「これはこうですか」みたいな割と理屈立てた感じで質問することが多かったんですけど、それを褒めてくださって、「英語の姿勢がいいから絶対大丈夫だよ」みたいな。聖マの記述もすごい対策してくださって、「これならいけるよ」とまで言ってくださったので、やっぱ本当に寄り添ってくださってたなと思ってます。あと、石井先生は、週に 2 回 θ の授業があるんですけど、その中ですごく自分をシャキッとさせてくれる言葉をもらえて。やっぱ受験生って毎朝同じ所で勉強して、家帰って寝るだけみたいな本当に淡々とした生活を繰り返さなきゃいけないんで、やっぱ夏ぐらいから飽き始めちゃって、ああ何やってるんだろうみたいな考えも出てくるタイミングがあったんですよね。そのときに仰ってくださった言葉が、「悩んでる人はすごい暇な人だ。暇だから悩んじゃうんだ。」みたいな。あと、「今が辛いって思うのは当然だけど、不満じゃなくて不安になるのは悪いことじゃない、不満はただ解放だけに終わるけど、不安は通過できれば感動や嬉しいことがきっと待ってる、もっと先にライトを当てて、こう目先のことばっか見ちゃうと辛い生活だなって考えるかもしれないけど、やっぱ合格したらもうお医者さんになれるっていう幸せがあるんだから、そういうことを考えて勉強しなさい」って言われて、そのタイミングに言ってくださったからこそ本当にそうだなって思いましたね。

## 先生に言われた通り、代官山 MEDICAL のテキストを繰り返しやっていれば、本当に苦手な科目でも受験本番で得点稼げます。

数学はもともと苦手っていう意識は、ずっと高校生のときからあって、でも克服しなきゃいけないと思って、マンスリーテストのときは、みんなが取れる問題を落とさないようにして、あとは数学ほど苦手ではない英語とか生物、化学で点数を稼ごうって思って取り組んでました。でも最初のころは数学のその最低限を取るっていうラインにもいけてなかったので、先生に言われたままに、夜間のテキストとか、あと計算トレーニングやレビュー課題も毎朝ずっとやり続けてました。すごい大事なことしか載ってない冊子になっているので、取り組みやすくて。それで基礎力がつきまし

た。で、受験直前で焦ってて、難しい問題もやらないといけないなんて考えが出てきた時も、平野先生が「背伸びしなくていいからできるとこだけやりなさい」って言ってくださって、焦ることなく、出来る問題に絞って最後は勉強できたんですよ。前期のテキストを完璧にするだけで、数学が苦手な人はそれだけでも大変なんですけど、それだけでも受験ですごい点は取れたので。

あと、夏期講習と冬期講習にやってもらった数学のテストゼミは良かったです、絶対。その場で丸付けして、その場で点数が分かっちゃう授業形式なので。ちょっと恥ずかしいっちゃ恥ずかしいんですけど、できない自分が分かるので、何がどのくらい分かってないのかって。冬期講習では数学に限らず、全科目のテストゼミを受けて、入試本番で割と似たような問題が出たとこが多かったんですよ。受験本番の休み時間も、何見ようか迷ったときは、テストゼミでやったとこ全部見返してました。

医学部は、試験時間が本当に短いので、解けないって思ったら飛ばして、他やったほうが絶対いいかなって思えるようになって、実際の入試でもある程度点数が取れるようになったのも、さっき言ったテキストを繰り返しやったり、テストゼミを受けてたからなんです。テキストの方では大事な問題しかないから、それは絶対できるようにしようって取り組んでて、テストゼミの問題でも周りの子、特に自分と同じレベルの子が解けているか、解けていないかって確認しておくんです。それで、みんな出来ていた問題をテキストに書いておいて、あとはマンツーの先生に、「これは自分は解けるべきレベルの問題ですか？」みたいなのを全部質問して、「これは解けなきゃいけない問題だよ」とか「これはちょっと上のレベルだから私はちょっと置いとこう」みたいなアドバイスをもらってたんです。それをやってったら、入試本番でも、「あ、これは絶対にできなきゃいけない積分だ」とか「あ、これは解けなくていいレベルの問題だ」っていうのが分かってくるので、本当積み重ねが大事かなって思います。

## 同じレベル、同じ目標の人間が周りにいることで、助けられた部分がたくさんありました。

私はA1クラスで、そのクラスの子にも恵まれてて。化学も最初苦手だったんですけど、私は自分ができないっていうのを周りの子にすごい言ってて、「酸化還元のすごい簡単なやつも分かんないから、めっちゃ馬鹿な質問するけどいい？」みたいな感じで友達にも聞きまくってたんです。でもみんな嫌な顔せず聞いてくれて。その中で同じクラスの子が、「ここ分かってるんだ、ここは分かってないんだ」とかいうのを、友達同士で共有できたので、それは良かったかなって。よく質問してたのは、長井花蓮ちゃん（長井花蓮：横浜雙葉：聖マリアンナ医科大進学）とか、櫻井理沙ちゃん（櫻井理沙：田園調布雙葉：聖マリアンナ医科大進学）とかです。あと、吉川裕二朗くん（吉川裕二朗：慶應義塾高：聖マリアンナ医科大進学）とか、秋山くん（秋山開：県立宇都宮：帝京大医学部進学）とかにもめっちゃ聞いてました。もう本当にいろいろ聞いて、みんなで不安なこととかを共有し合ったりしてて。で、受験も五反田から受験会場のTOC行くときもたまたま会ったりして、ずっと1年間見てた顔だから、おかげですごい安心して受験行けたし、やっぱりそれは、個人塾だと本当に1人でずっと勉強しちゃうから、本当にそれは強かったかなって思います。試験会場でも隣が代官山生だったときとかもあって、それのおかげでマンスリーテスト受けてるかのように平常心で受けれたし、本当に良かったです。

マンスリーテストの結果に関しても、ランキング貼り出されるじゃないですか。私は本当に頭が良くなかったので、載っても全体のランキングの下のほうに頑張っていようみたいな、それを目指してやってたんです。A1の周りの子が良かったりしたときに「ああ、自分はここなんだ。でも周りのA1の子は、こんな順位高くなってる、自分も頑張ろう！」みたいな感じで、近いレベルの子と自分を比べることで、気持ちを高めてたんです。自分の成績の上下だけじゃなくて、周りと比較することで自分を冷静に見れるのでよかったです。

## 学科の勉強も大事だけど、小論文・面接対策も一学期からしっかりやってもらって本当に良かったと思えてます。

小論文も面接の対策も、1学期からずっとやってる

し、直前期も講座とかも開いてくださるので、受け答えの仕方とかが大分頭に入ってきて…、それで、集団授業で面接の練習してると、周りの子と比べて自分の受け答えの早さとかも分かって、「ああ早いんだな」「私ちょっと遅いから気をつけよう」とか気を付ける点が見えてきたり、あとは当てられた人が上手に答えてたら、そのいい答えをメモったりして、面接でこういうことを答えるべきだとか、これはやっちゃいけないんだとか、やっぱり自分だけだと分かんないので、それも良かったかなと思います。

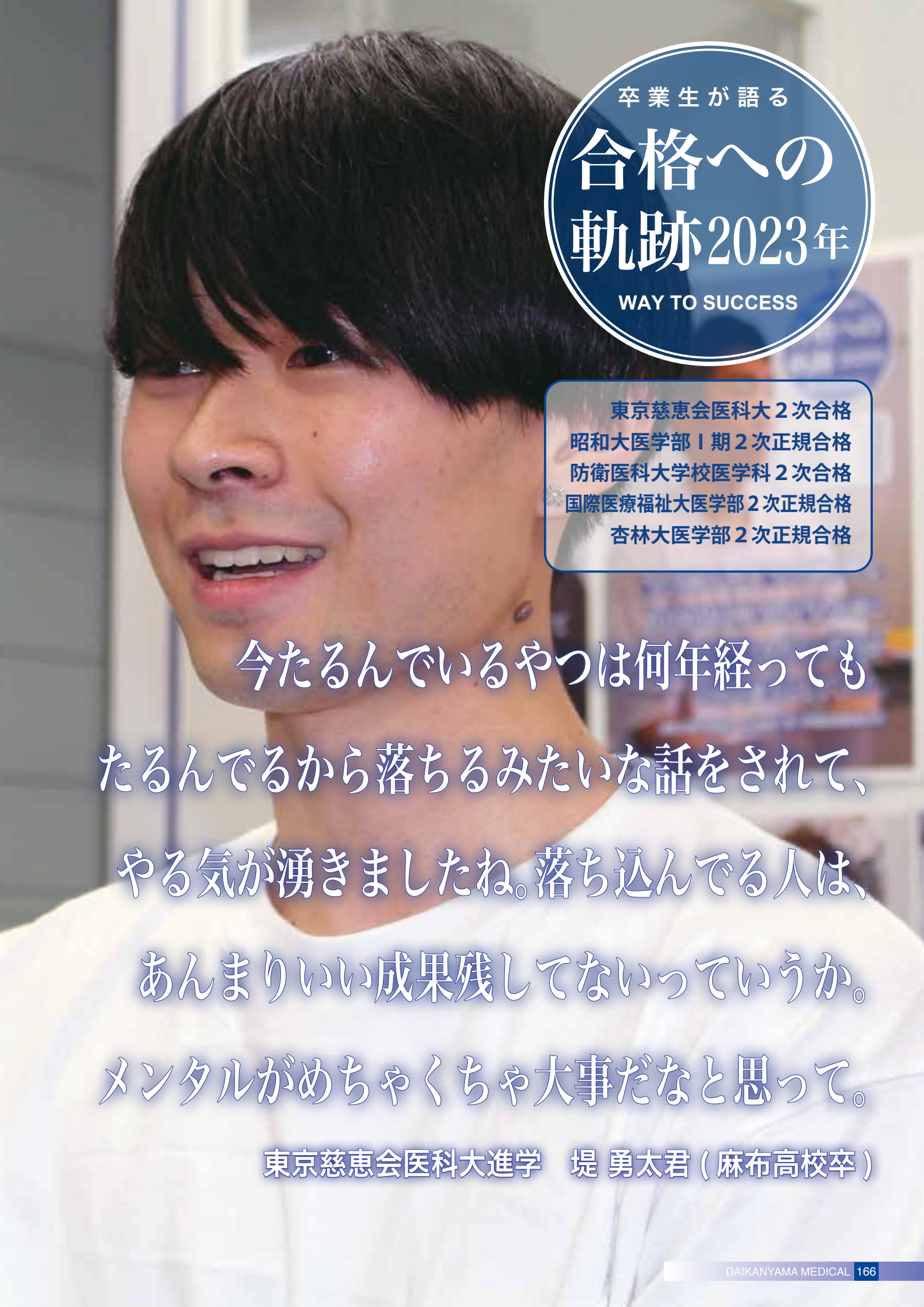
で、聖マは圧迫だったんですよ、15 分間。私、落ちたと思って、泣きながら帰ったんですけど、なんか志望理由がすごい聞かれて。で、志望理由に、5 歳のときから医者になりたかったって書いたんですよ。手術してもらった経験があったんで。そしたらなんか、面接の先生たちが「本当に 5 歳でなりたいと思ったの？」みたいに食い付いてきて。でも、先輩たちの軌跡とか読んでたら、“聖マの面接は結構、厳しい感じで来るっていうのを分かってて、「あ、来やがったな」ぐらいのモチベでいかないと、15 分間耐えられない”って書いてたんで。だから、いじめてきたなって思ってました（笑）だから、自信満々に答えて、「いや、そうなんですよ、ほんとに 5 歳から思ってたんです！」みたいな。それでいろいろほかの質問でも高橋浩先生に言われたことを守ってちゃんとやってたら、「完璧な回答しかしないね」みたいな嫌味ともとれる誉め言葉を最後言ってくださって（笑）でも圧迫だったんで、落ちたなと思ってたんですけど（笑）代官山 MEDICAL が毎年出してくださってる青い攻略本 ( 私立医学部入試攻略本 )。あれ、各大学の面接で聞かれたことがまとめてあって。それは絶対に全部答えられるようにしてて、その、面接の待つ間とかも、何していいか分かんないんですけど、みんな携帯とかいじってたりしたんですけど、私はその全部青いやつを目つぶって言えるように、全部答えられるようにしてたら、そのまんま結構、割と出て、なので本当に重要だなって。そりゃ完璧なことしか言わないねって言われるなって（笑）ほんと、代官山 MEDICAL のおかげさまなんです。聖マは割と 2 次で挽回もできるので、私は多分、学科でそこまでめっちゃ取れる人じゃなかったので、2 次の小論と面接で頑張って良かったみたいな感じなので。

## これから受験する後輩へ向けて

なんか今は、目の前の勉強ですごい大変で、自分が受かるかなって毎日すごい不安だと思うんですけど、マンスリーとかが悪くても、ネガティブにならずに、ここができてないって今分かったんだったら、受験までに絶対に完璧にしてやるっていう、もう全部ポジティブに変えて、頑張ってほしいなって思ってます。で、受験が始まったとしてもいくらでも挽回はできるので、自分は絶対今年で受かるっていう強い気持ちを持って、試験に臨んだら絶対に受かると思います。こんな私でも 1 年で受かったので（笑）

あ、プライドは消しておきましょう。現役で受験に落ちたときに母に、「プライド全て捨てて、全てさらけ出して、塾に行ったほうがいいよ」って言われてて。たまにいい子振っている人っているとは思うんですけど、そんなことして点数は上がらないし、受験で困るのは自分なので。さっき言ったみたいな感じで私は友達に聞きまくってたんで（笑）そういうプライドを全て捨ててやってたのは、良かったのかなって思います。石井先生もよく「謙虚にやりなさい」っておっしゃってたんで。

あと軌跡も読んでください！（笑）私も落ち込んだときとかは軌跡読んで、それこそ冬の直前とか、本当にご飯が喉を通らなかったときとかは、自分の行きたい大学に行った先輩の軌跡をすごい読んで、それで「くじけず頑張れば大丈夫」とか書いてあったのを見て、「くじけてる場合じゃない、頑張ろう！」みたいに気持ちを奮い立たせてましたね。そういうモチベで私の軌跡も見てくださったらうれしいです。



卒業生が語る

# 合格への軌跡2023年

WAY TO SUCCESS

東京慈恵会医科大２次合格
昭和大医学部Ⅰ期２次正規合格
防衛医科大学校医学科２次合格
国際医療福祉大医学部２次正規合格
杏林大医学部２次正規合格

今たるんでいるやつは何年経っても
たるんでるから落ちるみたいな話をされて、
やる気が湧きましたね。落ち込んでる人は、
あんまりいい成果残してないっていうか。
メンタルがめちゃくちゃ大事だなと思って。

東京慈恵会医科大進学　堤 勇太君（麻布高校卒）

## 周りが、(勉強)すごくやってる環境がよかった

今年振り返って、いつでも勉強しないといけないなっていうのが、やっぱ、ちょっと辛かったですね。大手も考えてたんですけど、やっぱ代官山 MEDICAL は真面目な生徒が多いっていう話を聞いてて、姉の同級生が代官山 MEDICAL は真面目な人が多いって言ってて。2 号館で自習している時って、周りの雰囲気が、もう周りの人は全然、席、立たないって感じで。なんか本当に 2 月、3 月落ち込んでて、めちゃくちゃ勉強がしたかったんですけど、家だとやっぱできなくて。長く開いてる場所がいいなと思って。なんか 6 時から開いてる (2 号館) っていう話を聞いて、じゃあ、ここにしようみたいな。現役の時って、ちょっと受かるなっていう、なんか甘えみたいなのもあって、もしかしたら受かっているかもみたいな感じで発表見たら落ちてて。もう、やばい。やんなくちゃみたいな。最後の (合否の) 発表があって、まあ、1 週間しないうちにはもう代官山 MEDICAL に入ってるみたいな感じでした。なんか書類郵送しますって言われたんですけど、その郵送の時間がもったいなくて受け取りに来るみたいな。なんか代官山 MEDICAL 自体、その受験の発表があった日に、もう面談の連絡を入れて 2 月 18 日ぐらいから自習室いる、みたいな。実際、自習室にいたら、なんかもう普通に、なんも考えずに無心にずっと勉強できたんで。めちゃくちゃ真面目な人が多くて、それに乗っかる感じで真面目になれたかな、みたいな感じです。僕は、朝、自習室にきて、その前日の授業の解き直しと、その日の授業の予習をしてました。もう、めちゃくちゃありがたくて。朝 6 時から開いてるんで、勉強のモチベーションが高いときに勉強する場所がないっていうの避けられて。三橋君(三橋清哉：暁星高：東京医科大進学) がすごいめちゃくちゃやってて、一緒に話すようになって、勉強時間で追い付きたいなと思ってました。この問題はどのぐらい大事かみたいな、これ解けないと落ちるかなみたいな感じで、あと、清水楽詩 (清水楽詩：成蹊高：日本医科大進学) とか、八木さん (八木理利花：筑波大付属高：東京医科大進学)、山中さん (山中優佳：田園調布雙葉高：北里大医学部進学) とか、いろいろ情報交換っていうか、最終的な知識の出し合いとか、知識の補完ができたっていうところで、まじめなメンツでしたね。

## 水は低きに流れる

数学科の平野先生なんですけど、めちゃくちゃ別解をやってくれてて。一つの問題に対して 6 個の解法を説明するっていう授業が 2 回ぐらいあって、それ全部を覚えるぐらいには印象に残ってます。その考え方が使えるみたいな問題が多いんですけど、その 6 個の方法を学べるので、アプローチが増えてよかったかなって。なんか僕としては、数学科のテキストが結構すごいなって思ってて、難しい問題もあるんですけど、基本的なところからなんか順に難しくなっていくみたいな感じで、置いてかれずに、むずいところまで行けるかなみたいな。特に、4 集とか、確率めちゃくちゃ苦手だったんですけど。結構、前期のテキストだけでも、もう最後まで戦えるぐらいにはなってて。

あと、石井先生の授業も。なんか石井先生の授業はもう緊張感が違って、みんなぴりっとして受けてて集中できましたね。石井先生のお言葉だと、やっぱり水は低きに流れるみたいな。あれ多分、真実で。なんか友達とかと喋っちゃってた時は、マンスリーの結果もちょっと悪かったりしてて。喋ってた時期でも、ちょっとさすがに罪悪感すごいから、もう戻るわって言って自習室に戻る子も結構いて。喋ってる人、多分、全員、罪悪感持ってて。あー、戻らなきゃいけないのは分かってはいるんだけど、ちょっとついつい喋っちゃってて、やばいなみたいな。

化学では三上先生が良かったですね。三上先生の授業は結構、前のほう座ってたんですけど。「おい堤、この問題解いてみろ」っていう感じで、結構覗きに来たり、答えさせられたりしてて。それ結構なんか授業に参加してる感があって良かったです。なんか眠くなってたりしたときも当ててくるんで。化学のテキストは、その解いたことないぐらい難しくて、前期から結構、飛ばしてるなみたいな印象があって。普通にみんな解けてるのかなみたいな感じで、焦ってやってた記憶があります。あとは、ほとんど質問しに行ったことなかった先生も、優しく教えてくれて。基本的にいつでも先生がいるってのがありがたくって、自分から行けなくても。ちょっと前期は、その先生方とあんま喋れてなくて。後期は、その、ヒラパン (平野先生：数学科) とか薄先生 (数学科) に、課題もらいに行って解いてました。直前期とかになってくると、授業がなくても、先生が校舎に結構いてくれて、試験から戻ってきたら、あ、先生いるって、ってなって。質問聞きに来たとかていうので残ってくれてて。すごい、なんか代官山 MEDICAL の先生、元々いる人数も多いから、残ってくれれば、それだけ聞ける確率も増えるから。あと、直前期も来て友達と自己採点とかしてました。自己採点終わったら、もう普通に問題出し合うみたいにやって。問題の出し合うっていうのは 2 号館の、なんかいい風習だったっていうか、なんか赤本とかを、みんな時間を決めて朝やったりとかってしてたんで。なんか直しをした後なんですけど、代官山 MEDICAL の化学のハンドブックの知らなさそうな知識をお互いに言い合ってました。(試験の手ごたえが無くても) 落ち込んではいなかったですね、誰も。結構、自己採点の時は落ち込んでたりするんですけど、その後ちょっとお喋りしたりすると、なんか平気な顔して帰ってくみたいな感じでしたね。

## 代官山で苦手分野をつぶせる勉強ができた

代官山MEDICALでの勉強法は、高校の時と比べて、ココやれ、みたいな苦手なところを潰すみたいな勉強法だったので、全科目そこそこまで上げていきましたね。得意科目は物理で、苦手科目は化学でした。ノートを見直すってのが、まあ、一番、手っ取り早くて。数学は結構みんなと一緒に解いてて、日医が30年分で。慈恵も10年分やりました。まあ、M1、M2クラスの子たちとは比較的、全員と結構、仲良くて。なんかみんな結構、直前期とかはもう戻ってすぐやるみたいなピリピリ感があって、いい刺激になったなって思いました。三橋君とかに、最近、俺ちょっとたるんでねっ？って言うと、間違いなくたるんでるって即答されるぐらいには、なんか厳しい言葉を結構掛けられてて。いや、結構、冗談交じりな感じなんですけど。お互いに、なんかサボってたりすると怒り合えるような仲の良さだったかな。真面目な人と友達になるのがいいなって思います。やっぱり授業を受けるだけじゃなくて、それから自分で何を吸収できるかってのが一番大事ですね。受けっぱなしだと、どうしてもなんか最大限活用はできてないなっていう風に思って。なんか自分の中で理屈付けたり、この問題あれと似てるなみたいな感じだったり、自分から授業を受けに行くみたいな姿勢が大事だと思います。なんか結構、自分は分かってるけど、先生が分からない人のために説明してるみたいな時間があったりしたら、自分だったら、その問題こうやって解くとか、自分だったら、こうやって説明するって、分かることを終点でなく、他人に自分の言葉で説明できるように考えたりするのは大事だと思います。いろんなタイプの先生がいるっていうのがやっぱり大きくて、しかも近い存在で。その全部、説明してくれる先生もいれば、ここは自分で考えてみろみたいな感じの先生もいて。その、授業を受ける姿勢でどれぐらい活かせるのかが変わるのかなっていう風に。授業を全部、吸収するっていうのが大きくて、使うか本当に怪しいような単語まで全部、全部書いてくれる先生がいて。結構、みんな流しちゃったりしてたんですけど、自分は結構、覚えようかなって思って覚えてました。

## マンスリーでモチベーション保てた。

マンスリーがやっぱ大きくて。マンスリーの1週間前、2週間前とかになると、たるんでる場合じゃないなみたいな。なんかやっぱり、沢山あるのがめちゃくちゃ良くて。受験回数が月イチなんで、あっという間に試験日ってなるし、落ち込む暇もないっていうか、サボる暇もないっていうか、それが良かったです。まあ、でも周り見てると、成績下がるまでやらない人って結構、多いと思ってて。自分も高校までちょっとそのタイプだったんですけど。(総合ランキングは)10位以内をキープしたいなっていう目標があって、サボると10位以下になっちゃうみたいな。下がるっていうか、追い付かれちゃうみたいな感じで、追い付かれんのは、まずいなみたいな。あまり家に帰ってから、ずっと勉強というよりかは、もう家では、帰って寝るみたいな感じでした。マンスリーとかの出来が悪かった週ぐらいは、家帰ってからもちょっとやってたんですけど、普段はそこまでやってないです。ウィークリーは、できてない箇所、ミスしやすい問題を知って、また問題解くみたいな流れの一部として使ってました。

## 受験は二次試験が勝負の決め手。

やっぱり2次だと思ってて。僕、今回2次落ちしてなくて。その1年間ずっと小論と面接の授業があって、もう慣れてるみたいな感じで。それぞれの(小論文の)問題に対して100教えるんじゃなくて、筋となる10を教えてくれて、自分であと90乗っけるみたいな教え方で、応用力っていうか。基本的にどんな問題が出ても対応できるっていう力は付いたなって思います。やっぱり小論とか毎週あるのはすごいなと思ってて。また、高橋浩也先生のマンツーなんですけど、絶対取っといたほうがいいって思います、はい。

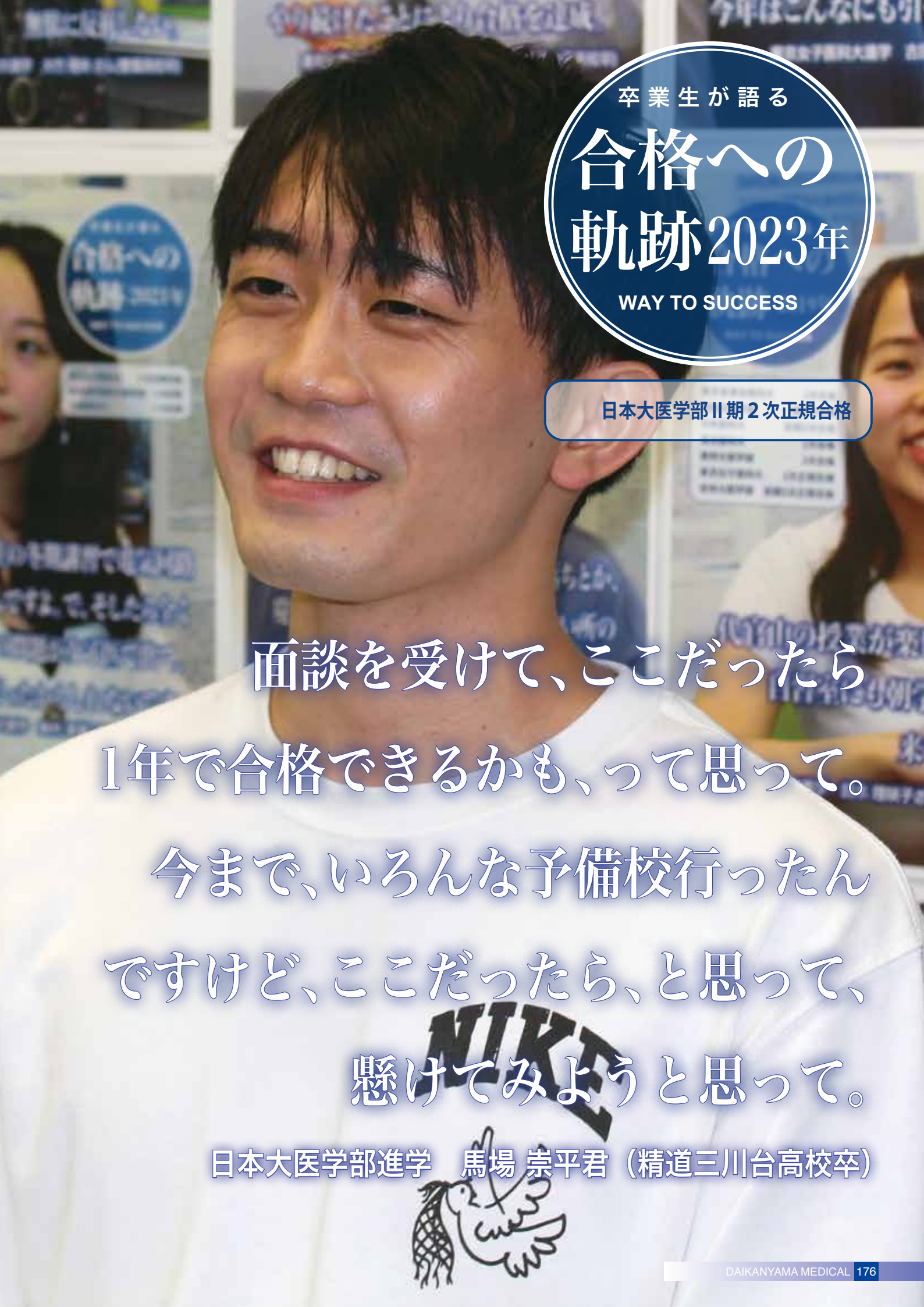
## メンタルがすべて、です。

不合格体験記(去年失敗した理由を書く書類)みたいなのあったじゃないですか、あれ書かされて、あれで何とか正気を戻したっていうか。反省点みたいな。あれ、ぎっしり書いて、ハハハ。

なんか計画性がないって書いた気がします。なんか絶対受かるわけない学力なのに、なんかまぐれで受かるんじゃないみたいな甘い考えでいて全く勉強しな

かったって。アハハハ。

でも、まあ、選べる立場にあるんだったら、真面目な人と友達になるのがいいなって思います。クラス上がっていけば、それだけレベルの上がっていった人たちと一緒につるむっていうことができるから。そういった人たちから刺激を受けるっていうのが一番いいのかもしれない。あと、なんか辛くても頑張るしかないみたいな話になっちゃう気がする。もう、ずっとです。浪人期間はもう、辛いものみたいな。やっぱ石井先生の激励っていうか、何ていうか、その言葉みたいな。こういうやつは落ちたみたいな、結構厳しい言葉でも、薄先生とかも、なんかこういうやつは落ちるみたいな感じで多分、20 人ぐらいが同時に自分のこと言われてんだろうなって思うような。薄先生はミスとかに対してそういう言葉を言うんですけど、石井先生は受かる生活習慣とか、受かる態度とかのほうで言ってて。薄先生は、ここでこうやるやつは注意力がなさ過ぎて落ちるみたいな。でも、石井先生は、結構、雰囲気として、たるみ始める時期みたいなやつが、やっぱ夏とかあって。その時とかに、今たるんでいるやつは何年経ってもたるんでるから落ちるみたいな話をされて、やる気が湧きましたね。落ち込んでる人は、あんまりいい成果残してないっていうか。メンタルがめちゃくちゃ大事だなと思って。僕、順天と日医は 1 次落ちだったんですけど、なんも響かなくて。そのまんま頑張り続けるしかないなみたいな。で、慈恵も結構、手応え良くなかったんですけど、どんどんなんか頑張ればいいやみたいな感じになって、落ち込んでたりはしなかったです。



卒業生が語る

# 合格への軌跡2023年

WAY TO SUCCESS

日本大医学部Ⅱ期２次正規合格

面談を受けて、ここだったら
1年で合格できるかも、って思って。
今まで、いろんな予備校行ったん
ですけど、ここだったら、と思って、
懸けてみようと思って。

日本大医学部進学　馬場 崇平君（精道三川台高校卒）

## ここ ( 代官山 MEDICAL) に来て、化学も英語も、十分伸びましたね。

馬場崇平です。出身高校は、精道三川台高校です。進学大学は、日本大医学部です。9年浪人しました。あ、代官山 MEDICAL にお世話になったのは今年だけです、今までいろいろと転々としてきて、もうめちゃくちゃ大変でした。日本大学医学部は、Ⅱ期だけ受けたんですけど。日大受かったのは、びっくりしました。前期日程で受験しているときは、かなりきつかったですね。また今年もか…、みたいな。例年ちょっと1次は通ったりしてたんで、あ、今年もやっぱり難しいのかなと思ってて。正規ってやっぱ取れないのかなみたいな。途中これまで、色んなところで、いろんな予備校で、これまでも色んな先生からも、他学部とか勧められたり、薬学部とかどう？とか言われたりもしたんですけど。一瞬、ちょっと心が揺らいだりもしたんですけど、やっぱり、自分が医者になってない未来が想像できなくて。やっぱ後悔するだろうなと思って、ここまで来ました。ここの授業は毎日出てました。特に多浪生は、最初は頑張るんですけど、途中で授業出なくなったりするんです。そこをですね、まあ1年間踏ん張ったら、何かしら変わると思うんです。そこが重要かなと思います。初めから話すと、僕が長崎県出身なので。長崎の予備校に入って、そこで3年間過ごすんですけど。なかなか最初、基礎学力ができてなかったんで。その時点で、ちょっとみんなより遅れてたんですけど。何とか授業出て、ちゃんと毎日出て、ちゃんと授業受けとけば、何とかなるって思ってたんですけど、まあ、成績そんなうまく上がることなく、3年過ぎちゃいまして。その後、九州医●ゼミ予備校っていう、福岡の医専に行って、受験生活またやったんですけど。英語と化学が、なかなか次は伸びなくて、特に英語は、本当に伸びなかったですね。苦手で、なかなか本当に悩んでましたね。その後、ここ ( 代官山 MEDICAL) に来て、いろんな先生たちに教えてもらって。化学も英語も、十分伸びて。英語は、梅田先生のマンツーマンを取ったので、結構、上がりましたね。

## ここだったら1年で合格できるかもって、思って…。

僕が4浪目ぐらいになるときに、長崎で一緒にやってた友達が、代官山 MEDICAL に行って1年で医学部受かったっていう話を聞いたんですよ。そのときは、東京っていうのが、ちょっと想像できなくて。他の友達からは闇が深いと、フフフ、ハハハ。東京は。東京は、怖いなとか思って。ちょっと踏み出せなかったんですけど。9年目どうしようかってなったときに、福岡の九州医●ゼミの友達から、代官山 MEDICAL はどうだろうかって勧められて。ここがすごく合格率がすごい。で、いろんな口コミ聞いても、ここは本当になんか、成績が1年ですごく伸びるって聞いて。ちょっと行ってみようと思って。それで、面談を受けて、ここだったら1年で合格できるかもって、思って…。今まで、いろんな予備校行ったんですけど、1年で受かりそうに感じた、そう思った、いや思えた予備校なかったんですよ。なんか、自信に溢れていて、ここかって…、と思って。懸けようと思って。それで代官山 MEDICAL に来ましたね。

## 他の医専と比べていろんな先生に習えるっていうのが良かった。

いろんな所行ったんですけど、やっぱり講師のレベルの高さと知識の豊富さは、圧倒的に凄いなと思いましたね。僕がいた所が田舎の医専なのであれなんですけど、そこは1科目に2人とか3人しか先生いなくて。代官山 MEDICAL は、1科目に 10 人以上もいるじゃないですか。先生たちに質問すれば、いろんな回答が返ってきて、こういうのあるなみたいな。自分に合った解法というのが知れて、あ、こういう解法もあるんだみたいなのが、分かりやすい先生とか、自分に合った先生も見つけやすいので。もう圧倒的にすごいなと思いますね。あと、クラス分けとかいうところは、確かに他の所もあったんですけど、クラス分けしたらクラス分けしたで、先生がそのクラスだけにつくので、自分のクラスの先生だったら、その先生にばっか行っちゃうんですよ。他の先生にまで行けなくて。だから、なんか行きづらいというか。面識がないので、なかなか行きづらい。でも、代官山 MEDICAL は、いろんな先生の授業を受けれて、あ、良いなみたいな。どの先生にも、いつでも質問できて、自分の顔も覚えてもらえるし、こっちからも声掛けやすいですし。そういう点ではいいなと思いました。他の医専だとクラスも普通3つ4つですが、代官山 MEDICAL は 14 クラスあるので、細かく細分化されているので本当に良かったです。あと、ちゃんと先生たちが作ったテストで、模試を受けるので。代官山 MEDICAL 独自の。ちゃんとその、入試に合わせたレベルで出すので。それを 10 回とかやるので。マンスリーは 10 回。ウィークリーも毎週ありますし。テストいっぱいするので、テスト慣れもしますし。テストを受けて、自分の足りてないものをすぐ把握できるんで。他の医専になかったところですね。なので、暇っていうのはなかったですね。逆に、すげえ忙しかった。予備校にいるときには、もうとにかく勉強のことだけ考えたいので、そういった点でいったら、予備校にいるときは勉強しか考えられなくなるので、すごくいいかなと思う。家に帰ったらもう、勉強のこと忘れてリラックスできるんですけど。メリハリがつくっていう点で、すごく良いかなと思いますね。寮生活は、校舎から1分のところだったんですけど、すごく部屋もきれいで、過ごしやすかったですね。周りにもいろいろ食べる店とかあったので、特に困ることはなかったです。勉強だけに集中できるので。で、夜はもう寝るだけになるんで。そういう点では、本当に充実した受験生活が送れたなって思います。

## 結構、情報戦っていうか、はい。

多分、あの、1人じゃ多分、もう無理だったと思うんですけど。やっぱ代官山MEDICALで作った友達が支えになってて。もちろんその、両親もそうですけど、周りの方たちがずっと応援してるっていう、その期待に応えたいっていう気持ちはずっとあったので。そのおかげで、モチベーションが保てたかなと思いますね。男友達も女友達もできてたんですけど、須藤君(須藤友文：青山学院高等部：帝京大医学部進学)、中村君（中村晟也：浜田高：岩手医科大進学)、隠土さん（隠土未亜：都立青山高：東邦大医学部進学）とか。クラス一緒になったから、その時に話したりはしたんですけど。いろいろ向こうからも、質問とかあったので、それからお互いに朝来て勉強してました。やっぱいろいろ助けにはなったかなと思います。一緒に切磋琢磨できました。やっぱ大学でも、友達作ってないと、進級は難しいと思うので。結構、情報戦っていうか、やっぱそういうのがあるので。チームワークなきゃ厳しいです。大学入学後も連絡取り合ったりしています。今、大学生活、楽しいです。

## 苦手なところも基礎からやったほうがいいかなと思います。

薄先生(数学科)に、最初に計算トレーニングを朝来て15分、とにかく夏までは毎日やりなさいっていうふうに言われてたんですね。僕自身、多浪して落ちてる原因として、計算ミスっていうのがあって。やっぱ解法分かってるのに、計算ミスで落としちゃってると思って。それで点数失ってるっていうのは、もったいなかったので。その計算ミスを防ぐっていう点においても、やりなさいって言われたのは、やって確かに実感はしたので、計算ミスが減ったので。毎日、計算トレーニングやるっていうのは、大事かなと思います。

やっぱ基礎ができてないと、応用はできなくて。応用、結構、出来るんだよねっていう人って割とその、変に解法、自分が知ってる解法がただただ、たまたま当たってるっていうか、そういうのがあって。基礎がちょっとでも変わると、その基礎が分かってないと、え、何これみたいな。だから、やっぱ基礎を最初の夏までは土台として付けておかないと、上に上がるのはまた厳しくなる。石井先生にも言われてたんですけど、多浪してる子とかって、得意科目にちょっと走っちゃう。苦手なのをただやるのは辛いので、どうしても自習時間のときに得意科目に行っちゃうんですけど。苦手科目をとにかく克服、基礎だけでもやっておくだけで結構、点数が変わってくるので、総合自体が変わってく。僕自身、英語と化学ちょっと苦手でしたけど、オールマイティーにすることで、もう敵なしみたいな。やっぱり苦手なところも基礎からやったほうがいいかなと思います。どれだけ苦手を克服するかが、1年で決まるかなと思いますね。あとは、三上先生(化学科)とか平野先生(数学科)とかが、とにかく英語をやりなさいって言ってて。そんな英語できるだけでそんな変わるのかなって正直思ってたんですけど。実際、その英語ができてる人って、割とレベルの高い大学に受かってて。英語が結構、医学部でもやっぱり重要になってきてるのかなっていう感じはするので、英語をやりなさいっていうのは、本当にそうだなと思いますね。英単語を必ず毎日見るとか、英熟語、文法をやっとく。そういう積み重ねで、英語はやっぱどんどん伸びていくと思うので。英語は本当にやったほうがいい科目ですね。特に$\theta$の授業で、石井先生にも言われてました。一番、応援してくれたのは、数学の村上先生ですね。あのポジティブな声掛けは結構、自信とモチベーションを上げるきっかけになったかなと思います。

## 復習がすべて

やっぱり受験生って、新しいことをやろうってするんですよ。特にこう、最初、身に付いてない子ってやっぱ焦ってると思って、とにかくいろんなもの取り入れようとして復習がおろそかになるんですよ。復習が本当に大事で。あの、復習、本当にあの、予習じゃなくて復習のほうを重心、重点置くだけで、かなり成績の伸びが変わると思うので。1回やったところを復習、何度も何度も復習するだけで、ま、冬には偏差値は10は伸びるかなと思いますね。前期と後期のテキストをとにかく復習する、これが一番合格の近道。

## 2号館も本館も関係ない！！

なかなか(成績)ランキングに載らないと、滅入るというか、メンタル的にもう、ああ自分、駄目なのかなっていう、あると思うんですよね。ただ、本当に最後まで諦めないでほしくて。僕よりランキングでは下だった子は何人もいたんですけど、それでも僕より上の大学に受かっている子もいるんですよ。なので、本

館の子が、東京医科大学に受かったりとか、そういう人もいますし。クラスが下の子でも全然、落ち込まないでほしいというか。確かにランキングは大事ですけど、それだけに重視すると、メンタル的にもちょっとやられちゃって、結果、最後まで力が出し尽くせないというのがあるので。そうじゃなくて、入試まではとにかくやる、やれるだけやったから、これだけやったから受かるだろうっていう自信を付けれるぐらい、とにかくやって欲しいっていうのがあります。ランキング載らなくても。自分より下のクラスの子たちも、順天とか、日本医科とか受かってますし。全然クラスも関係ないので、最後の最後は、どれだけやったかなので。本当に、最後の最後までやり続けてほしいかなと思いますね。実際、その、2号館だから受かるとか、本館だから落ちるっていうわけじゃなくて、本館A7とかA8とかだとしても、受かってる子は、ちゃんといるので。本館の人でも、僕の知ってる人（清水楽詩：成蹊高：日本医科大学進学）でも、最初1年目は、ずっと最後まで本館だったけど、2年目で、日本医科大後期を正規で取ってるんで。

## 友達を励ましてるときに自分自身にも、こう、当てはまる部分が見つけられるんですよね。

マンスリー載らなくて、すごく成績が、すごい落ち込んだときがあったんですよ。僕の友達も同じような状態になってて。最初の方はランキング上位にいたのに、急に下のほうになったりとか、ちょっと一旦俺ら休まない？みたいに。結構、お互い頑張ってたんですよ。朝6時には必ず行ってたので。冬も行ってて。かなりこう、体力的にちょっと疲れてて、頭が回ってない部分があったのかなと思うんですよね。ちょうど三村さん（三村華弘：南山高：大阪医科薬科大進学）とそういう話をして。お互いちょっと、本当に同じくらいの成績で。でも、結果的に彼女は、後期の大阪医科薬科、受かってますから。最後まで本当に諦めなければ全然、受かるかなと思います。友達を励ましてるときに自分自身にも、こう、当てはまる部分が見つけられるんですよね。で、自分自身にも、いい意味で跳ね返ってくるので。それで、一緒にもう頑張ろうみたいな。一緒に上り詰めてこうみたいな、いうふうにはなりました。

## 代官山MEDICALで初めて面接対策した

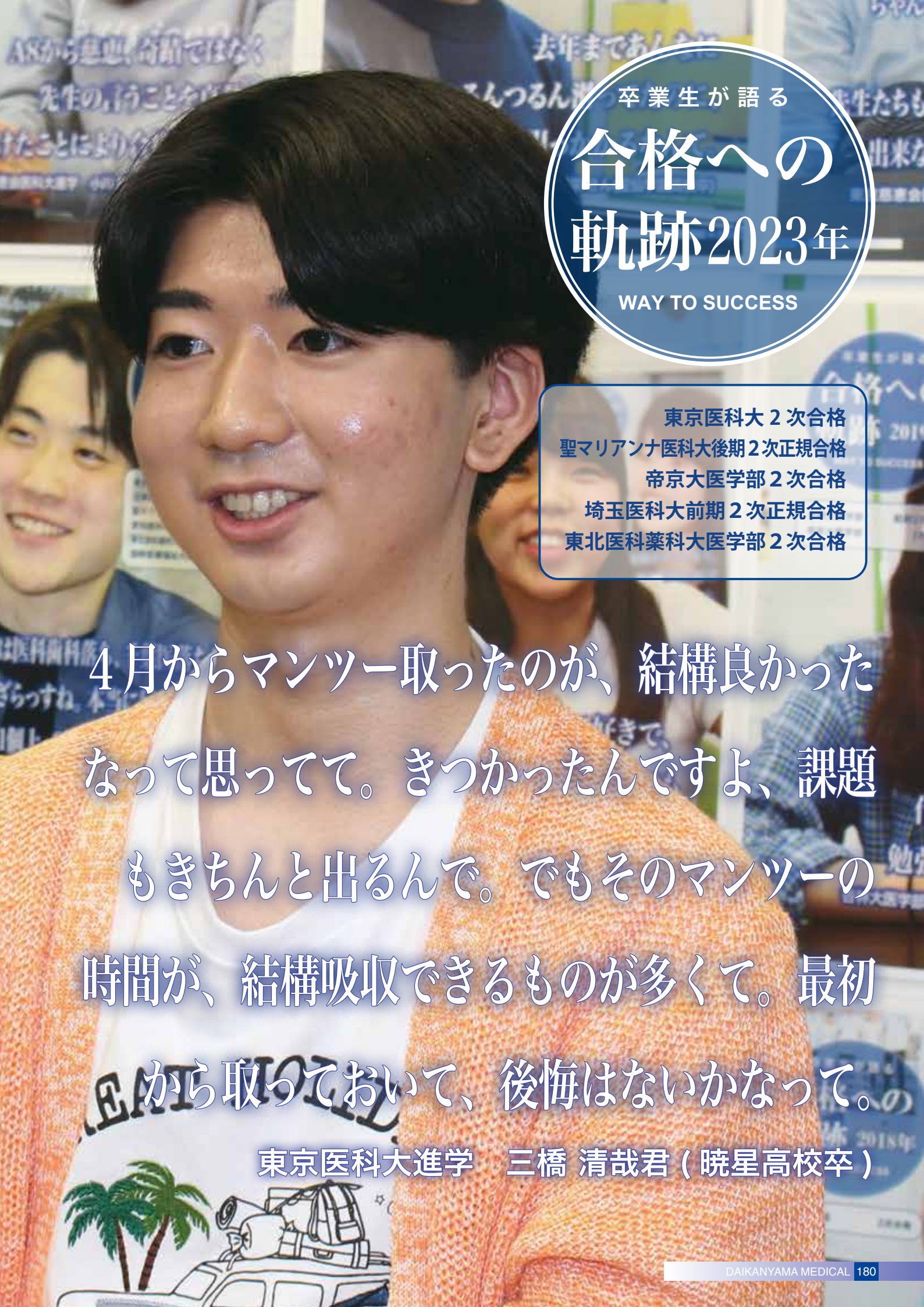
あとは、今まで浪人中、面接対策とかもしてなくて。小論対策もしてなくて。自分が面接どういう点が悪いんかなっていうのは、本当にちょっと分かんなかったんですよ。2次行かないと。僕が通ってた医専は、その対策してないので。代官山MEDICALは、全員に対してそれを最初の春からやるので、すごく、ためになったなと思います。面接に行っても、ここで学んだことをただやるだけなんで。そういった点では、すごく良いかなと思いますね。今まで通っていた予備校では、面接対策ないですね。本当に、最後の最後の冬に1次合格しましたって言った後に、あ、じゃあ、対策しよう、と。けど、それは1、2回なんで、それで、万全とは言えなくて、気持も上がるわけがなく、無理ですね。なかなか厳しいものがあるかなと思います。特に、時事問題というか。SDGsとか。僕、それ本当、ここに来て知ったので。なんで、ぱっとそういう予想外っていうか、自分の、その志望理由とかじゃない準備してないものが来られたときに、うって、ちょっと間が空くとかっていうふうになっちゃってたんで、最初はそうなってしまったんですけどそれが無くなってくるので。そこはすごく良いなと思いましたね。聞かれた1秒後にはもう、答えるみたいなふうには、出来てたかなと思います。これは本当に、他の予備校では無いかなと思いますね。予備校でこんな、ここまでやってくれる予備校はないと思います。なんで本当、ここで1年で合格できなかったら、ちょっとどこ行くっていうふうにはなってくるんですけど。

## 結局、カリキュラムが大事。

代官山MEDICALは、カリキュラムが、良くできてるなと思います。先生たちも豊富なんで、分かんないことあれば、聞きたいときにいつでも待たずに聞きにいけるし、あとは、欲しいプリントがあるなら、言えばもらえますし。多分、がむしゃらにやったら、何かしら奇跡が起きると思います。代官山MEDICALに来て、最初はやっぱ成績がなかなか伸びないとかっていう､焦ることがあると思うんですけど。こつこつ、毎日ちゃんと予備校に朝来て授業もサボらずに一つ一つ、階段を上っていけば、最後の最後には、自分の求めていたものが手に入るので。こつこつやることが、本当に大事ですね。

## 最後に。

謙虚にやる、謙虚にやることが大事です。これは僕が日本大学の面接で、「座右の銘、何ですか？」って聞かれて、そう応えた言葉でもあるんですけど。代官山MEDICALに貼ってある、「明日やろう明日やろうという者に明日はなし。」これは本当に、大学入ってからも、それはあると思うんで。人生でずっと続いていくと思うので。明日復習やろうとか、明日この課題やろうとか、言ってたらまあ、ちょっと溜まってきちゃって。やれるんだったら、その場でやったほうがいいです。あと、我流に走らずに、とにかく先生たちの言うことは聞いてほしいかなと思います。やっぱプロなので、先生たちは。変な訳分からんことを言っているわけではないので。これやりなさい、って言われたのは、一度試して、やっていくのは大事かなと思います。とにかく､信じて､代官山MEDICALを信じて､1年過ごしてほしいなと思います。



卒業生が語る

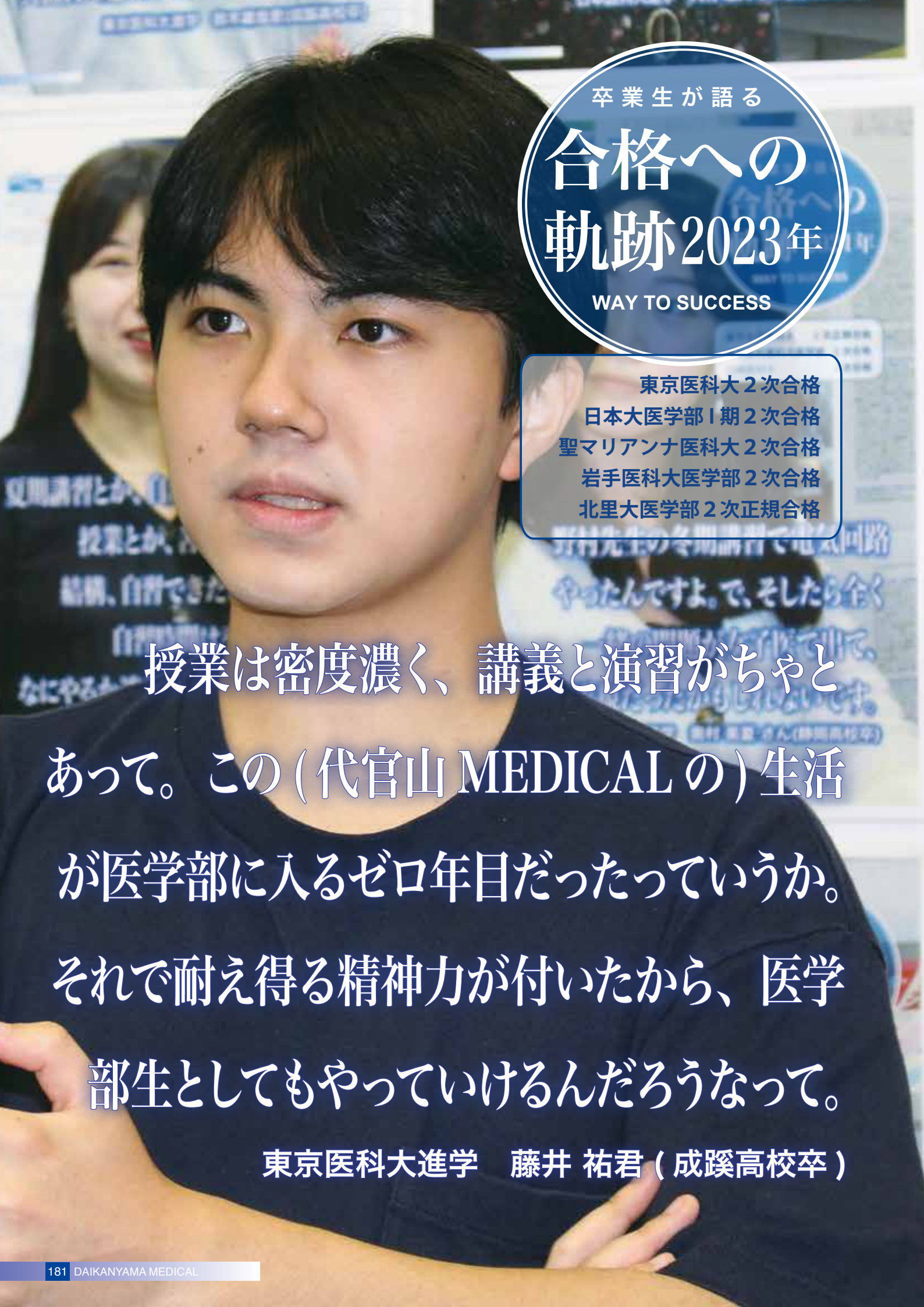
# 合格への軌跡2023年

WAY TO SUCCESS

東京医科大２次合格
聖マリアンナ医科大後期２次正規合格
帝京大医学部２次合格
埼玉医科大前期２次正規合格
東北医科薬科大医学部２次合格

4月からマンツー取ったのが、結構良かったなって思ってて。きつかったんですよ、課題もきちんと出るんで。でもそのマンツーの時間が、結構吸収できるものが多くて。最初から取っておいて、後悔はないかなって。

東京医科大進学　三橋 清哉君（暁星高校卒）



卒業生が語る

# 合格への軌跡2023年

WAY TO SUCCESS

東京医科大２次合格
日本大医学部Ⅰ期２次合格
聖マリアンナ医科大２次合格
岩手医科大医学部２次合格
北里大医学部２次正規合格

## 授業は密度濃く、講義と演習がちゃとあって。この（代官山MEDICALの）生活が医学部に入るゼロ年目だったっていうか。それで耐え得る精神力が付いたから、医学部生としてもやっていけるんだろうなって。

東京医科大進学　藤井 祐君（成蹊高校卒）

## 自分の成功ストーリーになっていく感じになるような過程

藤井　成蹊高校出身で、えー、東京医科大学に進学しました、藤井祐と申します。よろしくお願いします。

三橋　はい。暁星高校出身で、東京医科大学に進学しました、三橋清哉です。よろしくお願いします。

藤井　ただただ、楽しいです、大学、なんか、いつもいるメンバーが、10人ぐらいで固まってるんですけど。そこの話がもう、ちゃんと合うし、ノリも。

三橋　みんな優しくて。代官山MEDICALの繋がりは、とてもすごい。

藤井　あ、君も代官山？みたいな。君も代官山。やっぱ多い、多いです。

三橋　めっちゃ多いです。

藤井　だからありがたいしね、楽しいです。

三橋　代官山MEDICALでよかった。

藤井　よかったよな。で、それでも遊びだけじゃなくて、ちゃんと勉強も頑張る。

三橋　オンとオフがなんかしっかりしてるのが集まって。

藤井　さすがに合格してるやつらなだけあって、しっかりしてますね。いい人たち多いしね。優しいし。部活もね、楽しいです。

三橋　同じ部活なんです。ゴルフとダンス部です。代官山MEDICAL(に在籍していたの)は、1年です。1年お世話になりました。現役のときに後期対策で来て、そこであの、薄先生(数学科)とか原先生(化学科)とかに教わって。本当になんか、いい先生に出会って。ここでもう、絶対やっていけるって思って、そこで、もう代官山MEDICALにしようと思って、入って。まあ、やっぱ現役のときは、ひたすら量をこなせばいいなと思ってて、勉強時間は結構、してたんですけども。

藤井　同じ感じか。

三橋　代官山MEDICALに入ってからは、もちろん、量も結構こなしていて。朝の、まあいつも朝5時か、5時台に起きて、6時半ぐらいには代官山MEDICALに行くっていう生活を、まあ、ルーティン化してて。その点で量もこなしてたんですけども、それよりも質を自分は重視するっていう勉強法をずっとしていて。数学のテキストだったりとか、自分が理解できるまで、テキストをひたすら繰り返す、そういう勉強法を毎日してたので、質という点で、結構現役のときとは変わったのかなって思います。

藤井　俺はM4からM4ずっと。ずっとM4です。あとは、やべえ名前が、思い出せない。えっと、やばい。

三橋　誰、特徴。

藤井　富永さん(東京医科大進学：富永遥：白百合学園高卒)は1回下がって、最後上がって。で、途中から岩科(順天堂大医学部進学：岩科小夏：青稜高卒)もいたし。関西医科大学行った、ああ、宍戸さん。宍戸さん(関西医科大進学：宍戸鈴美：西武学園文理高卒)とかも、割とずっと一緒だったかな。

三橋　奇跡的にM1入れたみたいな(笑)。4月のマンスリーで、全体で2位だったですかね。押久保(日本医科大進学：押久保勇斗：芝浦工業大学附属高卒)が1位で、自分が2位みたいな。春のさきどり（講座）やってたんで、マンツー取って、で、まじで結構いけるやんと思って、最初M1に行って。そっからあの、早い6月の段階でM2になって、M1さようならという感じ、落ちてしまったんですけど。その6月は一番自分も辛くて、かなり落ち込んで、なんか結構ミスが多かったんですよ。その段階で、石井先生にも相談しに行って、ミスが多いんですけどって言ったら。君の場合、緊張から来てるから、マンスリーの前は早く帰ってもいいよって言われて。君の場合、ミスする要因は、睡眠も結構絡んでるかもって言われてて。自分はそのマンスリーの前は、結構睡眠を大事にして、6限で帰ったりとか、早い段階で帰ることも、大事かなと思って、あとミスノートっていうのも作ってて言われて。

藤井　作った、作った。俺は、石井先生に、「自分のマンスリーのミスをまとめるノートを作ってください。君は人と比べてもそそっかしい性格だから。」って言われて、あ、じゃあやります、って。

三橋　結構あれ良くて、その自分がミスした内容とかも書いて。あとマンスリーの自己分析とか、今回のマンスリーは何ができなかったのかとか、そういう分析とかも書いたりして。でも結構、受験直前とかマンスリー直前とかは、そのミスノートを夜ご飯中に見たりとか。あと電車の中で見たりとかして。自分がミスした箇所なんで、また絶対これからミスするだろうなとも思うので。そういうのをなくそうって思って、そういうのを直前、テスト、大事なテスト直前には見るようにしてて。おかげで受験中もミスは結構減ったので、効果はあったのかなって思いました。

藤井　同じかもしれない。化学とか、そう。それも自分のミスったものとかを、まあ転写したり、貼ったりとかなんかしてって。

三橋　転写したり、そうですね。

藤井　僕は、あとマンスリーかな。マンスリーの化学の第1問目って正誤なんですよ。くそむず正誤。

三橋　あれね。あれ、まじやばい。

藤井　くそむず正誤だって。それを全部マンスリー終わった段階で、全部もう一回コピーして。で、貼って隣に回答と解説、自分でごりごりって書いてっていうノート作って、やってたんですよ。受かるやん、受かるムーブってすごい大事だなと。ミスノートの積み重ねとともに、苦手意識もなくせたし、受験会場でもずっと読んでた。受かるやんってなんかちょっと、自分の成功ストーリーになっていく感じになるような過程をこう自分でちゃんとたどっていけたっていうか。

三橋　確かに。

藤井　なんかね、勝利ムーブじゃん。あとは英語の授業中に、先生がこう、ぽろっと言ったこととかあとは板書とか付箋にして。

## 友達の存在は、でかい。

藤井　そんな思ったりはしないんですけど、皆でなんかまあ、仲間も多かったから。仲良かったかな。

三橋　友達の存在、でかいよね。なんか、友達いなかったら本当、この受験乗り越えられないなって思って。特にMってか、2号館にいる人たちはその、友達を、まあ言い方あれだけどうまく使ってるっていうか、すごい印象が強くて。教え合ったりして。

藤井　でかいね。仲良かったね。

三橋　仲良かったね。なんか最初のM1、最初のクラスがM1とM2だった人たちは、結構みんな仲良くて。みんな結構、温厚で楽しくやってて。その受験直前とかも、楽詩とか。

藤井　本当に楽詩君(日本医科大進学：清水楽詩：成蹊高卒)、真面目。

三橋　チヒロ(日本大医学部進学：堤祐尋：米子東高卒)とか。自分最初の受験で、岩手だったんですけど。岩手の1次が落ちたんですよね。そこで、そう本当に落ち込んで、やばいなと思って。今年どこも受かんないんじゃないかなと思って落ち込んで。なんかみんな受かってて自分だけ落ちてたから、精神的にも結構病んでたんですけども。でも帰り、杏林ですかね。そこで1次の結果見て落ちたってなって。でも楽詩と祐尋と一緒に帰ってて。みんな励ましてくれてて。絶対おまえは、いいとこ受かるから大丈夫だって。最初は失敗しただけだよみたいに言ってくれて。本当にそれでなんか心が一気に洗われた感じがして。本当にその、そこでも友達の存在ってでかいかなと思ってて。そのなんか、同じ苦しみを味わった人たちだからこそ、まあ分かる、分かり合えるものがあるなって。今、思ってます。

藤井　本当だよね。

三橋　今も仲いいよね。今もめっちゃ仲いい。友達の堤勇太(東京慈恵会医科大進学：麻布高卒)とかと一緒に、お昼食べたりして。リフレッシュできるのがそこら辺しかないので。その毎日、代官山MEDICALに行くっていう生活なので。そういうリフレッシュも自分大事かなって思って。結構、話したりして。ストレスをなくしたりとか、勉強の調子とかもお互いに共有し合ったりもしてましたし。

藤井　俺の隣の隣の長田さん(昭和大医学部進学：長田純奈：学習院女子高卒)は、もう食べずにやってたよなと思って。食べてなかったよね。すっげえ、まじですげえって、勝手に尊敬して。

三橋　食べずにやってたよね。毎回いるもんね、昼に自習室。

藤井　話したことなかったんだけど、まじですげえって思いながら。みんな多分、昼ご飯って割とこう、リフレッシュタイムにするから、その時間やっちゃおうって。ちょっとこう、ずる賢くいたいと思って。それは長尾から言われたんですよ。長尾(福岡大医学部進学：巣鴨高卒)から「もっとずる賢くいこう。俺、結構現役の頃、みんなあの、9時過ぎに予備校終わって、そのまま帰るじゃん。で、みんな寝るじゃん。俺(勉強)やってたんだよ」とか言ってて。

三橋　言ってた、それ。

藤井　そう。さすがだと。あいつやっぱ性格的にもやっぱ、そういう負けたくないんだろうなって。気持ち強いから。まあそれ本当見習って。浪人のときは結構そうしてたかな。

直前期は、ご飯食べ終わった後、友達呼んで。英語の長文1個だけ。過去問の大問1個ぐらいだったら多分20～30分で読めるから、それをやって、丸付けて駄目だったとか、なんかできたとかやってたかな。本当、直前期は、順天の長文、あれ本当えぐいじゃないですか。

三橋　確かにあれ、えぐいよね。

藤井　あれやって、いやきついなって言いながらも、すごい練習になって。読解、最後本当に、最終調整ってことはしてたから。

三橋　なんか薄先生から、その数学の過去問リストとかやったほうがいいよ、みたいなのもらって、それでまあ、上林さんに。

三橋　いましたよね。「やらない？」みたいに言われて。「いいの？うん、やろう」って言って。上林(防衛医科大学校進学：上林美早紀：桐蔭学園高卒)と楽詩と長田さんと山﨑さん(国際医療福祉大医学部進学：山﨑みのり：大妻高卒)。5人で集まって朝やって。で、結構その5人真面目で、みんな朝7時半集合だったんですけど。全然みんな遅れないでちゃんと来て、ちゃんと時間、予定時刻に始めて、やるっていうのをやってて。本当にその朝の過去問で、自分数学伸びたなって思ってて。あれがあったからこそ結構、今回、東医の数学も8割ぐらいで結構良かったので。

藤井　俺はラウンジで占領して、あのその薄先生の過去問を解くってやって。でそのまま俺は平パン(平野先生：数学科)に聞きに行ってました。授業中とか

一番前に座ってると、「藤井君、どう」とかすごい当ててくださるんで。いじってくださるんで。いじられたら受かるだろって、もうとことんいじられに行って。

三橋　平パンめっちゃいじってくるよね。俺ずっと、元 M1 っていじられて一番前に座って平パン授業は。元 M1 やんって、ずっといじられてました。

藤井　でもそうですね。その数学解いたら、薄先生のプリントだけど、解説は平パンも持ってんだよね。そのプリント頂いたりして。

三橋　あれ、めっちゃよかったよね。

## ここの ( 代官山 MEDICAL の ) 生活は医学部ゼロ学年って感じ！？

三橋　４月、一学期が始まってすぐ、最初は数学はえっと、典さん ( 高橋典先生 ) で、物理が小澤先生で、化学が原先生っていう、神メンツ。本当に、４月からマンツー取ったのが、結構良かったなって思ってて。もちろん本当にきつかったんですよ。その、課題もきちんと出るんで。もともと代官山は ( 課題が ) 多いじゃないですか。かなりハードで、演習も全然できないって思ってたんですけども。でもそのマンツーの時間が、結構吸収できるものが多くて。そのマンツーの時間で、レギュラーの授業で分かったつもりのとこ、曖昧だったり、分からなかったところを、マンツーでしっかりと補えてもらったり。それでプラスアルファとかも教えてもらったりして、まあ、人それぞれだとは思うんですけども、自分はそのマンツーを最初から取っておいて、後悔はないかなって思ってて。先生との信頼関係とかも、結構築き合えたので、早い段階だと。それで自分のことも、結構、性格とかも分かってくれたりして。まあ原先生とか結構厳しいんですよね。

藤井　厳しいね。　　三橋　本当、厳しくて

藤井　怖いんだよね、たまにね。

三橋　そう、怖いんで。結構、自分がなんかそのなんか性格が、結構、なあなあみたいな感じのところもあるので。そこのところを、しっかりと喝！入れてくれたりして、緊張感を持ってマンツーもできたので、そこは本当に感謝しかないです。マンツーの先生には。

藤井　俺はマンツーは良平さん ( 田中良平先生：英語科 ) と原先生とかすごいお世話になってたんですけど。ここは原先生に聞きに行って、あとは龍さんとかにも、龍さん ( 高橋龍先生 ) も本当に、夜間 ( 演習 ) とかでお世話になって聞きに行ったり、こう、だんだんこの先生いいな、この先生いいな、ってこう単元ごとに聞いていったり。英語も冬期までずっと良平さんで、厳しく教えていただいて。なんかプリントがあるんですけど。ひたすら過去問も、もうデータにもリストアップしたプリントとかをひたすらやったり。夏の写経のときとかも、もう本当に SVOC 全部振ったりとか。そういう課題を自分で、自ら良平さんとやったりとか。時間の使い方は本当に。今、大学も似てるもんね。なんか時間割、似てますよ、大学も、ちょこちょこ夜まで、夜まで ( 授業 ) あるけど、そういう日は実習みたいな感じでカウントしたら、代官山 MEDICAL より忙しいし。

三橋　結構ちゃんと授業あるよね。

藤井　ちゃんとあるから、この（代官山 MEDICAL の）生活が医学部に入るゼロ年目だったっていうか。大学入ってからも、ま、きついけど。代官山 MEDICAL でもちょっとやったしっていう。

三橋　うん。うん。なんか活かされてる。

藤井　活かされてる。ちゃんとね。時間の使い方。あとは自分で勉強して、いつこの先生にどう、どうやって聞きに行くとか、質問とかもまあできるしっていうのは、代官山 MEDICAL の生活のおかげじゃないですか。本当に多分、先輩たちも言ってるだろうけど。

三橋　もう、代官山 MEDICAL がきつかったからこそ。結構、今。

藤井　そう、そうだね。ちゃんと時間割があったから。

三橋　ちゃんとやってる感じ。

藤井　多分他の医専とかだと、ここまで長くはやっていないから、時間的に、さあ、授業数多いもんね。

三橋　本当、多い。授業数は本当に、講義と演習がちゃんとあって。それで耐え得る精神力を持っていけるから、まあ多分、医学部生としても、やっていけるんだろうなっていう気がする。でも、授業、代官山 MEDICAL の授業を切るっていうのは、絶対なかったよね。

藤井　なかったし、絶対しなかった。まじで。

三橋　考えもしなかったよね。

藤井　駄目だったと思う。

三橋　うん。そしたらもう終わり。

藤井　終わった、ってか終わってたと思うんです。

三橋　そこはもう、ちゃんとやって…。

藤井　最初みんな良平さんなんか情報量多いって、割となんか、みんな、まあ嫌がるじゃないですけど。ちょっと多くないって。ここまでやらなくていいよって、なっちゃうと思うんですけど。英語苦手だったので、最初のマンスリー多分、英語だけ極端に偏差値 50.5 なんで。本当に低かったんで。まあ本当、情報量いただけるなら、それにもう本当に食らいつこうと

思って。で、ずっと聞きに行ったりとかして。途中から「藤井ちゃんってどうよ、最近」って聞いてくれるぐらい仲良くなって。本当、情報量はまじですごくて。だから付箋とかつけて、情報量もどんどん増えて。周りからおまえそのノートきもいなとか言われてたんですけど。でも力になったなって思います。

## 一番つらかったときは11月とか直前期だった。

藤井　11月ごろ、本当にやばいなって焦りがあった。まあ散歩もちょこちょこ、土曜日だけしつつ。日曜日一日中、数学の「前期」のテキスト、今週は第1集、じゃあ次の週は第2集って平パンに最初宣言するんですよ。「今週第1集の復習全部終わらせます。14個ありますよね。終わらせます」って言って、「お、頑張れ」って言われるんですよ。で、日曜日とか1日をそれに溶かすんです。もう第1集だけもう超詰め込みで、覚えて、よしOK。で、その次の日曜日は第2集、よしOKってなことを、やったりして。それだとなんか1個の目標だから、割と達成はしやすくて。そのちょっとモチベーションも、よし、今日やった、終わったっていうふうになれるし。で、メンタルは保ってたような気がする。だから、どんどん復習も早くなるし、平パンに宣言したからやらなきゃいけないし。そういう復習やってました。そこが辛かった。楽しかったけど。

三橋　自分はそう、本当、受験直前、本当直前なんですけど。岩手の1日前とか、小澤先生から宿題が出されて、東医だったかな。物理の過去問を解いてこいって言われてて、でもなんかできなくて、もう直前でこれは本当やばいって思って。その負の連鎖でなんか落ちちゃうかもって思ってたんです。もう東医どころか他の大学も、もうやばいんじゃないかな、みたいな。どんどん負のループに陥っちゃってて。小澤先生に、そのまあ、「どうしましょう」みたいに言って。でも小澤先生が、「そんな全部を完璧にしようとしなくていい」みたいに。その「三橋はこれまでやってきたことを、ちゃんとやってれば、本当に絶対大丈夫だから」みたいに励まされて、ちょっとなんか泣いちゃって、小澤先生とマンツーで結構、感極まっちゃったんですよね。そこで本当に、小澤先生に自信付けられたっていうのもあって、受験に入ったっていう感じで。本当、その受験の直前が、なんか辛かったなっていうのはありますね。あともう一つは、東医の発表待ってるとき、補欠発表っていうときに、40番台だったんですけど、まあ結構回る番号だと思いきや、全然来なくて、不安で不安で…。

藤井　来なかったな。まじ回って来なかった。

三橋　本当来なかったよね。

藤井　1回、電話(大学に)、血迷って電話しちゃいましたよね。来ないっす。

三橋　石井先生にも何回も相談しに行って。

藤井　行ったね。

三橋　まあ絶対しつこかったと思うんですけども。

藤井　きつかったね、あの頃ね。

三橋　結構、そう相談しに行って。もう、なんでこんな回んないんですかねって言って。

藤井　萌々奈(東京医科大進学:田村萌々奈:作新学院高卒)と俺と三橋で、3人で相談に行って。石井先生にも、なんか東医は3月30日に来ますって予言されてて。

三橋　結果3人連続、連続で来たから。3月30日に来たので。まじで、嬉しかったたよね。

藤井　来た、本当に。そうちょうど来た。そこに(30日に)来たからね。すごいよね。

三橋　やっぱり石井先生すごいなあって思いましたね。

藤井　さすが。

三橋　さすが石井先生って、経験が。本当さすがって思いましたね。まあ、その二つが自分が一番辛かったなっていう感じはありますね。一番辛くなっちゃいけないときになっちゃったけど。でも、辛くてもまあ、受験を乗り越えたので、まあいい経験ができたなって思いましたね。

卒業生が語る

# 合格への軌跡2023年

WAY TO SUCCESS

福岡大医学部２次合格

やることが決まってて予定がぱんぱんのほうが、無駄な時間過ごさずに済むかなっていう感じがしますね。大手予備校みたいに、授業だけで終わりっ、てなるともたない…(笑)

福岡大医学部進学　猪俣 丈 君（桐蔭学園高校卒）

## 現役で空回りだったけど、代官山での浪人生活でやり切れました。

猪俣丈です。高校は、桐蔭学園出身です。福岡大学医学部に進学しました。えー、1 次合格は、福岡、杏林、東北医科薬科、金沢、獨協で、2 次合格いただいたのが、福岡大学一つです。医学部受験する中で、自分の中でやる気が出てきたのは、高 2 の冬くらいからですね。けど、自分も受験初めてだったんで、何ていうんですかね、空回りっていうか、やりきれなかった感はすごいですね、やっぱ、中途半端だったかなっていうイメージが強いですね。現役だと、どうしても夕方からぐらいしか時間って取れないし、制約は大きかったんで、まあ。浪人して、やっぱ学校 ( 高校 ) ないんで、そうするとまあ、ここ来るしか特にやることないんで、割となんか、ここでやること決めてもらって、授業やら課題やらで濃密な時間があったおかげで受かったみたいな感じの結果なんですけど。

最初の前期は授業と課題 ( レビュー ) とマンツーマンとかで時間割がぱんぱんだったんで、まあしんどいっちゃしんどかったけど、浪人になって、そのときのほうが、忙しく勉強に集中してたなっていう感じがしますね。それでも、2 学期とか割とダラらけてしまってたんで、なんで、やっぱ、やること決まってて予定がぱんぱんのほうが、無駄な時間は過ごさずに済むかなっていう感じがしますね。どこぞの大手予備校とかみたいに、授業だけで終わりってなっちゃうと（笑）

## 学科の質問に答えてくれるだけじゃなくて、生活面でも適切な答えを先生方が与えてくれた。

質問によく行ったのは、やっぱ菊本先生に、とにかく課題っていうか、これやってこい、あれやってこいって、いっぱい指示もらってたんで、それを片っ端からプリントをやってて。先生がマンツーマンで使ってるプリントがあるんですよ。それを片っ端から解いたんですよ。最初は理論をやって、で、無機、有機って感じで、こう、どんどん変えていって、で、最後のほうはなんか、過去問みたいな感じのやったりして。で、なんか、終わったら持って行って、次のもらうみたいなやりとりが、一番多かったと思うんですけど。菊本先生だけじゃなくても、ほかの先生方もとにかく課題をたくさんくれました。

あと、なんか、受験期近づいて、受験期、割と直前に生物の成績が格段に落ちたんですよ。で、それを緒方先生に、生活態度や生活習慣の緩みが原因だろうって言われたことがありますね。やっぱ、( 代官山に ) 来るのが遅過ぎるって言われて、そこら辺からちょっと直そうと思って、来る時間を早め始めたっていうか、やっぱ、教室の授業やってる所から、たまに見えたりするっぽいんで。こっちのこと気にしてくれてるっていうか、まあ厳しいことも言ってくれる先生たちが多いっすね。

## モチベーションが下がるタイミングがありつつも、何とか耐え抜くことはできた。けど石井先生にもいろいろ見抜かれてました（笑）

そんな感じで 1 学期は、なんかすごい、やる気があったし、勉強だけに集中してたんですよ。でも 7 月 ( のクラス分けで ) に A3 から A4 に落ちて、で、まあ確かに、この結果（偏差値 50.1）見て、ま、しょうがないんっすけど、もうそのときの自分が、もう、それが、どうしても嫌で、こう下がったっていうことが嫌過ぎて、で、だんだん勢いがなくなっていって。夏期講習とか一番大事な時期に、全然やる気が出なかったですね。あと、さっき言ったみたいに受験直前でも気分が落ちてて。でもやっぱ、石井先生にはちゃんと見抜かれてたんっすよ。11 月の面談で言われたんすよ、君はなんか急にちょいちょいスイッチ、オフにするよね、みたいな ( 笑 )。受験後半ではちゃんと成績上がって、石井先生にも、まぁ特別悪くもない評価をいただけたので、そんなに言われなかったんですけど、面談の後とかも。まぁ 7 月あたりにやる気をなくした時期があったのは改めて反省っすね。でも、なんだかんだいって、確か化学と生物だけはサボらなかったんすよ。でも英数って、なんか、結構時間かけてやらないとだめじゃないですか、やっぱ、そこで最低限授業を受けて、課題とかをやってたんで、現状維持はできてて、なんで、その 2 科目だけは現状維持だったんですよ、最後まで。ほぼ最後まで現状維持で、こう理科だけ上がったんで、成績も一応上がったみたいな、はい。

## やっぱりマンスリーテストでランキングに載りたいから頑張れました。

そういった意味でもモチベーションを保つにはマンスリーテストのランキングをやっぱ意識しないとっすね。9 月に初めて化学が ( ランキングに ) 載って、で、

10月以降は、総合も載るようになったみたいな感じで。もう、夏の結果が出てきた感があって、第2回のマンスリーが37.5とか、まあ、そんなもんしか出なかったんですけど、9月で52.4で、55.5、56.8って感じで、定着してきたって感じっす。化学は12月に68あったんすよね。最初トップ10目指してたんですよ、そしたら、菊本先生にも、いや、それは厳しいでしょうとか、ずっと言われてて。で、その初めてランキングに載った9月ぐらいからトップ30に入って、30なら妥当かなみたいな、まだ可能性あるかなとか、そういう話してたんですけど。で、最後トップ10に何とか入れましたね。そう考えたら継続してやってかないといけないっすね。集団の授業が好きだった菊本先生で、マンツーも取ろうっていって。で、結局、冬期までずっとお世話になって。集団だと割と手を動かさせてくれるんですよ。なんで、暇にならないですね。授業で退屈にならないっていうのは、結構いい授業だなって思ってて。あとは、私立医学部って時間ないじゃないですか、試験の(短い)時間。なんで、基本的に結構なんか、全部覚えろ覚えろっていう先生多いんですけど、菊本先生は、割と覚えること最小限で構わん、作れればいいみたいな感じの。なんで、公式も、なんか訳分からん公式とか覚えろっていう先生もいるんですけど、でも意外と、考えれば作れるよねみたいな。そのベースとなる考え方を理解して、だったらこう考えればこういう式もできるんじゃないみたいな。暗記力でごり押すっていうよりも、割と思考派なんで、自分が。なんで、自分はそっちのほうが合ってたなって。

## けど理科に傾倒しすぎたことが反省でした。

結構、化学・生物漬けみたいな感じだったんで。その代わり英数を結構、軽視したなっていう、ていうイメージなんですよね。やっぱ浪人ならではですけど、理科が現役生に比べて伸ばしやすくて、点数もとれるようになって、そっちに全振りした感じがするんです。多分もっと時間かかるんですよ、英数って。でも、理科って、やってその内容出たらすぐ点数になるじゃないですか。生物も、浪人になって、マックス63.8も出せたんで。振り返ってみるとバランス悪い。英数をもっと手つけてれば、もっと1次出せてたかもしれないです。だって、同期で、首都圏に残れなかったのって、もう僕ぐらいなんですよね。あとみんな、聖マとか、東医とか行ってるんで、やっぱ悔しいって気持ちは、割とありますね。ていうか、受かった瞬間は、うれしいのほうがもちろん強かったんですけど、なんかちょっと一呼吸を置いてみれば、そう言われてみれば、俺だけかみたいな。なんか、俺だけ福岡で、あとみんな東京と神奈川残ってんなと思うと、いや、やっぱサボったのは、駄目だったなっていう、まあ。これから目指す人たちには、意識はしてほしいよなって感じです。

## それぞれに与えられていた自習席という環境があって頑張ることが出来た。

自習席1人1個確保されているっていうのは、やっぱ良かったですね。いつ行っても、なんか勉強する場所あるじゃないですか。あとやっぱなんか、その、周りの姿が見えるじゃないですか、自分の席から。それもなんかいいですよね。自分だと、右斜め後ろに、獨協行ったフジイレイ（藤井 伶衣：獨協医科大進学：田園調布雙葉高校卒）がいたんですよ。あ、めっちゃやってるなあと思って。そんとき自分がだらけてたとしたら、何ていうんですか、背徳感みたいな感情がすごかったです（笑）そういうのがあったんで、学習効率が良くなったんで。そういう面でも、頑張ってる人が見れるってのは、いいと思うんですよね。あと(自習)部屋が違ったんで直接は知らないんですけど、本当に1日数回しか、自習室から出てこない人もいるらしいじゃないですか。なんか、オシクボ（押久保 勇斗：日本医科大学進学：芝浦工業大学附属高校卒）とか全然動かなかったって。そういう意味で、勉強面でいい刺激になったみたいな。あと、あんまり周りとつるむことも多くなくて、昼ご飯とかも、割と1人のことが多かった気がします。無駄話をしないで、時間を使おうと思ったら1人で使えるっていう。まぁでも、その中でも話すことが多かったのは、マンスリーの結果とかでフジイユウ（藤井 祐：東京医科大学進学：成蹊高校卒）とかですかね。

## 勉強だけに専念できるようにしてくれた両親には感謝。代官山がきっちり管理してくれていたので（笑）

うちは何も変わらず高3のときからずっと、基本的に口出しなしで。僕の身の回りの、食事とか、洗濯とか、そういう身の回りのことだけやってもらって、勉強に関しては、干渉ゼロでしたね。もう、予備校にお任せしますっていう感じ。自分もあんまり、ごちゃごちゃ、こう横から言われるのがあんまり好きじゃないんで（笑）代官山自体が、結構、言うじゃないですか、朝来いよとか。なんで、別に親にまで言われる必要もないかなっていう感じですね。塾が十分そういう面倒を見てくれると思うんで（笑）